

佐久大学信州短期大学部

2019年度
授業科目表・シラバス

授業科目表 福祉学科 (2019年度入学者用)

授業科目	年	授業科目名	単位	期別	曜日 時限	コード	担当者	掲載 頁	コース選択		国家試験受験資格 取得要件単位数	卒業要件 単位数	
									ケア	ビジ			
教養科目	基礎教養	修学基礎 I	1	前期	火 2	101	斎藤	26	●	●	「修学基礎 I」、 「修学基礎 II」、 「英語 I・中国語 I」 のいずれか、 「コンピュータの基礎技術 I」、 「コンピュータの基礎技術 II」、 「キャリアプランニング」、 「ビジネスマナー」を含む 12 単位以上		
		修学基礎 II	1	後期	火 2	103	斎藤	26	●	●			
		英語 I	1	前期	火 1	105	Mark	27	※	●			
		英語 II	1	後期	火 1	107	Mark	27		※			
		英語 III	1	前期						※			
		英語 IV	1	後期						※			
		中国語 I	1	前期	火 1	113	朱	28	※	●			
		中国語 II	1	後期	火 1	115	朱	28		※			
		中国語 III	1	前期						※			
		中国語 IV	1	後期						※			
	コンピュータの基礎技術 I	1	前期	木 1	121	三池	29	●	●				
	コンピュータの基礎技術 II	1	後期	木 1	123	三池	29	●	●				
	コンピュータの応用技術	1	前期						○				
	キャリアプランニング	1	通年						●				
	ビジネスマナー	1	通年						●				
	一般教養	福祉工学基礎	1	後期	金 1	201	堀籠他	30	○	○	「英語 II・中国語 II」 のいずれかを含む 12 単位以上		
		地域と文化	2	前期	木 4	202	福島他	31	○				
		アクティビティ・ケア	1	前期					○				
		健康と生涯スポーツ	1	後期									
		心理学	2	後期									
日本語表現法		2	後期						○				
資格教養	介護保険事務士	2	後期					○	○	国家試験受験 資格取得要件 単位には加算 されない	卒業要件単位 には加算され ない ※ 福祉ビジネスコースは、 共通必修科目(専門 科目)の指定する科 目及びコース選択科目 (専門科目)の10単位 に振替可		
	福祉情報技術	1	後期					○	○				
	簿記会計	1	後期					○	○				
	秘書概論	2	前期					○	○				
	秘書実務	2	後期					○	○				
	メディカル秘書概論	2	前期					○	○				
	メディカル秘書実務 I	2	後期					○	○				
	メディカル秘書実務 II	2	後期					○	○				
専門科目	共通必修	人間の理解 I (尊厳と自立)	2	前期	水 1	801	倉田	32	●	●	38 単位以上	38 単位以上	
		人間の理解 II (人間関係とコミュニケーション)	2	前期	金 3	802	宮内	33	●	●			
		社会の理解 I (生活の営みと福祉)	2	前期	金 4	803	倉田	34	●	●			
		社会の理解 II (社会保障の制度としくみ)	2	後期	金 4	804	倉田	35	●	●			
		介護の基本 I (介護福祉・介護における自立と尊厳)	-1 -2	4	前期	火 3 火 4	831	宮入	37	●			●
		介護の基本 II (介護における自立と尊厳・ 要介護者の理解と介護サービス)	-1 -2	4	後期	火 3 火 4	833	宮入	39	●			●
		介護の基本 III (要介護者の理解と介護サービス)		2	前期				●	●*			
		介護の基本 IV (安全とリスクマネジメント)		2	前期				●	●*			
		コミュニケーション技術 I	1	後期	金 3	839	宮内	41	●	●			
		コミュニケーション技術 II	1	前期					●	●			
		発達と老化の理解 I	2	前期	金 1	881	倉田	42	●	●			
		発達と老化の理解 II	2	後期	金 2	882	唐澤	43	●	●			
		認知症の理解と介護 I	2	前期	水 4	883	菊池	44	●	●			
		認知症の理解と介護 II	2	後期	水 4	884	菊池	45	●	●			
		こころとからだのしくみ I (医学一般を含む)	-1 -2	4	前期	木 2 木 3	887	唐澤他	46	●			●
		こころとからだのしくみ II (医学一般を含む)	-1 -2	4	後期	木 2 木 3	888	唐澤他	47	●			●

授業科目	年	授業科目名	単位	期別	曜日 時限	コード	担当者	掲載 頁	コース選択		国家試験受験資格 取得要件単位数	卒業要件 単位数		
									ケア	ビジ				
専 門 科 目 コ ー ス 選 択	2	福祉ビジネス概論	2	前期					◎		△ 8 単位 を含む 4 4 単位以上	2 6 単位以上		
		アジア福祉事情	2	後期					◎					
	1	ビジネスインターンシップⅠ	1	後期	集中	813	斎藤	48		◎				
		ビジネスインターンシップⅡ	1	前期						◎				
	2	福祉ボランティア	1	後期						○				
		福祉経営学	2	前期	月 1	821	廣橋	48		◎			△	
	2	福祉と会計	2	前期						○			△	
		生活文化	2	後期									△	
		国際福祉比較論	2	後期						◎			△	
		社会学	2	前期						○			△	
		社会保障論	2	後期						○	△			
	1	生活支援技術Ⅰ	-1 -2	1	前期	月 2 月 3	843	関口他	49		○	●	※ 福祉ビジネス コースは、 コース選択必修科 目(◎)を含む26 単位以上 (但し、国家資 格取得履修者を 除く)	
		生活支援技術Ⅱ	-1 -2	1	前期	水 2 水 3	845	永野他	50		○	●		
		生活支援技術Ⅲ		1	後期	水 3	847	青木他	51		○	●		
		生活支援技術Ⅳ	-1 -2	2	後期	月 2 月 3	849	関口他	52		○	●		
		生活支援技術Ⅴ		1	前期						○	●		
		2	生活支援技術Ⅵ		1	前期						○		●
			生活支援技術Ⅶ		1	前期						○		●
	1	介護過程Ⅰ	-1 -2	2	後期	水 1 水 2	857	永野	53			●		※ 福祉ビジネス コースは、 10単位までを 資格教養科目で 振替可 (但し、指定す る必修科目は除 く)
		介護過程Ⅱ		1	前期							●		
	2	介護過程Ⅲ		1	後期							●		
		介護総合演習Ⅰ		1	前期	月 4	863	関口他	54		○	●		
	1	介護総合演習Ⅱ		1	後期	月 4	865	関口他	54		○	●		
		介護総合演習Ⅲ		1	前期							●		
	2	介護総合演習Ⅳ		1	後期							●		
		介護実習Ⅰ (基礎実習・第1段階実習)		2	後期	集中	871	関口他	55			●		
	2	介護実習Ⅱ (第2段階実習)		3	前期							●		
		介護実習Ⅲ (訪問介護実習)		1	前期	集中	(875)	関口他	(55)			●		
		介護実習Ⅳ (第3段階実習)		4	後期							●		
		障害の理解Ⅰ		2	後期	木 4	885	盛岡	56			●		
2	障害の理解Ⅱ		2	前期							●			
	医療的ケアⅠ		1	後期	月 1	891	宮入他	57			●			
2	医療的ケアⅡ		2	前期							●			
	医療的ケアⅢ		2	前期							●			
	医療的ケア演習 (救急蘇生法を含む)		1	後期							●			
日本語 関連科目 (外国人 留学生 のみ)	1	日本語Ⅰ	1	前期		901	斎藤							
		日本語Ⅱ	1	後期		903	斎藤							
	2	日本語Ⅲ	1	前期										
		日本語Ⅳ	1	後期										
1	日本事情Ⅰ	1	前期		909	斎藤								
	日本事情Ⅱ	1	後期		911	斎藤								
計											9 4 単位以上	7 6 単位以上		

※ 1年次に指定された専門科目の取得単位が40単位未満の場合は進級できないことがある。
 ※ ケア：福祉ケアコース ビジ：福祉ビジネスコース (コース選択の◎は必修、○は選択奨励科目)
 (●は必修、◎コース選択必修、○はコース選択奨励、△は国試選択必修科目)

授業科目表 福祉学科 (2018年度入学者用)

授業科目	年	授業科目名	単位	期別	曜日 時限	コード	担当者	掲載 頁	コース選択		国家試験受験資格 取得要件単位数	卒業要件 単位数	
									ケア	ビジ			
教養科目	基礎教養	修学基礎 I	1	前期	火 2	101	斎藤	26	●	●	「修学基礎 I」、 「修学基礎 II」、 「英語 I・中国語 I」 のいずれか、 「コンピュータの基礎技術 I」、 「コンピュータの基礎技術 II」、 「キャリアプランニング」、 「ビジネスマナー」を含む 12 単位以上		
		修学基礎 II	1	後期	火 2	103	斎藤	26	●	●			
		英語 I	1	前期	火 1	105	Mark	27	※●	※●			
		英語 II	1	後期	火 1	107	Mark	27		※●			
		英語 III	1	前期	月 3	109	Mark	60		※○			
		英語 IV	1	後期	金 1	111	Mark	60		※○			
		中国語 I	1	前期	火 1	113	朱	28	※●	※●			
		中国語 II	1	後期	火 1	115	朱	28		※●			
		中国語 III	1	前期	月 3	117	朱	61		※○			
		中国語 IV	1	後期	金 1	119	朱	61		※○			
	コンピュータの基礎技術 I	1	前期	木 1	121	三池	29	●	●				
	コンピュータの基礎技術 II	1	後期	木 1	123	三池	29	●	●				
	コンピュータの応用技術	1	前期	木 3	125	三池	62		○				
	キャリアプランニング	1	通年	木 1	127	斎藤	62	●	●				
	ビジネスマナー	1	通年	木 1	129	斎藤	63	●	●				
	一般教養	1	福祉工学基礎	1	後期	金 1	201	堀籠他	30	○	○	※福祉ビジネスコースは 上記科目の他に 「英語 II・中国語 II」 のいずれかと 「福祉経営学」を含む 12 単位以上	
			地域と文化	2	前期	木 4	202	福島他	31	○			
			福祉経営学	2	前期	月 1	821	廣橋	48	○	●		
		2	アクティビティ・ケア	1	前期	木 3	204	齊藤日	64	○			
			健康と生涯スポーツ	1	後期	木 3	205	朴	64				
			心理学	2	後期	火 1	207	倉田	65				
	日本語表現法	2	後期	水 3	208	斎藤	65		○				
	資格教養	2	介護保険事務士	2	後期	水 1	301	関口	66	○	○	国家試験受験 資格取得要件 単位には加算 されない	卒業要件単位 には加算され ない ※ 福祉ビジネスコースは、 共通必修科目(専門 科目)の指定する科 目及びコース選択科目 (専門科目)の10単位 に振替可
			福祉情報技術	1	後期	木 3	302	三池	66		○		
			簿記会計	1	後期	木 2	303	土屋	67		○		
			秘書概論	2	前期	月 4	304	斎藤	67		○		
			秘書実務	2	後期	月 4	305	斎藤	68		○		
メディカル秘書概論			2	前期	木 2	306	厚生連	68		○			
メディカル秘書実務 I			2	後期	木 2	307	厚生連	69		○			
メディカル秘書実務 II			2	後期	金 1	308	厚生連	69		○			
専門科目	共通必修	人間の理解 I (尊厳と自立)	2	前期	水 1	801	倉田	32	●	●	38 単位以上	38 単位以上 ※ 福祉ビジネスコースは、 「介護の基本 III」、 「介護の基本 IV」の 2 科目 4 単位を 資格教養科目で 振替可	
		人間の理解 II (人間関係とコミュニケーション)	2	前期	金 3	802	宮内	33	●	●			
		社会の理解 I (生活の営みと福祉)	2	前期	金 4	803	倉田	34	●	●			
		社会の理解 II (社会保障の制度としくみ)	2	後期	金 4	804	倉田	35	●	●			
		介護の基本 I (介護福祉・介護における自立と尊厳)	-1	4	前期	火 3	831	宮入	37	●			●
			火 4										
		介護の基本 II (介護における自立と尊厳・ 要介護者の理解と介護サービス)	-1	4	後期	火 3	833	宮入	39	●			●
			火 4										
		介護の基本 III (要介護者の理解と介護サービス)	2	前期	金 1	835	関口	70	●	●*			
		介護の基本 IV (安全とリスクマネジメント)	2	後期	月 3	837	菊池	71	●	●*			
		コミュニケーション技術 I	1	後期	金 3	839	宮内	41	●	●			
		コミュニケーション技術 II	1	前期	金 4	841	宮内	72	●	●			
		発達と老化の理解 I	2	前期	金 1	881	倉田	42	●	●			
					金 2								
		発達と老化の理解 II	2	後期	金 2	882	唐澤	43	●	●			
					金 1								
認知症の理解と介護 I	2	前期	水 4	883	菊池	44	●	●					
認知症の理解と介護 II	2	後期	水 4	884	菊池	45	●	●					
こころとからだのしくみ I (医学一般を含む)	4	前期	木 2	887	唐澤他	46	●	●					
			木 3										
こころとからだのしくみ II (医学一般を含む)	4	後期	木 2	888	唐澤他	47	●	●					
			木 3										

コンピュータの基礎技術 II (長期履修生 3 年目用)	1	後期	月 4	124	三池	29		
------------------------------	---	----	-----	-----	----	----	--	--

授業科目	年	授業科目名	単位	期別	曜日 時限	コード	担当者	掲載 頁	コース選択		国家試験受験資格 取得要件単位数	卒業要件 単位数	
									ケア	ビジ			
専 門 科 目	2	福祉ビジネス概論	2	前期	水2	811	廣橋	73		◎		26 単位以上 ※ 福祉ビジネス コースは、 コース選択必修科 目(◎)を含む26 単位以上 (但し、国家資 格取得履修者を 除く) ※ 福祉ビジネス コースは、 10単位までを 資格教養科目で 振替可 (但し、指定す る必修科目は除 く)	
		アジア福祉事情	2	後期	水2	812	廣橋	73		◎			
	1	ビジネスインターンシップⅠ	1	後期	集中	813	斎藤	48		◎			
	2	ビジネスインターンシップⅡ	1	前期	集中	814	斎藤	74		◎			
		福祉ボランティア	1	後期	集中	815	三池他	74		○			
	2	福祉と会計	2	前期	木2	822	土屋	75		○	△		△8単位 を含む 44 単位以上
		生活文化	2	後期	金2	823	宮本	75			△		
		国際福祉比較論	2	後期	集中	824	野口他	76	○	◎	△		
		社会学	2	前期	月2	825	内藤	77		○	△		
		社会保障論	2	後期	月2	826	内藤	77		○	△		
	1	生活支援技術基礎編Ⅰ (生活支援技術Ⅰ)	-1 -2	1	前期	月2 月3	843	関口他	49	○	○		●
		生活支援技術基礎編Ⅱ (生活支援技術Ⅱ)	-1 -2	1	前期	水2 水3	845	永野他	50	○	○		●
	2	生活支援技術基礎編Ⅲ		1	前期	水3	853	宮本	78	○	○		●
		生活支援技術基礎編Ⅳ		1	前期	木4	855	甲田	78	○	○		●
	1	生活支援技術障害編Ⅰ (生活支援技術Ⅳ)	-1 -2	2	後期	月2 月3	849	関口他	52	○	○		●
		生活支援技術障害編Ⅱ (生活支援技術Ⅲ)		1	後期	水3	847	青木他	51	○	○		●
	2	生活支援技術障害編Ⅲ		1	前期	火4	851	菊池	79	○	○		●
	1	介護過程Ⅰ	-1 -2	2	後期	水1 水2	857	永野	53	○			●
		介護過程Ⅱ	-1 -2	1	前期	火1 火2	859	永野	80	○			●
		介護過程Ⅲ		1	後期	火2	861	永野	81	○			●
	1	介護総合演習Ⅰ		1	前期	月4	863	関口他	54	○	○		●
		介護総合演習Ⅱ		1	後期	月4	865	関口他	54	○	○		●
	2	介護総合演習Ⅲ		1	前期	火3	867	関口他	82	○			●
		介護総合演習Ⅳ		1	後期	火3	869	関口他	82	○			●
	1	介護実習Ⅰ (第1段階実習)		2	後期	集中	871	関口他	55	○			●
		介護実習Ⅱ (第2段階実習)		3	前期	集中	873	関口他	83	○			●
		介護実習Ⅲ (居宅実習)		1	前期	集中	875	関口他	(83)	○			●
		介護実習Ⅳ (第3段階実習)		4	後期	集中	877	関口他	84	○			●
	1	障害の理解Ⅰ		2	後期	木4	885	盛岡	56	○			●
		障害の理解Ⅱ		2	前期	水1	886	依田他	85	○			●
2	医療的ケアⅠ		1	後期	月1	891	宮入他	57	○		●		
	医療的ケアⅡ		2	前期	金2・3	893	宮入他	86	○		●		
	医療的ケアⅢ		2	前期	金2・3	895	宮入他	87	○		●		
	医療的ケア演習 (救急蘇生法を含む)		1	後期	集中	897	宮入他	88	○		●		
日本語 関連科目	1	日本語Ⅰ	1	前期		901	斎藤						
		日本語Ⅱ	1	後期		903	斎藤						
	2	日本語Ⅲ	1	前期		905	斎藤						
		日本語Ⅳ	1	後期		907	斎藤						
(外国人 留学生 のみ)	1	日本事情Ⅰ	1	前期		909	斎藤						
		日本事情Ⅱ	1	後期		911	斎藤						
計											94単位以上	76単位以上	

※ 1年次に指定された専門科目の取得単位が40単位未満の場合は進級できないことがある。
 ※ ケア：福祉ケアコース ビジ：福祉ビジネスコース (コース選択の◎は必修、○は選択奨励科目)
 (●は必修、◎コース選択必修、○はコース選択奨励、△は国試選択必修科目)

介護福祉士学校指定規則の分類による授業科目表

区分	領域	授業科目名（介護福祉士養成課程）	時間数	単位	必修/選択	開講時期	
専 門 科 目	共通 必修	人間の理解Ⅰ（尊厳と自立）	30	2	必修	1年 前期	
		人間の理解Ⅱ（人間関係とコミュニケーション）	30	2	必修	1年 前期	
		社会の理解Ⅰ（生活の営みと福祉）	30	2	必修	1年 前期	
		社会の理解Ⅱ（社会保障の制度としくみ・介護保険・障害者総合支援法と実践に関する諸制度）	30	2	必修	1年 後期	
		コース 選択	福祉経営学 ※2019年度入学生より	30	2	選択必修	1年 前期
			福祉と会計	30	2	選択必修	2年 前期
			生活文化	30	2	選択必修	2年 後期
			国際福祉比較論	30	2	選択必修	2年 後期
			社会学	30	2	選択必修	2年 後期
			社会保障論	30	2	選択必修	2年 前期
	共通 必修	介護の基本Ⅰ（介護福祉・介護における自立と尊厳）	60	4	必修	1年 前期	
		介護の基本Ⅱ（介護における自立と尊厳・要介護者の理解と介護サービス）	60	4	必修	1年 後期	
		介護の基本Ⅲ（要介護者の理解と介護サービス）	30	2	必修	2年 前期	
		介護の基本Ⅳ（安全とリスクマネジメント）	30	2	必修	2年 後期	
		コミュニケーション技術Ⅰ	30	1	必修	1年 後期	
		コミュニケーション技術Ⅱ	30	1	必修	2年 前期	
	コース 選択	介護	生活支援技術Ⅰ <生活支援技術基礎編Ⅰ>	60	1	必修	1年 前期
			生活支援技術Ⅱ <生活支援技術基礎編Ⅱ>	60	1	必修	1年 前期
			生活支援技術Ⅲ <生活支援技術障害編Ⅱ>	30	1	必修	1年 後期
			生活支援技術Ⅳ <生活支援技術障害編Ⅰ>	60	2	必修	1年 後期
			生活支援技術Ⅴ <生活支援技術障害編Ⅲ>	30	1	必修	2年 前期
			生活支援技術Ⅵ <生活支援技術基礎編Ⅲ>	30	1	必修	2年 前期
			生活支援技術Ⅶ <生活支援技術基礎編Ⅳ>	30	1	必修	2年 前期
			介護過程Ⅰ	60	2	必修	1年 後期
			介護過程Ⅱ	60	2	必修	2年 前期
			介護過程Ⅲ	30	1	必修	2年 後期
			介護総合演習Ⅰ	30	1	必修	1年 前期
介護総合演習Ⅱ			30	1	必修	1年 後期	
介護総合演習Ⅲ			30	1	必修	2年 前期	
介護総合演習Ⅳ			30	1	必修	2年 後期	
介護実習Ⅰ（基礎実習・第1段階実習）			450	2	必修	1年 後期	
介護実習Ⅱ（第2段階実習）				3	必修	2年 前期	
介護実習Ⅲ（訪問介護実習）				1	必修	2年 前期	
介護実習Ⅳ（第3段階実習）	4	必修		2年 後期			
共通 必修	こころとからだのしくみ	発達と老化の理解Ⅰ	30	2	必修	1年 前期	
		発達と老化の理解Ⅱ	30	2	必修	1年 後期	
		認知症の理解と介護Ⅰ	30	2	必修	1年 前期	
		認知症の理解と介護Ⅱ	30	2	必修	1年 後期	
コース 選択		障害の理解Ⅰ	30	2	必修	1年 後期	
		障害の理解Ⅱ	30	2	必修	2年 前期	
共通 必修		こころとからだのしくみⅠ（医学一般を含む）	60	4	必修	1年 前期	
		こころとからだのしくみⅡ（医学一般を含む）	60	4	必修	1年 後期	
コース 選択	医療的ケア	医療的ケアⅠ	30	1	必修	1年 後期	
		医療的ケアⅡ	30	2	必修	2年 前期	
		医療的ケアⅢ	30	2	必修	2年 前期	
		医療的ケア演習（救急蘇生法を含む）		1	必修	2年 後期	

【国家試験受験資格取得要件】

教養科目	12単位以上	卒業要件と同じ
専門科目	82単位以上	選択必修科目の中から8単位以上を履修
計	94単位以上	

科目別シラバス

福祉学科

1年次生科目

授業科目	修学基礎 I	授業 題目	キャリア形成と社会人としての 基礎教養、文書表現 及び大学での学び方を習得する	[1] 単位	前期 火2	コード 101	担当	齋藤 和幸
授業 目的	社会人及び職業人として必要な基礎教養を身につけるために、「読み・書き・聞く・話す・調べる」の日本語力と文章表現力、コミュニケーション能力を高める。また、大学での学び方を知ること、自ら課題を見つけ解決していく力をつけていく。							
到達 目標	(1)高校までに学んだ漢字の正しい読み、書きができる (2)基本的な日本語文法と語彙、表現の基本が理解できる (3)文章表現、敬語表現の基本が理解できる (4)大学での学び方が理解できる (5)コミュニケーションの取り方を養う (6)学びの道筋を理解し、課題と解決の経験を積む							学位授与方針との関連 1
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：シラバス及び授業内容説明・漢字と言葉の小テスト（高校までの学習から） 2回：(1)漢字の正しい読み復習① / (2) Work1 自己紹介から始めよう 3回：(1) // ② / (2) Work2 大学生になるとは/漢字ゲーム「部首」 4回：(1) // 書き① / (2) Work3 大学等はどんなところ 5回：図書館の利用の仕方（図書館にて） 6回：(1)日本語文法・敬語① / (2) Work4 大学・学部・学科について知る 7回：(1)日本語文法・敬語②・都道府県名 / (2) Work5 大学教員・職員の仕事について 8回：(1)小テスト1 / 日本語文法・敬語③ / (2) Work6 キャリアをデザインしよう 9回：(1)日本語文法・敬語④ / (2) Work7 大学生活をデザインしよう 10回：(1)日本語文法・敬語表現① / (2) Work8 大学の授業について知ろう 11回：(1)小テスト2 / 日本語文法・敬語表現② / (2) Work9 大学生活のリスクやトラブル 12回：(1)日本語文法・動詞の活用① / (2) Work10 定期試験を乗り切る 13回：(1)日本語文法・日本語文法・動詞活用② 14回：(1)小テスト3 / 日本語文法・ことば / (2) レポートの書き方 15回：(1)日本語文法まとめ / (2) Work1～10のまとめ・レポートの書き方								全て演習 (個人学習 とグループ ワークを混 ぜて行う)
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「スタディスキルズ・トレーニング」実教出版 (修学基礎 I・II 共通) その他、プリント教材を使用				定期試験[50%],小テスト[40%],課題提出[10%] ※小テスト、課題は毎回コメントをつけて返却 するので復習すること。				
授業時間外学修	事前にテキスト内容を予習し、授業後は文法問題などを復習すること。 そのために前後1時間程度の自学時間を確保すること。							
オフィスアワー	平日の昼休憩時は原則可能。その他「オフィスアワー」表示のある時は可能。							
その他留意点等	授業時間に問題が解決できないときは、オフィスアワーを利用して研究室を訪問すること。							

授業科目	修学基礎 II	授業 題目	キャリア形成と社会人としての 基礎教養、文書表現 及び大学での学び方を習得する	[1] 単位	後期 火2	コード 103	担当	齋藤 和幸
授業 目的	社会人及び職業人として必要な基礎教養をさらに高め、コミュニケーションスキルを活用して学業生活に必要な基本的なスキルを身につける。その上で口頭表現、文章表現を養い、レポートの書き方を学ぶ。また、個人で考えるだけでなく、グループワークを重ねてチームワークを学ぶ。							
到達 目標	(1)個人の学びとグループでの学習の仕方が理解できる (2)文章表現、敬語表現の基礎が理解できる (3)資料の探し方や調べ方が理解できる (4)レジュメやレポートの書き方が理解できる (5)プレゼンテーションの方法が理解できる							学位授与方針との関連 1
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：後期学習の進め方とシラバスの解説 / 前期定期試験のフィードバック 2回：Work11 アクティブラーニングをやってみる / 新聞記事を読む① 3回：Work12 テーマからトピックを取り出す / 新聞記事を読む② 4回：Work13 図書館で資料を探す（図書館にて実施） 5回：Work14 インターネットで情報を探す（コンピュータ室での実施） 6回：Work15 本を手にして読む / 新聞記事を読む③ 7回：文章の書き方（実習記録の書き方例） / 新聞記事を読む④ 8回：Work16・17 図解で考える / 表・グラフを使って考える 9回：Work18 議論の方法を理解する / ことばの学習①接続語 / 新聞記事を読む⑤ 10回：Work19 レポートの文章の特徴を知る / ことばの学習②助詞 11回：Work20 レジュメを作成する（グループ） / 小テスト① 12回：Work21 レポートの基本を知る（グループ） / ことばの学習③助動詞 13回：Work22 レポートを完成させる（グループ） / 小テスト② 14回：発表資料をつくる（グループ） 15回：発表・プレゼンテーションを行う（グループ / 後期学習の振り返り								全て演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「スタディスキルズ・トレーニング」実教出版 (修学基礎 I・II 共通) その他、プリント教材を使用				小テスト[20%],課題提出[30%],レポート[50%] ※小テスト、課題は毎回コメントをつけて返却 するので復習すること。				
授業時間外学修	事前にテキスト内容を予習し、授業後は文章の問題点を整理して課題を提出すること。 そのために前後1時間程度の自学時間を確保すること。							
オフィスアワー	平日の昼休憩時は原則可能。その他「オフィスアワー」表示のある時は可能。							
その他留意点等	授業時間に問題が解決できないときは、オフィスアワーを利用して研究室を訪問すること。							

授業科目	英語 I	授業題目	英語で自分の思い、考えを表現・発信できるようにしましょう。	[1] 単位	前期 火 1	コード 105	担当	Mark Cox
授業目的	自分から積極的に英語でコミュニケーションを図れるようになることを目指しましょう。もう一度学び直しをしようとしている学生、もっと英語の力を身につけたいと考えている学生にも応えていきます。							
到達目標	1. 英語で簡単な応答から始めて、“How are you, today?” “Fine, thank you and you?” から一歩進めてもっと積極的に英会話に参加できるようになる。 2. 学習したことを活用し自己表現が出来るようにスキルを身につけることができる。							学位授与方針との関連 1
授 業 内 容 ・ 計 画 (いずれも演習)								
1回:	“Unit 1. Hello!”		<ul style="list-style-type: none"> ・発音とか文法を気にすることなく積極的に授業に取り組みましょう。 ・海外から本学を訪れる人とも臆することなくコミュニケーションが図れるようになることも目標の一つとなります。 ・わからない箇所があれば担当者に質問しましょう。質問は大歓迎です。 ・各Unitは3回の授業で学習します。 					
2回:	”							
3回:	”							
4回:	“Unit 2. Your world”							
5回:	”							
6回:	”							
7回:	“Unit 3. All about you”							
8回:	”							
9回:	”							
10回:	“Unit 4. Family and friends”							
11回:	”							
12回:	”							
13回:	“Unit 5. The way I live”							
14回:	”							
15回:	”							
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト: 「NewHeadway4thEditionBeginner Student'sBook」 Oxford (英語 I・II 共通)				定期試験[50%], 平常点[50%] ※評価の詳細は最初の授業で説明します。				
授業時間外学修	授業で学んだことは授業外で繰り返し、繰り返し練習をして身につけよう。この練習が自然な英語スキル獲得につながります。							
オフィスアワー	講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示の時は、いつでも来て下さい。							
その他留意点等								

授業科目	英語 II	授業題目	英語で自分の思い、考えを表現・発信できるようにしましょう。	[1] 単位	後期 火 1	コード 107	担当	Mark Cox
授業目的	英語 I で学んだことの上に、自己表現する力を身につけることを目的にして、いっそう深く英語の表現力を楽しく brush upしていきます。							
到達目標	・共に学ぶ仲間とのコミュニケーションを抵抗なく英語でできるようになる。 ・英語で自分の思いや、考えを他者に伝えられるようにスキルを向上させる。							学位授与方針との関連 1
授 業 内 容 ・ 計 画 (いずれも演習)								
1回:	“Unit 6. Every day”		<ul style="list-style-type: none"> ・発音とか文法を気にすることなく積極的に授業に取り組みましょう。 ・海外から本学を訪れる人とも臆することなくコミュニケーションが図れるようになることも目標の1つになります。 ・わからない箇所があれば担当者に質問しましょう。質問は大歓迎です。 ・各Unitは3回の授業で学習します。 					
2回:	”							
3回:	”							
4回:	“Unit 7. My favourites”							
5回:	”							
6回:	”							
7回:	“Unit 8. Where I live”							
8回:	”							
9回:	”							
10回:	“Unit 9. Times pass!”							
11回:	”							
12回:	”							
13回:	“Unit 10. We had a great time!”							
14回:	”							
15回:	”							
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト: 「NewHeadway4thEditionBeginner Student'sBook」 Oxford (英語 I・II 共通)				定期試験[50%], 平常点[50%] ※評価の詳細は最初の授業で説明します。				
授業時間外学修	授業で学んだことは授業外で繰り返し、繰り返し練習しましょう。この練習が自然な英語スキル獲得につながります。							
オフィスアワー	講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示の時は、いつでも来て下さい。							
その他留意点等								

授業科目	中国語Ⅰ	授業題目	始めよう！ 中国語！	[1] 単位	前期 火1	コード 113	担当	朱 芸虹
授業目的	発音を重視しながら、簡単な日常会話を中心に反復練習することによって、聴力、簡単な話す力を身につける。							
到達目標	中国語の発音の基礎知識がわかる。基本的な読み方（ピンインというローマ字、声調、規則）がわかり、読める。簡単な自己紹介ができる。							学位授与方針との関連 1
授業内容・計画								授業方法
1回：ガイダンス：①計画説明；②中国、中国語についての簡単な紹介 2回：単母音（a、o、e、i、u、ü）、声調 3回：子音（唇音：b、p、m、f；舌尖音d、t、n、l） 4回：子音（舌根音g、k、h；舌面音j、q、x；舌歯音z、c、s） 5回：子音（そり舌音zh、ch、sh、r） 6回：複合母音（略：テキスト7ページ） 7回：鼻母音（略：テキスト9ページ） 8回：ピンイン規則のまとめ・発音のゲーム 9回：第1課（あいさつする）（テキスト12ページ～） 10回：第2課（名前を尋ねる）（テキスト16ページ～） 11回：会話の授業 12回：第3課（食べ物を尋ねる）（テキスト20ページ～） 13回：第4課（近況を尋ねる）（テキスト20ページ～） 14回：会話の授業 15回：復習1								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「出きる・伝わるコミュニケーション中国語」白水社（中国語Ⅰ～Ⅱ 共通）				定期試験[40%]，小テスト[10%]，課題提出[30%]，平常点[20%]				
授業時間外学修	毎回授業後の課題をしっかりとやること。小テストは不定期に行うので、復習をしておくこと。							
オフィスアワー	講師控室に「オフィスアワー」の表示があるとき							
その他留意点等	ひたすら読んだり、書いたりすること（又読みながら書くこと）							

授業科目	中国語Ⅱ	授業題目	始めよう！ 中国語！	[1] 単位	後期 火1	コード 115	担当	朱 芸虹
授業目的	発音を重視しながら、簡単な日常会話を中心に反復練習することによって、聴力、簡単な話す力を身につける。							
到達目標	単語の読み方（ピンイン）を補助なく読むことができ、簡単な会話ができる。							学位授与方針との関連 1
授業内容・計画								授業方法
1回：第5課（予定を尋ねる）（テキスト30ページ～） 2回：会話の授業 3回：第6課（場所を尋ねる）（テキスト34ページ～） 4回：会話の授業 5回：DVD（リラックスで中国文化を味わう） 6回：第7課（注文する）（テキスト38ページ～） 7回：会話の授業 8回：第8課（値段の交渉をする）（テキスト42ページ～） 9回：会話の授業 10回：ゲーム（自由会話） 11回：第9課（出来事を尋ねる①）（テキスト48ページ～） 12回：会話の授業 13回：DVD（リラックスで中国文化を味わう） 14回：総合復習 15回：総合復習								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「出きる・伝わるコミュニケーション中国語」白水社（中国語Ⅰ・Ⅱ 共通）				定期試験[40%]，小テスト[10%]，課題提出[30%]，平常点[20%]				
授業時間外学修	毎回授業後の課題をしっかりとやること。小テストは不定期に行うので、復習をしておくこと。							
オフィスアワー	講師控室に「オフィスアワー」の表示があるとき							
その他留意点等	ひたすら読んだり、書いたりすること（又読みながら書くこと）							

授業科目	コンピュータの基礎技術Ⅰ	授業題目	パソコン入門、ワープロソフト / プレゼンテーションソフトの使い方	[1] 単位	前期 木1	コード 121	担当	三池 克明
授業目的	パソコンはあらゆる業務において利用されている。本科目ではパソコンを「知的作業を支援するための道具」として捉え、そのために必要なコンピュータリテラシーの習得を図る。							
到達目標	パソコンの基本的な使い方を身に付ける。具体的にはタッチタイピング能力の習得、ワープロソフトによる文書作成、プレゼンテーションソフトによるスライドの作成を通して、表現したいことを文書やスライドでまとめる方法を身につける。							学位授与方針との関連 1・2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回： オリエンテーション（パソコン、manaba、メールの使用方法） 2回： 【ICTとウェブ1】 ICT能力の在り方、タッチタイピングについて 3回： 【ICTとウェブ2】 ウェブサービスの活用方法（Web検索など） 4回： 【文書作成1】 Wordの基本操作 5回： 【文書作成2】 Wordでテキスト装飾 6回： 【文書作成3】 PowerPointで図解作成 7回： 【文書作成4】 Wordでビジネス文書作成 8回： 【プレゼン作成1】 PowerPointの基本操作 9回： 【プレゼン作成2】 PowerPointの活用 10回： 【プレゼン作成3】 PowerPointのアニメーション 11回： 【DTP1】 DTPとは 12回： 【DTP2】 PowerPointでDTP 13回： 【最終課題1】 展示内容の検討 14回： 【最終課題2】 素材の活用 15回： 【最終課題3】 展示を仕上げ、提出する								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル」noa出版 （コンピュータの基礎技術Ⅰ・Ⅱ・応用技術 共通）					課題提出[70%]，平常点[30%]			
授業時間外学修	簡単でよいので予習復習を心がけ、授業中は必要に応じてメモを取るなどの理解を深める工夫をしてください。							
オフィスアワー	原則、月～木の1～5時限。事前予約は不要です。							
その他留意点等	内容にかかわらず質問が多い学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声を掛けてみましょう。							

授業科目	コンピュータの基礎技術Ⅱ	授業題目	表計算ソフトの使い方、ワープロ/表計算ソフトなどの連携	[1] 単位	後期 木1	コード 123	担当	三池 克明
授業目的	パソコンはあらゆる業務において利用されている。本科目ではパソコンを「知的作業を支援するための道具」として捉え、そのために必要なコンピュータリテラシーの習得を図る。							
到達目標	表計算ソフトによるデータ入力・集計・分析作業の能力を身につける。また作成した図表をWord文書にまとめレポートなどの各種書類を作成する能力を身につける。							学位授与方針との関連 1・2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回： ガイダンス・本科目を受講する心構えについて 2回： 【表計算1】 Excelの基本操作 3回： 【表計算2】 Excelによる表計算 4回： 【表計算3】 Excelによる関数の活用 5回： 【表計算4】 Excelによるグラフ作成 6回： 【表計算活用1】 Excel総合演習（表デザイン、表計算） 7回： 【表計算活用2】 Excel総合演習（関数、グラフ作成） 8回： 【データ分析1】 Excelによる度数分布表の作成 9回： 【データ分析2】 Excelによるクロス集計表（相関表）の作成 10回： 【最終課題1】 仮説の検討 11回： 【最終課題2】 アンケート回答データの取得 12回： 【最終課題3】 Excelを用いたデータ分析と検証 13回： 【最終課題4】 レポートにおける仮説、結果、考察の書き方 14回： 【最終課題5】 Word/Excelを用いたレポート執筆 15回： 【最終課題6】 レポートを推敲し提出する								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル」noa出版 （コンピュータの基礎技術Ⅰ・Ⅱ・応用技術 共通）					課題提出[70%]，平常点[30%]			
授業時間外学修	簡単でよいので予習復習を心がけ、授業中は必要に応じてメモを取るなどの理解を深める工夫をしてください。							
オフィスアワー	原則、月～木の1～5時限。事前予約は不要です。							
その他留意点等	内容にかかわらず質問が多い学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声を掛けてみましょう。							

授業科目	福祉工学基礎	授業 題目	福祉機器・用具の 特性を理解する	[1] 単位	後期 金1	コード 201	担当	堀籠由紀子 他
授業 目的	この授業では介護福祉士をはじめ、福祉関連の仕事を目指す学生が現場で使う福祉機器について勉強するための入門・基礎知識を身に付けることを目的とする。							
到達 目標	福祉用具に興味を持ち、実際に体験することで『安全で快適な介助』とは何かを考える／福祉用具が持つ能力を最大限に発揮できるよう、用具の特性の理解・人力介助での限界について学び理解する／国際福祉機器展に参加し、最新の福祉用具を体験して、福祉用具ユーザーの気持ちに思いを馳せることができる							学位授与方針との関連 1・2
授 業 計 画								授業方法
1回：福祉工学・テクノエイドとは 定義, 歴史, 工学的評価, リスクマネジメント, プランニング等								講義
2回：福祉用具供給の流れ／介護保険・障害者総合支援法を中心に								講義
3回：国際福祉機器展見学のための事前グループワーク 国際福祉機器展とは グループに分かれて見学計画立案								講義
4回：国際福祉機器展見学								学外
5回：国際福祉機器展見学後のグループワークと発表 各グループごとに見学したことについてまとめて発表								講義
6回：起居・移乗・移動動作① ベッド周辺機器 ベッド／ベッドマット／ベッド周囲の手すり／スライディングシート／介護用グローブ								講義/実技
7回：起居・移乗・移動動作② ベッド上ケア 寝返り～起き上がり／ポジショニング								講義/実技
8回：起居・移乗・移動動作③ 位保持装置・車椅子 座位保持装置・椅子の種類と機能, クッション等								講義/実技
9回：起居・移乗・移動動作④ 移乗動作 スライディングボード／介護用リフト								講義/実技
10回：起居・移乗・移動動作⑤歩行関連用具・支援機器 立ち上がり～歩行動作 杖・歩行器、その他の歩行支援機器								講義/実技
11回：身の回り動作 食事と補装具・支援機器								講義/実技
12回：身の回り動作 排泄動作・入浴動作と補助具・支援機器								講義/実技
13回：身の回り動作 更衣・整容動作と補助具 / 自助具作成								講義/実技
14回：身の回り動作 コミュニケーション関連機器								講義/実技
15回：障害・疾患特性からみたテクノエイド / テクノエイド支援取り組み紹介 / まとめ								講義/実技
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
テキスト：「テクニカルエイド～生活の視点で役立つ選び方・使い方」三輪書店 参考文献：「在宅生活で使える！福祉用具ガイド」 総合リハビリテーションVo145 NO.5 2017.5 医学書院						定期試験[80%], 平常点[20%]		
授業時間外学修	福祉用具に興味を持つ機会を日常生活の中で得ることを望みます。							
オフィスアワー	授業日の授業前後15分							
その他留意点等	10～15回は実習室での実技となります。実習着に着替えて受講してください。							

授業科目	地域と文化	授業 題目	高齢者の生活史の理解	[2] 単位	前期 木4	コード 202	担当	福島 邦男
授業 目的	「地域と文化」に関する一般教養を学ぶとともに、高齢者の歩んできた生活や経験を理解し、コミュニケーションの円滑と活用に繋がる地域の歴史・文化の課題を学ぶ。							
到達 目標	一般教養と高齢者の経験や体験に関する内容を課題にして学ぶ。体験型学習を行うとともに、地域資料や芸術文化に直接ふれ合う学習を行うことにより、地域に対する意識の高揚や本科目における学びの活用について理解を深める。							学位授与方針との関連 1
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：「授業内容説明」－前期授業の全体概要・進め方ほか						[福島]	説明講義	
2回：「地域の神社と寺院」－祈りと信仰						[丸山]	講義	
3回：「伝説や昔ばなし」－『古事記』『日本書紀』を基礎にして						[福島]	講義	
4回：「伝説や昔ばなし」－各地に残る伝説や昔ばなし						[福島]	講義	
5回：「文化芸術作品の鑑賞と活用」－近代美術館で鑑賞と講話						[福島]	芸術鑑賞と講話	
6回：「文化芸術作品の鑑賞と活用」－川村吾蔵記念館で鑑賞と講話						[福島]	講話	
7回：「高齢者が親しんだ歌」－わらべ歌・童謡・唱歌・子どもたちの歌						[丸山]	講義	
8回：「高齢者が親しんだ遊び」－高齢者の子どもたちの様々な遊び						[福島]	講義と体験	
9回：「日本の歴史と地域の歴史」－私たちが暮らす地域の姿（1）						[福島]	講義	
10回：「日本の歴史と地域の歴史」－私たちが暮らす地域の姿（2）						[福島]	講義	
11回：「暮らしの変遷を資料から学ぶ」－資料学習と機織体験						[福島]	資料学習と機織体験	
12回：						[福島]	機織体験	
13回：「地域に伝わる方言」－方言の分類と特徴（ことばや方言の基本）						[福島]	講義	
14回：「地域に伝わる方言」－介護に役立つ身近な方言（方言のいろいろ）						[福島]	講義	
15回：「地域の民俗行事」－伝統行事や年中行事						[福島]	講義	
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：『佐久地方で使われている方言』佐久地域文化研究センター 講師作成資料（授業日に配布）					課題提出[80%]，平常点[20%]			
授業時間外学修								
オフィスアワー	授業終了後、希望者に実施							
その他留意点等	①5回・6回を同日に連続で実施・バス移動（佐久市立近代美術館・同川村吾蔵記念館） ②11回・12回を同日に連続で実施・バス移動（佐久市立望月歴史民俗資料館）							

授業科目	人間の理解 I	授業題目	人間の尊厳と自立	[2] 単位	前期 水1	コード 801	担当	倉田 郁也
授業目的	「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自律・自立した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。							
到達目標	状況と環境の中に生きる全体としての人間存在を理解し論述することができる。憲法・社会福祉諸法・世界人権宣言・障害者の権利宣言などの人権に関する基本理念を理解し、論述できる権利擁護諸法の基本理念と自立支援、及び個別援助技術について理解を深め、説明できる。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：人間の尊厳と自立 ①「人間理解」の視点	「人間」を多面的に捉える視点、全体として捉える視点からする「人間」の理解について学習する。						資料配布 演習	
2回：②「状況・環境の中にある人間」の理解	社会的存在であり、さまざまな「状況・環境の中にある」人間であることを理解する						資料配布 演習	
3回：③理念としての「人間の尊厳」	「人間の尊厳」が社会福祉の基本理念であり、尊厳を守る理念・価値観について学ぶ。						講義	
4回：④世界人権宣言・障害者の権利宣言	世界人権宣言、児童憲章、障害者の権利宣言など、基本的人権、「人間の尊厳」を守る理念・精神について学ぶ。						福祉六法・資料の活用	
5回：⑤憲法・社会福祉関係法規定の基本理念	日本の最高法規である憲法や社会福祉諸法の条文中に規定する基本理念を学び、 <u>守るべき規範</u> 、 <u>専門職の行動基準</u> を認識する。						福祉六法・資料の活用	
6回：⑥専門職団体の倫理綱領	日本ソーシャルワーカー協会や日本介護福祉士会で説いている <u>準拠すべき倫理</u> について学び理解を深める。						福祉六法・資料の活用	
7回：⑦自律・自立の概念	「自律・自立」の用語について学習し、自立が主体者の意識的行動であることの理解を深め、積極・消極(自立・依存)の生き方について学ぶ。						講義	
8回：⑧自立(自律)性尊重の原則	主体性の尊重、 <u>自立に向けた生活支援</u> について理解を深める。介護者は、主体的に自立活動する人への支援であるということを理解する。						講義	
9回：⑨自立生活の定義	「生活自立」と「 <u>自立生活</u> 」について理解を深める。社会福祉という生活自立について学習を深める。						講義	
10回：⑩自立した生活の条件	「 <u>自立した生活</u> 」を築く条件について理解を深める。						資料配布・演習 グループ討議	
11回：介護における尊厳の保持・自立支援 ①権利擁護とアドボカシー	「 <u>権利擁護</u> 」「 <u>アドボカシー(代弁)</u> 」の用語について理解を深める。						講義	
12回：②権利擁護への配慮(対策)	配慮・対策としての「 <u>成年後見制度</u> 」、 <u>地域福祉権利擁護事業</u> の活動、 <u>支援活動とケアワーカーの資質向上</u> 、 <u>第三者評価</u> について学ぶ。						資料配付・演習・講義	
13回：③基本的人権の尊重と人権侵害防止策	1789年人権宣言、 <u>生存権・社会権</u> について学び、 <u>人権侵害防止対策</u> 、 <u>アカウンタビリティとエンパワーメント</u> に支えられた支援の重要性を学ぶ。						資料配付・演習・講義	
14回：④自立支援の関係法規定と対策	障害をもつ人について支援する法制度を学び、 <u>ソーシャルインクルージョン</u> の理念に基づく福祉政策の重要性を学ぶ。						配付資料・演習 グループ討議	
15回：⑤自立支援活動と援助の原則	<u>ノーマライゼーションとインテグレーション</u> 、 <u>インフォームドコンセントと選択</u> 、 <u>リーチアウト活動</u> 、 <u>オンブスマン制度</u> などを学習、 <u>バイスティックの7原則</u> を学ぶ。						講義	
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「人間の理解」メジカルフレンド社 (人間の理解 I・II 共通) 参考文献：適宜提示又は配布する。				定期試験[60%]、小テスト[10%]、課題提出[10%]、平常点[15%]、討議時の発表内容[5%]				
授業時間外学修	次回の授業テーマをテキスト等で予習し理解しておくこと。予習時間は30分以上確保すること。							
オフィスアワー	火曜日。研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等	専門用語などは、図書館にある参考文献を読むなどして理解しておくこと。							

授業科目	人間の理解Ⅱ	授業題目	人間関係とコミュニケーション	[2]単位	前期金3	コード 802	担当	宮内 克代
授業目的	この授業では、介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。							
到達目標	「自己」と「他者」の違いを理解し、年齢も生育歴も違う要介護者と良好なコミュニケーションができるようになることを目標とする。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：自己を考える 自分とは誰か？ 自分はどういう人間か？ 自分はどういう人間だと他者に思われているか？								いずれも 演習・講義
2回：人間関係の機能① 自己の形成、自己覚知、交流分析								
3回：人間関係の機能② 役割と欲求、自己形成								
4回：人間関係とストレス ストレスのメリット・デメリット、専門職とストレス								
5回：ストレスコーピング 問題解決型コーピング、感情優先型コーピング								
6回：人間関係を考える 自分にとって魅力的な人とは？ 人と親密になるには？								
7回：援助関係を考える ラポール、心理体験、傾聴、共感								
8回：対人関係とコミュニケーション コミュニケーションの意義、特性、メリット、デメリット								
9回：言語的コミュニケーション① 言葉の機能、話し言葉と書き言葉								
10回：言語的コミュニケーション② 介護職としての言葉遣い、敬語								
11回：非言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーションの機能、場面、方法								
12回：コミュニケーションを促す環境 自らの環境を考える、理想の環境を考える								
13回：介護職としてのコミュニケーション① 肯定的態度と否定的態度、自己一致								
14回：介護職としてのコミュニケーション② 生活場面面接における利用者との会話								
15回：今期のまとめと振り返り 学んだこと、今後に生かせることは？								
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「人間の理解」メヂカルフレンド社 (人間の理解Ⅰ・Ⅱ 共通)				定期試験[60%]，平常点[40%] ※平常点では、グループワークへの貢献度を評価する。 導き出した答えに対し、フィードバックを行う。				
授業時間外学修	2人チームで「高齢者のためのレクリエーション」を考え、皆の前で実践する。 そのための準備とシナリオ作りをしておく。							
オフィスアワー	金曜日 5限							
その他留意点等	演習やグループワークに積極的に参加し、自分の意見を相手に伝える技術を磨くこと。							

授業科目	社会の理解 I	授業題目	生活の営みと福祉	[2] 単位	前期金 4	コード 803	担当	倉田 郁也
授業目的	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解することを目指す。							
到達目標	人の生活の営みが家族、地域社会との関係性を持たずにはありえないこと、すべての人が同時代の社会の「状況・環境の中にある・人」として生活していることを理解し、生活者の視点から「自助・互助・共助」がいかに「生活の質」に関わり、「公助」が自立を実現する上で、いかにその役割を果たしているかを理解し、専門職として役割活動を行うと共に「自己実現」できることを目標とする。							学位授与方針との関連 1・2
授業内容・計画								授業方法
1回：生活と福祉 ①家族の構造と形態	基礎的集団の理解、社会構成の基本単位の学習。 核家族や <u>拡大家族</u> の概念について学習する。							講義
2回：②家庭・世帯・制度としての家族と家制度	概念として理解を深める。							講義
3回：家庭生活の基本機能 家族の生活機能と役割	類型化した生活機能の理解、 <u>家族機能の外部化</u> について学習する。							資料配付・演習 グループ討議
4回：地域 ①地域と地域社会とコミュニティ	概念上の違いを明らかにし、「 <u>共同社会</u> 」の理解、社会関係の類型の理解、方法的概念や実践的概念などを学習する。							資料配付・演習・講義
5回：②社会構造の変容と地域社会の変化	人口構造の変容による「 <u>人口過疎・過密</u> 」超少子高齢社会の進展、女性の社会参加、雇用労働への進出による変化等を学ぶ。							資料配付・演習・講義
6回：社会・組織の概念 ①社会構成と集団概念	<u>第一次集団</u> と <u>第二次集団</u> 、 <u>ゲマインシャフト</u> と <u>ゲゼルシャフト</u> 、 <u>コミュニティ</u> と <u>アソシエーション</u> の概念について学ぶ。							講義
7回：②基礎的「地域集団」	「 <u>地縁のまとまり</u> 」としての理解、「 <u>地縁組織</u> 」として機能してきた「 <u>隣保制度</u> 」、地域福祉の基礎としている「 <u>自治会</u> 」を理解する。							講義
8回：③社会事業団体の設立と活動	民間営利・非営利の団体、 <u>社協活動</u> 、 <u>福祉公社</u> 、 <u>NPO活動</u> 、 <u>ボランティア活動</u> などについて学ぶ。							資料配布・演習 グループ討議
9回：社会、組織の機能・役割 ①組織概念と福祉機能	「 <u>組織</u> 」(organization)概念、 <u>コミュニティ・オーガニゼーション</u> 概念の理解、方法理論として <u>コミュニティ・ソーシャルワーク</u> を理解する。							講義
10回：②地域福祉の組織化と体制整備	<u>エンパワーメント</u> を意識した <u>グループ支援</u> と <u>ソーシャルインクルージョン</u> の理念、 <u>地域自立生活支援と方法</u> について学ぶ。							講義
11回：生活支援と福祉 ①生活支援と福祉	「 <u>生活の質</u> 」QOLについて学ぶ、「 <u>経済・社会変動</u> 」と <u>生活問題</u> 、 <u>自然災害と生活問題</u> 、 <u>伝統的生活問題</u> と <u>新しい生活問題</u> を理解する。							講義
12回：②生活の構造的理解と生活の営み	「 <u>生活時間</u> 」に着目し、生活の営みについて理解、 <u>ライフスタイルの変化</u> (地域社会活動への参加、余暇時間の過ごし方)を学ぶ。							資料配付・演習 グループ討議
13回：③QOL、ADL、IADLと生命徴候	生活の質、日常生活活動、手段的日常生活活動について学び、生活障害、国際障害分類について学ぶ。							資料配付・演習・講義
14回：④生活問題解決への取り組み	<u>生活環境の整備と健康・日常生活活動に対するアセスメント</u> の視点からする取り組みについて学び、国の法施策の取り組みについて学ぶ。							講義
15回：⑤社会福祉の基礎構造改革の基本方針	1970・1980年代の改革に加えて、「 <u>多元的福祉供給システム</u> 」の構築を志向、「 <u>福祉コミュニティ建設</u> 」を課題とした改革を学ぶ。							講義
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「社会の理解」メヂカルフレンド社 (社会の理解 I・II 共通)				定期試験[50%]、小テスト[40%]、研究発表[10%] ※小テストで多く見られた誤答を分析し、フィードバックする。				
授業時間外学修	次週の小テストに備え、その日に学んだことを復習しておく(30分)							
オフィスアワー	火曜日。研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	社会の理解Ⅱ	授業題目	社会保障の制度としくみ 介護保険・障害者総合支援法と 実践に関連する諸制度	[2] 単位	後期 金4	コード 804	担当	倉田 郁也
授業目的	わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援法、さらに個人情報保護や成年後見制度などについて、介護実践に必要とされる観点から基礎的知識を習得する学習を授業の目的とする。介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援法、さらに個人情報保護や成年後見制度などについて、介護実践に必要とされる観点から基礎的知識を習得することができる。							
到達目標	社会保険、公的扶助、社会手当それぞれの概説を学び、高齢者や障害者の日常生活の中で、それらがどのように生かされているか考察することを目標とする。							学位授与方針との関連 1・2
授業内容・計画								授業方法
1回： 社会保障制度 ① 社会保障の概念	用語の最初の使用、ライフサイクルとのかかわりでの理解。「50年勧告」「95年勧告」に結びつけて理解、「概念図」により守備範囲を学ぶ。			資料配付・演習・講義				
2回： ② 社会保障の役割と意義 ③ 社会保障の理念と制度・政策	制度の体系について学び、「95年勧告」で示した課題、問題点(5項目)と5原則の理解、社会保障の役割を理解する。イギリスの第2次世界大戦後の国づくりの「最低限度の生活保障」理念、日本の「50年勧告」「95年勧告」と新しい理念、「05体制」と国民的課題について学ぶ。			資料配付・演習・講義				
3回： 日本の社会保障制度の発達 ① 社会保障制度の基本的考え方と日本国憲法 ② 戦後の緊急援護と社会保障の基盤整備	憲法の前文、13条、14条、そして「生存権保障」の25条との関連において理念と理想を理解する。緊急援護の閣議決定、占領軍の示す基本原則(体制確立の基本)と社会福祉基本法制定、「措置費制度」導入、基盤整備について学ぶ。			資料配付・演習・講義				
4回： ③ 社会保険による保障、皆保険・皆年金 ④ 社会保障と社会福祉の基本法、福祉六法	社会保険の体系について概念図を示し、狭義の社会保険につき学習。「社会保険」につき学習し、国民皆保険、国民皆年金を学ぶ。法定の「社会福祉」について「基本法」と「分野法」につき学習。社会福祉基礎構造改革による基本的方向性確認。法による社会事業の定義について学ぶ。			憲法参照 講義				
5回： ⑤ 社会保障費用の適正化と非効率な制度の改革 ⑥ 地方分権と地域福祉の充実	財源、給付と負担の合理化が問われる状況(背景)について学び、医療制度改革、年金分門の改革「適正化」を学ぶ。「地方分権推進法」「地方分権一括法」による改革、財源をめぐる「三位一体改革」、「基礎構造改革」と社会福祉法(改正法)による地域福祉推進について学ぶ。			講義				
6回： 日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解 ① 社会保障制度のしくみの基礎的理解 ② 社会保険と社会扶助 ③ 公的保険と民間保険制度	社会保険の財源(骨太方針2006と抑制)、積立金の運用損、年金保険と医療保険の給付の財源問題、社会保障の再構築と安心確保の道筋について学ぶ。社会保険の中の2つ「労働災害補償保険」と「雇用保険」について学習。社会保険と社会扶助との関連において社会的保障について学ぶ。経営主体の性格による分類の学習。任意保険と強制保険について学習。保険者、対象となるリスクの理解。生活保障の三層構造、私的保障・企業年金等を学ぶ。			概念図使用 制度の歴史変遷 講義				
7回： 現代社会における社会保障制度 ① 社会保障制度の問題状況と課題 ② 社会保障の給付と負担 ③ 持続可能な社会保障制度の構図	人口構造の年次推移、経済成長率と国民負担率などとの関連において、特に給付と負担との間の矛盾(問題)派生について学習する。財政・社会保障改革を実施した場合の「経済成長率」と「国民負担率」を示す図、給付と負担の見透しを示す図から改革を考える。欧米の改革モデルを学び、政府主導の改革(小さな政府)への三位一体改革と「安心・安全」の再構築について学ぶ。			概念図及び福祉六法を使用・講義				
8回： 介護保険制度 ① 介護保険制度創設の背景と目的 ② 介護保険制度の動向(改革)	長寿社会対応の「ゴールドプラン」策定、福祉関連八法改正、「21世紀福祉ビジョン」、「制度創設の報告書」を基に法制定、目的・理念提示。高齢化の進展による要介護者等の倍増、保険給付費もまた倍増、制度持続可能性が課題。予防重視型システム、地域包括センターを学ぶ。			資料配付・演習・講義				

(次ページへ続く)

授業内容・計画		授業方法
9回： ③介護保険制度の全体像 (基本的しくみ) ④介護サービス利用までの流れ	介護保険の保険者と被保険者、保険給付と利用者負担の学習。 要介護者・要支援者・法定の特定疾患について学ぶ。 介護認定の申請、心身の状況調査、介護認定(一次、二次)判定、 介護サービス計画、サービス給付の流れを理解する。	資料配付・ 演習・講義
10回： ⑤介護サービスの種類・内容、 情報の公表 ⑥制度における組織・団体、 専門職の役割	法定の疾患の理解、在宅及び各施設のサービスの種類、内容と サービス費、情報の公開について学ぶ。 国、地方公共団体の役割、指定サービス事業所及び国民健康保 険、団体連合会の役割、関連専門職の役割について理解する。	資料配付 演習・講義
11回： 障害者支援 ①障害者総合支援法創設の背景	基礎構造改革の基本方向の法定化の一環、「新障害者プラン」 の示す施策の路線に沿って創設した、障害者支援制度の背景 を理解する。	資料配付・ 演習・講義
12回： ②障害者総合支援法の目的 ③障害者総合支援法の 仕組みの基礎的理解	法制定のねらいは、「サービスの一元化」「自立支援」「資源活用 のための規制緩和」「手続き・基準の透明化・明確化」「費用負 担の見直し」(応益負担、自立支援促進について理解する。 給付と負担、障害者総合支援法における事業者・施設、及び専 門職の役割、障害福祉計画、サービスの種類・内容について学 ぶ。	資料配付・ 演習・講義
13回： ④障害者総合支援の サービス利用までの流れ ⑤障害者総合支援法における 組織・団体の機能と役割	障害程度の区分、障害福祉サービス、制度上の介護・医療・障 害程度区分の認定、「受給者証の交付」「支給認定」「不服審査請 求」について学ぶ。 障害者総合支援法の条文規定、「支援法施行規則」や「障害福祉 サービス事業の設備及び運営に関する基準」の条文規定から 学ぶ。	図を参照し演習・ グループ討議
14回： 介護実践に関連する諸制度 ①権利擁護の制度の概要 ②保健医療関係法制度と施策	利用者個人の権利を守る「個人情報保護」「成年後見」「消費者保 護」、特に「社会福祉士及び介護福祉士法の倫理規定」について 学ぶ。 「第1次・第2次国民健康づくり対策」「21世紀における国民健 康づくり運動」(健康日本21)、感染症、難病、エイズ、医療と施策 に関する法知識を学ぶ。	資料配布・演習 グループ討議
15回： ③利用者の生活支援と生活扶助	自助・共助(互助)の限界に陥った場合は、社会福祉(生活保護) 法による支援、「保護の原理・原則」に基づく「措置サービス」が あることを学ぶ。	
テキストおよび参考文献		成績評価の方法
テキスト：「社会の理解」メヂカルフレンド社 (社会の理解Ⅰ・Ⅱ 共通)		定期試験[50%],小テスト[40%],研究発表[10%] ※小テストで多く見られた誤答を分析し、 フィードバックする。
授業時間外学修	次週の小テストに備え、その日に学んだことを復習しておく(30分)	
オフィスアワー	火曜日。研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。	
その他留意点等		

授業科目	介護の基本 I	授業題目	介護福祉 介護における自立と尊厳	[4] 単位	前期 火3・火4	コード	担当	宮入ひさ枝
						831		
授業目的	介護の歴史や介護問題の背景を通して、「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、法改正による介護福祉士の定義や専門職としての社会的役割や他職種との連携、地域との連携を視野にいれ、介護福祉士としての介護実践スキルを身につける事を旨とする。							
到達目標	「介護」の定義、介護福祉士の役割、他職種連携における機能と役割、介護を取り巻く現状と課題について理解を深め、「尊厳の保持」「自立支援」を踏まえた介護実践能力を養うことができる。							学位与称号との関連 2
授業内容・計画 (授業方法：講義・演習・具体例の教示・テキスト内の問題について議論する)								
1回：オリエンテーション 介護福祉士のイメージ	授業の進め方、レポートの扱い、評価について周知徹底を図る。この科目は、介護の基盤となる科目であることを理解する。							
2回：介護福祉士を取り巻く状況① 介護の歴史	日本の介護の歴史(家族の世話、施設の寮母、家庭奉仕員、特別養護老人ホームへの入所:介護措置制度、社会福祉基礎構造改革＝措置から契約へ、尊厳の保持について学ぶ。							
3回：介護福祉士を取り巻く状況② 介護問題の背景	人口構造の変化(超少子高齢化、平均寿命、合計特殊出生率)、家族形態(核家族)、女性の社会進出、家族機能の変化＝介護の社会化、介護ニーズの変化について理解する。尊厳保持(人権尊重)の理念。他国の介護状況と比較して理解する。							
4回：介護福祉士を取り巻く状況③ 介護問題の背景	独居老人と孤独死、高齢化と老化(認知症、骨折事故、医原病)と生活機能の減退、自殺、心中、家族の介護機能低下、高齢者虐待問題の増加と背景、家族への支援について理解する。介護福祉士誕生の背景と介護保険法施行について学ぶ。							
5回：介護福祉士を取り巻く状況④ 介護問題の背景	時代の変化、社会の変化に伴う介護ニーズの変化、生活観の変化に対応した「介護の社会化の意味」と「介護の専門職化」への変化について理解する。団塊の世代が65歳になりきる2015年までに高齢者介護の在り方(尊厳を支える介護)の報告書(2003年6月)の意味を理解する。							
6回：介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ① 社会福祉士及び介護福祉法	法改正のポイントを理解する。(介護福祉士の定義：「心身の状態に応じた介護」と変わった意味)、養成制度と登録制度について理解する。							
7回：介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ② 社会福祉士及び介護福祉法専門職団体の活動	介護福祉士の義務と専門性を理解する。看護師の業務独占と介護福祉士の名称独占の違いと意味を理解する。専門職能団体(日本介護福祉士会)としての役割・機能を理解し、その活動、会の倫理綱領の説くところを理解する。							
8回：介護実践における連携① 多職種連携(チームアプローチ)	介護を必要とする人のもつ生活課題(生命の安全、心身の障害、疾病、QOL、ICF)に示されるさまざまな障害の理解とチームによる支援の必要性とそのチームに参加する職種(仕事の役割)について理解する。							
9回：介護実践における連携② 多職種連携(チームアプローチ)	生活課題解決のための多職種連携の必要性について理解する。連携の意義と目的の理解、他職種の機能と役割、連携について理解。医療行為に関する考え方の理解、保健医療職の機能と役割、その他の関連職種の連携を理解する。							
10回：介護実践における連携③ 多職種連携(チームアプローチ)	介護福祉士の気づき(観察の基本姿勢が相手を気づくこと：関心を示し、五感を駆使して相手の立場に立って行動できること、感性で受けとめること)をどのように連携に結びつけるか、施設の中での多職種連携を理解し、在宅と施設の連携について理解する。具体的な事例に基づいて「気づき」をどのように連携につなげるかを考える。							
11回：介護実践における連携④ 多職種連携(チームアプローチ)	他の職種から期待され、介護を必要とする人の生活課題解決に、どう連携に関わるか、介護福祉士の役割について理解する。他職種の機能・役割、連携のあり方についての一環として、ゲストスピーカー(訪問看護師、医師、訪問介護員)の話を聞く。連携の必要性とあり方について考える。							
12回：介護実践における連携⑤ 多職種連携(チームアプローチ)	住みなれた地域社会で生活を続けるのに必要な「介護・福祉」の基盤整備について考え、生活の場を拡大する上で地域連携の意義・目的を理解することが大切であることを考える。(地域連携の意義と目的の理解)。地域住民、ボランティア等のインフォーマルサービスの機能と役割、共助・互助の必要性、地域資源をどう活用して連携して支援の輪を広げるかを考える。							
13回：介護実践における連携⑥ 地域連携	障害をもち、在宅で一人暮らしの生活を送っている人が「どのような生活」を送っているか、ICFに即して、障害をもつ人の生活課題にどう支援することが大切か考える。ゲストスピーカー(障害をもつ人)の話を聞いて、障害者の生活を理解する。							
14回：介護実践における連携⑦ 地域連携	障害をもって在宅生活している人に対する支援では、特にノーマライゼーションの理念、「尊厳の自立」の介護支援が重視されることを理解する。介護保険の改正法に基づいて「地域包括支援センター」が創設される。地域で「包括的支援事業」を実践する中核拠点として機能。その役割と地域の連携について理解する。市町村、都道府県の機能と役割、連携を理解する。「認知症サポートネットワーク」のビデオを見て、地域の中の連携について考える。							
15回：前半のまとめ	学習を振り返り、学習の成果を確認し、次の学習の展開について理解する。							

(次ページへ続く)

授業内容・計画		（授業方法：講義・演習・具体例の教示・テキスト内の問題について議論する）	
16回：自立に向けた介護① 17回：自立支援者と介護者の自律		「人間と社会」の「人間の尊厳と自立」というメインテーマで学習した授業内容と結びつけ、「介護」の分野での生活の自立支援が要介護者の生活の質を高めるものでなければならないことを理解する。 <u>自立と自律、自己決定と自己選択、自立生活と自立支援の概念・考え方を学ぶ。</u> <u>介護者は他者にふりまわされるのではなく自律が求められることを学ぶ。</u>	
18回：自立に向けた介護② 19回：自立支援とエンパワーメント		重度の障害をもつ人であっても、障害をもつことで社会的に不利な状況におかれた人たちのマイナスの側面に着目して支援するのではなく、「パワーレス」（パワーがない状態）に着目するのではなく、 <u>そのもつ力・長所・力に着目し、利用者が自分の能力や長所に気づき、自信をもって主体的に取り組めることを目指す支援</u> について考える。	
20回：自立に向けた介護③ 21回：個別化の原理・個別ケア		人は独自の生活を持ち、独自の生活史を経てきている。生活上の課題も人それぞれである。 生まれ、育ち、病気・障害、生活文化、価値観も違う。バイステックは第1に「個別化の原理」を取り上げている。利用者の個別の情報を集めて検討し、「 <u>介護プラン</u> 」を立てて介護することを重視する。人間の尊厳を最大限尊重した介護が求められていることを理解する。	
22回：自立に向けた介護④ 23回：ICFの考え方と活用		ICFの考え方(新しいICFの障害感を学び、ICFモデルの基本的特徴＝生活機能と障害、 <u>プラス面の重視</u> 、背景因子の構成要素)を学び、ICFの視点からする利用者のアセスメント、 <u>コード化の手順と実際</u> 、 <u>ICFノートの整理</u> を学ぶ。	
24回：自立に向けた介護⑤ 25回：介護保険制度と 介護リハビリテーション		リハビリテーションの考え方(当たり前の生活、その人らしい人生を支援する)について学ぶ。リハビリテーション介護は、「 <u>全人的復権</u> 」を目標とし、その過程がエンパワメントであることを理解する。介護保険制度のもとで「 <u>介護力強化病院</u> 」のリハビリテーション介護について理解する。病院・施設のリハビリテーションと在宅におけるリハビリテーションについて学ぶ。	
26回：自立に向けた介護⑥ 27回：リハビリテーションの実際		「介護老人保健施設」「指定介護療養型医療施設」の見学。特定事例：例えば「 <u>心筋梗塞で入院、脊椎腫瘍と糖尿病の合併症</u> 」の事例について、話を聞き、 <u>リハビリの実際</u> を理解する。	
28回：自立に向けた介護⑦ 29回：介護予防・リハビリ テーション専門職との連携		介護予防(予防的介護実践)について学ぶ。 リハビリテーション専門職との連携、 <u>介護予防ケアマネジメント</u> の基本的な考え方とそのプロセス・手順を理解する。	
30回：授業の総括的理解		メインテーマ「 <u>尊厳の保持と自立支援</u> 」の介護を学習の到達目標とする科目履修であることを再認識し、介護実践に自信のもてる能力を培う学習であることを確認する。 試験とレポートの評価。学生による授業評価。	
テキストおよび参考文献		成績評価の方法	
テキスト：「介護の基本」メヂカルフレンド社 「福祉小六法(2019年度版)」(株)みらい (介護の基本Ⅰ～Ⅳ 共通)		定期試験[70%]、課題提出[10%]、平常点[10%]、 演習・討議の発表内容[10%] ※課題に対しては課題内容を評価しコメントする。	
授業時間外学修	授業評価を毎回実施するので、授業前後の予習・復習を30分は確保すること。		
オフィスアワー	授業時間以外は可能とし、ドアに明示する。		
その他留意点等			

授業科目	介護の基本Ⅱ	授業題目	介護における自立と尊厳 要介護者の理解とサービス	[4] 単位	後期 火3・火4	コード	担当	宮入ひさ枝
						833		
授業目的	「専門職」として基本的考え方や対象となる要介護者について「尊厳の保持」「自立支援」などの理解を深めると共に、人間尊重を基盤とした「介護観」を育み、介護福祉士として利用者のニーズに沿った介護サービスの提供ができる実践能力を身に付けることを目指す。							
到達目標	様々な状況・環境下にある要介護者について理解を深め、利用者のニーズを的確に把握し、倫理に導かれた「介護判断」能力と自立支援に向けた介護実践能力を養うことができる。							学位与付との関連 2
授業内容・計画 (授業方法：講義・演習・具体例の教示・テキスト内の問題について議論する)								
1回：オリエンテーション	この授業で何をどう学ぶか		「人間の尊厳と自立」をメインテーマにしていることをふまえ、介護の科目の基盤となる授業であることを理解する。この授業で何を学ぶか、授業の進め方、課題について説明し、達成目標である「考える力」についてイメージする。ストレングスの視点を重視。					
3回：尊厳を支える介護①	介護のイメージ		「胎児から死まで」人生の生活過程には、さまざまな「生活問題」に遭遇することを理解する。学生の身近な生活の中で、介護について考え、「介護」のイメージを膨らませる。介護従事者の心のもち方、自己覚知、自己開示の大切さを考え、介護支援の関係を築く上で「気づき」が大切であることを理解する。					
5回：尊厳を支える介護②	介護(クオリティインプルーブメント：QI)とQOL		「人間の尊厳と自立」は、生活支援に関わる普遍的原理であり、介護の本質・特性であることを理解する。要介護者の「自己表現」の支援過程では、QOLを高め、「介護の質を高めた」支援が大切であることを理解する。どのようにしてQIを高めるかを考える。					
7回：尊厳を支える介護③	ノーマライゼーションと地域生活支援		社会福祉の原理であり、ノーマライゼーションの理念に基づいた地域生活支援が必要であることを理解する。ノーマライゼーションの思想・概念の歴史的背景について考え、「平等」「機会均等」の思想に立脚した「人間尊重の社会」に向けられた思想・考え方であることを学ぶ。					
9回：尊厳を支える介護④	利用者主体(主体性尊重)		「利用者本位の介護」「自立支援」が介護保険制度、社会福祉基礎構造改革の基本理念であることをふまえ、「利用者主体」(利用者の選択意思を尊重した介護実践)の大切さを理解する。介護保険制度の「利用者主体」の具体的取り組みについて理解する。					
11回：介護従事者の倫理	職業倫理		介護の基本的倫理は、介護を必要とする人を「人間として尊重」し、その人の権利を守ることであることを理解する。介護福祉は、資格条件が規定された国家資格であり、法に規定された倫理条項(45条：信用失墜行為の禁止、46条：秘密保持義務、47条：連携(福祉サービス関係者等との)を守ることが求められている。また、「高齢者虐待防止に関する法」等に規定する倫理、「日本介護福祉士会」の倫理綱領を学ぶ。利用者とは対等の関係にあることを理解する。					
13回：介護従事者の倫理	人権の擁護とプライバシー保護		高齢者虐待防止法の概要を学び、特に「防止法」第2条第5項の虐待について理解し、介護保険制度における「身体拘束禁止」(介護保険指定基準)と人権保障について学ぶ。					
15回：授業の総括的理解(まとめ)	メインテーマ「尊厳の保持と自立支援」の介護を学習の到達目標とする科目履修であることを再認識し、介護実践に自信もてる能力を培う学習であることを確認する。							
16回：介護を必要とする人の理解①	「生活の視点」から「なぜ介護が必要なのか」さまざまな角度から学習することが求められる理由など、学習の授業内容についての確認を行う。演習・講義・レポート・テスト法について確認する。							
17回：介護を必要とする人の理解② 高齢者の生活	「人間の理解」(人間の多面的理解)「介護の基本」Ⅰ・Ⅱ(自立支援)を関連させ、人間の多面性・複雑性につき、高齢者の生活史や価値観、生活感などをとおして理解する。V.ヘンダーソンの説く「基本的欲求」「自立支援」について学ぶ。							
18回：介護を必要とする人の理解③ 生活習慣と生活様式 (ビデオによる学習)	高齢者の生活習慣・生活様式(日常の暮らし、その日その日の一日の生活について、衣・食・住の持ち方、他者との交わりをとおして)を理解する。特定の事例の「暮らし」の実際をまとめ、理解を深める。							
19回：介護を必要とする人の理解④ 健康・生活のリズム (観察による学習)	WHO専門家会議の定義(身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態にあること)の理解のもとに、いかに「日常生活活動」を適切に整えるかを考える。観察が重要な役割を果たすこと。バイタルサインの観察は、異常の発見・予防に大切であることを学ぶ。介護が必要になった時の生活(生活リズム)について考える。生活文化・家族・世帯構成との関連について理解を深める。							
20回：介護を必要とする人の理解⑤ 住まいと環境、就労(雇用)、 収入・生計	高齢者、障害をもつ者の生活は、家の生活空間の構造に深く関わっていることを理解する。働くことの意義、労働の対価(所得)そして「消費生活」を支える生計(家計)について考える。							
21回：介護を必要とする人の理解⑥ 社会活動・余暇活動 アクティビティ・ケア (activity care)	A.マズロー(A.Maslow)の説く、「所属・承認・自己実現の欲求」について理解し、「社会の中で存在感・認められている実感・生きがい感」を充たすのに、何が必要かを考える。「心身ともに活性化するケア」(生命力・生活観を感じ、その人らしさの良い面を引き出すケア)について理解する。							

(次ページへ続く)

授業内容・計画		(授業方法：講義・演習・具体例の教示・テキスト内の問題について議論する)	
22回：介護を必要とする人の理解⑦ レクリエーション支援		レクリエーション支援には、「治療的役割」を担うものと「生活の活性化」「生きがいの役割」を担うものがあるが、要介護者のニーズに応じてその役割や関わり方を異にすることを理解する。要介護者の状況をとらえ、支援の目標・方向性を検討し、支援計画を立て支援し、達成度の検証、妥当性の検証が求められることを考える。	
23回：介護を必要とする人の理解⑧ 障害のある人の生活ニーズ		ICFモデルの基本的視点に立ち、障害のある人の真の「生きることの全体像」を理解するために、「生活ニーズ」の洗い出しを行い、「長所・パワー・強さ」に着目し、エンパワーメントを高めるための支援について理解する。	
24回：介護を必要とする人の理解⑨ 生活を支える基盤 (各種社会保険・生活保護)		生活を支える基盤としての法制度について理解する。福祉六法活用。	
25回：介護を必要とする人の理解⑩ 介護保険・その他のサービス		障害のある人の不利な状況におかれている生活について理解し、障害のある人の生活を支えているサービス(介護保険およびその他のサービス)について学ぶ。	
26回：介護を必要とする人の理解⑪ 障害のある人の生活・生活環境		介護を必要とする障害のある人の生活と生活環境について理解する。ICFモデルの視点、エンパワーメントの視点から生活支援を要する状況(環境)について考える。	
27回：介護を必要とする人の理解⑫ 家族の役割		核家族化がすすみ、家族と同居せず独居生活しているケースが多くなっていること、同居・別居・一人暮らしの家族形態により、法による訪問介護の対応も異なってくる。このことと家族の役割について学ぶ。介護従事者の家族に対する支援について考える。	
28回：介護を必要とする人の理解⑬ 地域との結びつき		介護を必要とする障害のある人・その家族の支援につき、地域との連携、地域の社会資源との連携について理解する。多専門職との連携、福祉機関、施設との支援ネットワークの実際を理解する。	
29回：介護を必要とする人の理解⑭ 地域との連携 ：障害のある人の支援		ICFモデル、エンパワーメントの視点に立った障害のある人の生活支援のために、どう他専門職と支援ネットワークを構築し、施設・機関を連携させるかについて理解する。(グループ討議)	
30回：介護を必要とする人の理解⑮ ①～⑭までの授業の総括		高齢者・障害のある人の「生活を支える介護サービス」について、前回のグループ討議をふまえ、レポートにまとめ、理解を深める。	
テキストおよび参考文献		成績評価の方法	
テキスト：「介護の基本」メヂカルフレンド社 「福祉小六法(2019年度版)」(株)みらい (介護の基本Ⅰ～Ⅳ 共通)		定期試験[70%]、課題提出[10%]、平常点[10%]、 演習・討議の発表内容[10%] ※課題に対しては課題内容を評価しコメントする。	
授業時間外学修	授業評価を毎回実施するので、授業前後の予習・復習を30分は確保すること。		
オフィスアワー	授業時間以外は可能とし、ドアに明示する。		
その他留意点等			

授業科目	コミュニケーション技術 I	授業 題目	利用者・家族との コミュニケーション	[1] 単位	後期 金 3	コード 839	担当	宮内 克代
授業 目的	この授業では、要介護者の心理と環境を理解し、それに基づいて介護者として求められるコミュニケーションのあり方を体得する。さらに、利用者の家族とのコミュニケーション、同僚や他職種との協働におけるコミュニケーション能力を高めることを授業目的とする。							
到達 目標	コミュニケーションの基本技法を学び、さまざまな事例研究を通して、介護現場での利用者 と家族の心に訴えるコミュニケーションができるようになることを目標とする。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：介護におけるコミュニケーションの基本① その人らしい人生や生活を支援するためのコミュニケーション								いずれも 講義・演習 事例研究
2回：介護におけるコミュニケーションの基本② インフォームドコンセントとインターネットフォームドチョイス								
3回：介護におけるコミュニケーションの基本③ ホスピタリティとケアコミュニケーション								
4回：介護におけるコミュニケーションの基本④ 目的とプロセス(プランニングと目標設定)								
5回：利用者との関係を築くコミュニケーション① 好感と信頼感を高めるコミュニケーション(波長合わせ、視線など)								
6回：利用者との関係を築くコミュニケーション② 声かけ・表現・言語的・非言語的(傾聴とうなずき)								
7回：利用者との関係を築くコミュニケーション③ 敬意を伝えるコミュニケーション								
8回：利用者の理解と行動化の支援① 受容と共感のコミュニケーション(利用者の意欲を引き出す技法)								
9回：利用者の理解と行動化の支援② ペーシング、アクティブ・リスニングなど								
10回：利用者の理解と行動化の支援③ 苦情とクレームに対して(利用者の納得と同意を得るため技法)								
11回：利用者の理解と行動化の支援④ 家族への説明と同意(家族の信頼を得るための技法)								
12回：利用者の主体的な行動を促す① コーチングの基礎知識								
13回：利用者の主体的な行動を促す② コーチングコミュニケーションの方法								
14回：利用者の主体的な行動を促す③ コーチングとティーチング								
15回：今期のまとめと振り返り								
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト： 「介護福祉スタッフのためのケア・コミュニケーション」 ウイネット（コミュニケーション技術 I・II 共通）				定期試験[50%] 平常点[25%] グループワークやロールプレイにおける授業への貢献度 [25%] ※導き出した答えに対しフィードバックを行う。				
授業時間外学修	テキストの「理解度チェック」をしておくこと。							
オフィスアワー	金曜日 5限							
その他留意点等	演習に積極的に参加し、グループワークやロールプレイを繰り返すことにより、 現場で使えるコミュニケーション能力を養う。。							

授業科目	発達と老化の理解 I	授業題目	高齢者を理解し、支援する方法を考える	[2] 単位	前期 金 1	コード 881	担当	倉田 郁也
授業目的	人間の成長と発達の過程で老化について理解し、老化に伴う身体機能や心理面の変化の特徴について、基礎的知識と概念を習得する。							
到達目標	老化に伴う身体機能の変化と心理面での変化を学び論述することができる。人間は生涯発達する生き物であり、その過程の中に老化があることを理解し表現することができる。超高齢社会の今後の課題や生きがいの問題について理解を深め、介護福祉としての役割について語ることができる。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回： 導入（科目紹介）	授業の目的・到達目標・授業方法等について説明							講義
2回： 人間の成長と発達 1	1) 人間のライフサイクルと高齢期。「老化」「高齢期」とは何か 2) 様々な思想家が提唱する高齢期の発達段階と発達課題							講義 グループワーク
3回： 人間の成長と発達 2	老年期の定義 ・WHO ・老人福祉法 ・老人保健法の老人医療制度							講義
4回： 人間の成長と発達 3	高齢期の発達課題 高齢期の社会的特性（人格と尊厳・老いの価値・喪失体験）							講義
5回： 人間の成長と発達 4	老年期の発達課題 セクシュアリティ							講義
6回： 社会から見た老年期 1	人口動向、高齢者を取り巻く社会状況							講義
7回： 社会から見た老年期 2	社会福祉制度の変遷と少子高齢社会の要因							講義
8回： 社会から見た老年期 3	家族構成の変化と介護問題（事例検討）							講義・演習
9回： 社会から見た老年期 4	高齢者への虐待（事例検討）							講義・演習
10回： 社会から見た老年期 5	高齢者に関わる社会的課題（医療費・介護負担・介護保険）							講義・演習
11回： ライフサイクルの中の 老年期 1	1) ライフサイクルの変化（高齢期の過ごし方の変容） 2) 個人によるライフサイクルの違いを理解する							講義・演習
12回： ライフサイクルの中の 老年期 2	高齢者と社会の関係 （ソーシャルサポート・ソーシャルネットワーク）							講義・演習
13回： ライフサイクルの中の 老年期 3	終末期・死に対する考え方							講義・演習
14回： 高齢者の心理	自己概念の変化、精神的・社会的役割の変化 ・老化の受容、役割の減少・変化、死別、経済的不安							講義
15回： まとめ								講義
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「発達と老化の理解」メヂカルフレンド社 （発達と老化の理解 I・II 共通） 参考文献：必要時に配布又は提示する。					定期試験[60%]，小テスト[10%]， 課題提出[10%]，平常点[15%]， 演習時の発表内容[5%]			
授業時間外学修	次回の授業テーマをテキスト等で予習し理解しておくこと。予習時間は30分以上確保すること。							
オフィスアワー	火曜日。研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等	専門用語などは、図書館にある参考文献を読むなどして理解しておくこと。							

授業科目	発達と老化の理解Ⅱ	授業題目	高齢者を理解し、支援する方法を考える	[2] 単位	後期 金2	コード 882	担当	唐澤千登勢
授業目的	人間の成長と発達の過程で老化について理解し、老化に伴う身体機能や心理面の変化の特徴について、基礎的知識と概念を習得する。							
到達目標	老化に伴う身体機能の変化と心理面での変化を学び論述することができる。人間は生涯発達する生き物であり、その過程の中に老化があることを理解し述べるができる。超高齢社会の今後の課題や生きがいの問題について理解を深め、介護福祉としての役割について述べるができる。							学位授与方針との関連 2
授業内容・計画								授業方法
1回：心身機能の老化と日常生活への影響1	防衛反応、回復力、適応力の変化							講義
2回：心身機能の老化と日常生活への影響2	身体的機能の変化と日常生活への影響							講義・演習
3回：心身機能の老化と日常生活への影響3	知的・認識機能の変化と日常生活への影響							講義・演習
4回：心身機能の老化と日常生活への影響4	精神的機能の変化と日常生活への影響							講義・演習
5回：高齢者に多い症状・病気1	1) 高齢者にとっての「健康」の概念 2) 「健康」の概念について							講義
6回：高齢者に多い症状・病気2	3) 高齢者の病気の特徴							講義
7回：高齢者に多い症状・病気3	4) 高齢者の症状の現れ方の特徴（痛み、痒み、不眠、冷え）							講義
8回：高齢者に多い症状・病気4	5) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点：心疾患							講義
9回：高齢者に多い症状・病気5	6) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点：脳血管疾患							講義
10回：高齢者に多い症状・病気6	7) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点：糖尿病							講義
11回：高齢者に多い症状・病気7	8) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点：筋・骨格系							講義
12回：高齢者に多い症状・病気8	9) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点：呼吸器疾患							講義
13回：高齢者に多い症状・病気9	10) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点：その他							講義・演習
14回：高齢者に多い症状・病気10	11) 保健医療職との連携：関連職種の役割理解、職種間連携のあり方 12) 救急時の対応							講義・演習
15回：関連職種内の介護福祉士のあり方	高齢者の心身の変化に対応する介護福祉士としての役割							講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「発達と老化の理解」メヂカルフレンド社（発達と老化の理解Ⅰ・Ⅱ 共通） 参考文献：必要時に配布又は提示する。				定期試験[60%]，小テスト[20%]，課題提出[10%]，平常点[10%]				
授業時間外学修	次の授業テーマをテキスト等で予習し理解しておくこと。予習時間は30分以上確保すること。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等	専門用語などは、図書館にある参考文献を読むなどして理解しておくこと。							

授業科目	認知症の理解と介護Ⅰ	授業題目	介護の視点からみる支援の概要 認知症の基礎知識	[2] 単位	前期 水4	コード 883	担当	菊池小百合
授業目的	この授業では、1. 認知症の症状や、原因となる疾患、脳機能との関係を理解する。 2. 認知症の人が抱える日常生活障害を的確に評価し、判断する力を養う。 3. 認知症の人の日常生活を支援するために必要とされる介護技術を学ぶ。 4. 認知症高齢者が暮らす施設や自宅における「介護倫理」を理解することができる。等を目的とする。							
到達目標	この授業を通して、1. 認知症に対する基礎的な知識が習得できる。 2. 認知症ケアの歴史、現状と今後の課題について理解することができる。 3. 認知症高齢者の生活を支える家族支援のあり方、地域サポート体制のあり方について理解することができる。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回： 認知症の歴史と現状 1	1) 「痴呆症」から「認知症」へと名称が変更した経緯 2) 認知症介護の歴史							講義
2回： 認知症の歴史と現状 2	1) 人口動向と認知症高齢者の将来推計 2) 認知症に関する行政の方針と施策 ・センター方式、パーソンセンタードケアの理念・概念							講義
3回： 認知症の歴史と現状 3	1) 認知症に関する行政の方針と施策 ・認知症高齢者支援対策の概要							講義
4回： 認知症の基礎知識 1	1) 脳と認知症との関係							講義
5回： 認知症の基礎知識 2	1) 認知症の定義と診断基準 ・認知症評価尺度、自立度判定、検査内容							講義・演習
6回： 認知症の基礎知識 3	1) 認知症と区別されるべき精神症状 ・うつ病、せん妄、失語、失認等							講義
7回： 認知症の基礎知識 4	1) 若年性認知症の理解 ①ライフステージの特徴と、疾患に対する理解							講義
8回： "	②心理社会的問題、家族への支援							講義
9回： 認知症の基礎知識 5	1) 認知症の原因となる主な病気の症状と特徴 ①アルツハイマー型認知症と血管性認知症							講義
10回： "	②アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い ③病状の進行に合わせた介護							講義
11回： "	④レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、 クロイツフェルト・ヤコブ病、その他							講義
12回： 認知症の基礎知識 6	1) 認知症の症状 ①中核症状・周辺症状(BPSD)とその背景要因							講義
13回： "	②認知症高齢者を取り巻く環境要因 (住環境・人的環境・地域社会)							講義
14回： 認知症の基礎知識 7 認知症の基礎知識 8	1) 認知症の進行状況と治療法 2) 家族も含めた疾病受容のプロセス							講義・演習
15回： 認知症の基礎知識 9	1) 認知症に関連する倫理的課題(虐待)							講義・演習
テキストおよび参考文献							成績評価の方法	
テキスト：「認知症の理解」中央法規 (認知症の理解と介護Ⅰ・Ⅱ 共通) 参考文献：必要に応じ紹介する。							定期試験[50%], 小テスト[20%], 課題提出[20%] 平常点[10%] ※小テストは採点し、次週 必要箇所については再度解説を行う。	
授業時間外学修	適宜小テストを行うので復習をしておくこと。次の章を読み理解しておくこと。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	認知症の理解と介護Ⅱ	授業題目	介護の視点からみる支援の概要	[2] 単位	後期 水4	コード 884	担当	菊池小百合
授業目的	この授業では、1. 認知症の症状や、原因となる疾患、脳機能との関係を理解する。2. 認知症の人が抱える日常生活障害を的確に評価し、判断する力を培う。3. 認知症の人の日常生活を支援するために必要とされる介護技術を学ぶ。4. 認知症高齢者が暮らす施設や自宅における「介護倫理」を理解することができる。等を目的とする。							
到達目標	この授業を通して、1. 認知症に対する基礎的な知識が習得できる。2. 認知症ケアの歴史、現状と今後の課題について理解することができる。3. 認知症高齢者の生活を支える家族支援のあり方、地域サポート体制のあり方について理解することができる。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回： 認知症の基礎知識 1 0	1) 事例を通して倫理的側面を理解する 2) 認知症の人の権利、成年後見制度							講義・演習
2回： 認知症の人への生活支援 1	1) 認知症中核症状、周辺症状の特徴とその対応方法							講義
3回： 認知症の人への生活支援 2	1) 認知症高齢者のニーズに応える介護技術 ・ 好ましいコミュニケーションの取り方							講義・演習
4回： 認知症の人への生活支援 3	1) 連携と協働 ① 地域におけるサポート体制のあり方							講義
5回： 認知症の人への生活支援 3	② 多職種連携のあり方と介護福祉士の役割 ③ 介護福祉士について考えてみる							講義・ グループ 討議
6回： 認知症の人への生活支援 3	④ 連携と協働、介護福祉士の役割について発表 ⑤ 施設へ入所している認知症高齢者の介護							発表・講義・ グループ 討議
7回： 認知症の人への生活支援 3	⑥ 居宅で生活する認知症高齢者への介護							講義・ グループ 討議
8回： 認知症の人への生活支援 3	⑦ 家族支援のあり方							講義
9回： 認知症の人への生活支援 4	1) 認知症介護の原則：センター方式、パーソン・センタード・ケア が目指す利用者本位のケアのあり方							講義
10回： 認知症の人への生活支援 4	2) センター方式を活用したアセスメントの方法							講義・演習
11回： 認知症の人への生活支援 4	3) センター方式を活用した事例検討 ・ アセスメントシートの使い方							講義・演習
12回： 認知症の人への生活支援の事例 1	1) 認知症の人の終末期に向けた支援 ・ 支援の現状と課題討							講義
13回： 認知症の人への生活支援の事例 2	2) 事例を通し終末期に対する支援を考える ・ 事例検討							講義・ グループ 討議
14回： 認知症高齢者の現状と今後の課題								講義
15回： 認知症の予防と今後の課題								講義
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「認知症の理解」中央法規 (認知症の理解と介護Ⅰ・Ⅱ 共通) 参考文献：必要に応じて紹介する。				定期試験[50%]、小テスト[20%]、課題提出[20%] 平常点[10%] ※小テストは採点し、次週 必要箇所については再度解説を行う。				
授業時間外学修	適宜小テストを行うので復習をしておくこと。次の章を読み理解しておくこと。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	こころとからだのしくみ I	授業題目	こころとからだの理解 (医学一般を含む)	[4] 単位	前期 木2 木3	コード 887	担当	唐澤千登勢 盛岡 正博
授業目的	「こころとからだのしくみ」では、介護実践の最も基本的な根拠を学ぶ。これは医療職を中心とした他職種との協働の基盤となり、介護を必要とする人々の安全と安心の基盤となる。本講では次項の達成課題の掲げた項目に関して、適宜状況に応じた説明が出来ることを目標とする。具体的には、介護サービスを実際に必要とする高齢者や家族にも「わかる」よう自分なりに工夫した説明が出来ることを目標とする。							
到達目標	介護サービスを実際に提供する際の根拠を学び理解する。介護を必要とする人々は増加し、その介護ニーズは多様化している。これらに応えられる専門性の根拠となる“こころとからだのしくみ”の基礎を学ぶ。最初は、人間としての基本的欲求や生命維持のしくみ等を理解する。さらに、知識を基盤に、利用者の身支度や食事等の生活を支える介護実践との関係を学んでいく。これらは、今後の学習や実習において、さらに資格取得後により深く学んでいくための、あるいは実践現場で他職種協働の際の基盤とする。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：こころとからだのしくみを理解する必要性・意義/人間の基本的欲求 2回：・「求められる介護福祉士像」に向かう過程での位置づけ。 ・人間の基本的欲求の理解 ■こころのしくみの理解 3回：人間の欲求の基本的理解と尊厳 4回： ・人間の基本的欲求の理解・人間の基本的欲求を踏まえて社会的欲求や尊厳へ結びつける 5回：自己実現(自己実現と生きがいについて理解) 6回： ①自己概念と尊厳の関係 ②自己概念に影響する要因理解 ③自立への意欲と自己実現 ④生きがいについて 7回：こころのしくみの基礎 1 ・こころのしくみに関する基礎概念・事項の整理 8回： 9回：こころのしくみの基礎 2 ・適応のしくみの理解 10回： ■からだのしくみの理解 11回：からだのしくみの基礎 1 ・バイタルサイン、恒常性(ホメオスタシス)について理解 12回： 13回：からだのしくみの基礎 2 ・ICFを利用して人体各部位の構造と名称を学ぶ 1) 14回： ①人体の構造の概要 ②神経系/心血管系を理解 15回：からだのしくみの基礎 3 ・ICFを利用して人体各部位の構造と名称を学ぶ 2) 16回： ①呼吸器系の理解 ②消化器系・代謝系の理解 ③泌尿器系の理解 17回：からだのしくみの基礎 4 ・ICFを利用して人体各部位の構造と名称を学ぶ 3) 18回： ①皮膚及び関連部位の理解 ②運動に関連した構造と名称の理解 ③関節可動域の理解 ④ボディメカニクスの理解 19回：からだのしくみの基礎 5 まとめ 20回： 21回：移動に関連したこころとからだのしくみ 1 ・ICFの運動・移動を利用し移動の概要 22回： ①運動・移動の概要 ②移動行為の生理的意味を理解 ③良肢位を理解 23回：移動に関連したこころとからだのしくみ 2 ・安全安心な移動に関連したこころとからだのしくみ 1 24回： ①立位・座位保持のしくみ ②歩行のしくみ 25回：移動に関連したこころとからだのしくみ 3 ・安全安心な移動に関連したこころとからだのしくみ 2 26回： ①筋力・骨の強化のしくみ ②安全・安楽な移動、姿勢・体位の保持のしくみ 27回：移動に関連したこころとからだのしくみ 4 ・安全安心な移動に関連したこころとからだのしくみ 1 28回： ①移動に関する機能低下の原因と機能低下が移動へ及ぼす影響 ②運動が及ぼす身体への負担 29回：まとめ 学んだことを振り返る 30回： ①学んだことを言葉で表現できる								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社 「別巻1 医学一般」メヂカルフレンド社 (こころとからだのしくみ I・II 共通)				定期試験[60%]、小テスト[20%]、 課題提出[10%]、平常点[10%]				
授業時間外学修	小テストを行うので、復習を必ず行うこと。							
オフィスアワー	平日10:00~18:00。ただし授業時間中は除く。予約不要（必要時予約も可）							
その他留意点等	体調管理を行い、欠席をしないよう心がけてください。欠席届を必ず提出のこと。							

授業科目	こころとからだのしくみⅡ	授業 題目	日常生活動作に関連した こころとからだの基礎知識 (医学一般を含む)	[4] 単位	後期 木2 木3	コード 888	担当	唐澤千登勢 盛岡 正博
授業 目的	「こころとからだのしくみ」は、介護実践の最も基底的な根拠を学ぶ。これは医療職を中心とした他職種との協働の基盤となり、介護を必要とする人々の安全と安心の基盤となる。本講では、次項の達成課題の掲げた項目に関して、適宜状況に応じた説明が出来ることを目標とする。具体的には、介護サービスを実際に必要とする高齢者や家族にも「わかる」よう自分なりに工夫した説明が出来ることを目標とする。							
到達 目標	介護サービスを実際に提供する際の根拠を学び理解する。前期に人間としての基本的欲求や生命維持のしくみ等を理解し、さらに、知識を基盤に、利用者の身支度や食事等の生活を支える介護実践との関係を学んだ。とくにこの授業では、身じたく、入浴・清潔保持、排泄、食事、睡眠に関連したこころとからだのしくみを理解する。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回: 身じたくに関連したこころとからだのしくみ1 2回: 身じたくに関連したこころとからだの基礎知識 ①爪・毛髪・皮膚・口腔などの構造と機能 ②身じたく行為の生理的意味 3回: 身じたくに関連したこころとからだのしくみ2 4回: 身じたくに関連したこころとからだのしくみと機能低下が及ぼす影響 ①機能低下の原因とその影響 ②身じたくの心理的意味 5回: 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ1 6回: 入浴・清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識 ①清潔保持に関連したからだの器官のしくみと機能(皮膚の汚れ、発汗のしくみや機能) 7回: 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ2 8回: 機能低下が及ぼす入浴、清潔保持への影響の理解と変化の把握 ①機能低下の及ぼす影響 ②変化把握の要点 9回: 身じたくと清潔保持のまとめ 10回: セルフケアの視点で身じたくや清潔保持の理解 11回: 排泄に関連したこころとからだのしくみ1 12回: 排泄に関連したこころとからだのしくみの基礎知識 ①尿・便の生成のしくみ ②性状、量、回数などの生理的意味 13回: 排泄に関連したこころとからだのしくみ2 排泄機能の低下がこころとからだに及ぼす影響 14回: ①機能低下の原因とその影響 ②便秘・下痢等に気づくための観察ポイント 15回: 食事に関連したこころとからだのしくみ1 食事に関連したこころとからだの基礎知識 16回: ①からだをつくる栄養素と必要量 17回: 食事に関連したこころとからだのしくみ2 食べることの生理的意味、食行動のしくみ 18回: ①「食事記録」を元に食行動を振り返り、栄養と心理面の評価 ②空腹・満腹、食欲に影響する因子、視覚・味覚・嗅覚等 19回: 食事に関連したこころとからだのしくみ3 食べるしくみと機能低下の原因とその影響 20回: ①食べるしくみ ②機能低下の原因とその影響 ③排泄と食事のまとめ 21回: 睡眠に関連したこころとからだのしくみ1 睡眠に関連したこころとからだの基礎知識 22回: ①睡眠のしくみと生理的意味 23回: 睡眠に関連したこころとからだのしくみ2 睡眠に関連する機能低下の原因と睡眠への影響 24回: ①睡眠に関する機能低下の原因 ②機能低下が及ぼす睡眠への影響 25回: 死にゆく人のこころとからだのしくみ1 「死」の捉え方について 26回: ①生物学的・法律的・臨床的な「死」について 27回: 死にゆく人のこころとからだのしくみ2 28回: 終末期から危篤、死亡時のからだと「死」に対するこころ ①死に関連する機能的・身体的変化 ②家族も含めた「死」に関するこころ 29回: 「こころとからだのしくみ」のまとめ 30回: ①基本的知識の理解と確認 ②学習した事柄を表現できる								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト: 「こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社 「別巻1 医学一般」メヂカルフレンド社 (こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ 共通)				定期試験[60%], 小テスト[20%], 課題提出[10%], 平常点[10%]				
授業時間外学修	小テストを行うので必ず復習を行うこと。							
オフィスアワー	平日10:00～18:00。ただし授業時間中は除く。予約不要(必要時予約も可)							
その他留意点等	体調管理を行い、欠席をしないよう心がけてください。欠席届を必ず提出のこと。							

授業科目	ビジネス インターンシップ I	授業 題目	専門性に関連した就業体験を行う	[1] 単位	後期 集中	コード 813	担当	齋藤 和幸
授業 目的	自らの専門性やキャリアに関連した福祉ビジネスをはじめとする企業等において、実際に就業体験をすることで職業観を拓いていくこと、及び職業意識の向上と学習意欲を高めることを目的とする。 Iは原則福祉施設でのインターンシップとする。							
到達 目標	自らの専門性やキャリア教育を活かすことができ、将来の職業観を確立することができる。 実社会における良好な人間関係を築くために、ビジネスマナーやコミュニケーション力の重要性を認識することができ、学習意欲を高めることができる。							学位授与方針との関連 1・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
授業は時間割上には配置しないで、履修登録者の授業時間を調整して、 授業ガイダンス及びインターンシップ（就業体験）に臨む前に事前講義を2回、 終了後に1回の計4回の予定で学内講義を実施する。 第1回：授業ガイダンス、インターンシップとは、 インターンシップ・エントリー、履歴書作成 第2回：事前講義① 業種や職種を調べる、コミュニケーションスキル、ビジネスマナー 第3回：事前訪問の目的と注意事項、実習中の注意事項 以降、個別に対応し、インターンシップに臨む 期間：実質10日間（11月5日～11月16日予定、又は休暇期間） 実施先は原則福祉施設又は福祉関連機関とする 第4回：インターンシップ事後研修								講義・演習 実習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：使用しない。 プリント資料を配布する。				課題提出[50%]、 実習評価・実習報告書評価[50%]				
授業時間外学修								
オフィスアワー	研究室に「オフィスアワー」の表示があるときは可能。							
その他留意点等	インターンシップは、事前講義を終了し受け入れ許可が得られた場合にのみ実施できる。							

授業科目	福祉経営学	授業 題目	経営学の基礎への理解	[2] 単位	前期 月1	コード 821	担当	廣橋 雅子
授業 目的	この授業は経営学の原理原則を理解し、組織運営に関わる基本的な知識を学習することを目的とする。							
到達 目標	一般的に営利を目的とする経営学の基礎を理解しながら、 福祉経営で必要な組織運営・人材管理の理解を深めることを目標とする。							学位授与方針との関連 1・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：イントロダクション：経営学と社会保障の役割 2回：組織構造 3回：経営戦略① 戦略とはなにか 4回：経営戦略② 競争のための差別化 5回：雇用構造と日本企業の特徴 6回：人的資源管理 7回：経営理念と組織文化 8回：最近の高齢者サービス 9回：地域医療・福祉経営とリーダーシップ 10回：多様な医療・福祉事業者の参入 11回：高齢者の住まいと年金 12回：多職種協働とヘルスコミュニケーション 13回：地域包括ケア時代の品質保証 14回：医療・福祉の社会的責任 15回：これからの福祉マネジメントの構築								講義 講義 講義 講義・演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「医療・福祉サービスマネジメント」同文館出版 参考文献：「経営学入門 第3版」日本経済新聞社				定期試験(レポート)[50%]、課題提出[20%]、 平常点[30%]				
授業時間外学修	次の授業の事前予習と情報収集をすること。毎回30分は確保すること。							
オフィスアワー	月曜日～木曜日、午前10時～午後4時まで。授業時間は除く。事前の予約が望ましい。							
その他留意点等								

授業科目	生活支援技術 I	授業 題目	自立の支援・安全と安楽・ 個人の尊厳の原則に基づき 知識と技術を習得する	[1] 単位	前期 月2・月3	コード 843	担当	関口 昌利 青木 敬子
授業 目的	この授業では、介護サービスを提供する対象・場所によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な生活支援の知識・技術の基礎を身につけることを目指す。							
到達 目標	授業を通して、生活支援の基本的な考え方を理解する。ICFの概念に基づいたアセスメントを理解し、系統的な演習ができる。ベッドメイキング・移動・睡眠・食事・口腔ケアの基本技術を学び、あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識と技術、特に残存機能を活用した自立支援の援助技術を習得する。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：アセスメントとは何か								講義
2回：ICFの考え方とアセスメント								講義
3回：睡眠の介護1 睡眠の意義と目的								講義
4回：睡眠の介護2 睡眠における介護技術・他職種の役割と協働								講義・演習
5回：ベッドメイキング1 リネン類のたたみ方と収納								講義・演習
6回：ベッドメイキング2 シーツの敷き込み（三角コーナー）								演習
7回：ベッドメイキング3 枕・掛け物・まとめ								演習
8回：移動の介護1 移動の意義と目的 移動移乗の介護の基本的理解								講義
9回：移動の介護2 体位変換の介助① 上方・水平移動								講義・演習
10回：移動の介護3 体位変換の介助② 仰臥位・側臥位								講義・演習
11回：移動の介護4 体位変換の介助③ 端座位・立位								講義・演習
12回：移動の介護5 車いすの介助① 車いす・ベッド間の移乗								講義・演習
13回：移動の介護6 車いすの介助② 車いすでの移動								講義・演習
14回：移動の介護7 高齢者疑似体験								演習
15回：移動の介護8 歩行の介助① 立位・杖歩行・歩行器								講義・演習
16回：移動の介護9 歩行の介助② 段差越え・階段昇降								講義・演習
17回：移動の介護10 移動・移乗介助のまとめ								講義・演習
18回：食事の介護1 食事の意義と目的								講義
19回：食事の介護2 食事の介助の実際①一部介助								講義・演習
20回：食事の介護3 食事の介助の実際②一部介助								講義・演習
21回：食事の介護4 食事の介助の実際③ベッド上での全介助								講義・演習
22回：食事の介護5 食事の介助の実際④ベッド上での全介助								講義・演習
23回：食事の介護6 食事の介助の実際⑤誤嚥・窒息の防止								講義・演習
24回：食事の介護7 食事の介助の実際⑥脱水の予防・水分摂取								講義・演習
25回：食事の介護8 他職種の役割と協働・食事介助のまとめ								講義・演習
26回：口腔ケア1 口腔ケアの意義・目的・効果								講義
27回：口腔ケア2 ブラッシング法・口腔粘膜の清掃・含嗽法								講義・演習
28回：口腔ケア3 義歯の清掃法（装着・清掃・保管）								講義・演習
29回：口腔ケア4 ベッド上での介助・嚥下体操・口腔ケア用具								講義・演習
30回：技術チェック								演習
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「生活支援技術Ⅱ」中央法規（生活支援技術Ⅰ～Ⅴ 共通） 参考文献：適宜紹介する					定期試験[70%] 課題提出[10%] 技術チェック[20%]			
授業時間外学修	予習と復習のために教員が指示したことを行う。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	生活支援技術Ⅱ	授業 題目	身じたくの介護・ 入浴・清潔保持の介護	[1] 単位	前期 水2・水3	コード 845	担当	永野 淳子 青木 敬子 関口 昌利
授業 目的	要介護者のQOLの向上を目指した介護者としての姿勢や態度、身じたく、入浴・清潔保持に関する知識と生活支援技術を修得できる。							
到達 目標	1.生活支援技術（身じたく、入浴・清潔保持）についての知識を説明できる。 2.安全で個別性に配慮した生活支援技術（身じたく、入浴・清潔保持）の方法を実施できる。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：身じたくの意義と目的、身じたくにおけるアセスメント								講義
2回：整容における介護、アセスメントの視点、整容介助の実際、自助具								講義
3回：身じたくの介護1. 整髪の介助、ひげの手入れの介助								演習
4回：身じたくの介護2. 爪の介助、爪の手入れの介助								演習
5回：衣服を着用する目的、アセスメントの視点、衣服の着脱の介助の実際								講義
6回：衣服の着脱（座位・一部介助）1. 前開きの上衣の着脱								演習
7回：衣服の着脱（座位・一部介助）2. かぶりの上衣の着脱								演習
8回：衣服の着脱（座位・一部介助）3. ズボン・靴下の着脱								演習
9回：衣服の着脱（仰臥位）1. 前開き上衣の着脱								演習
10回：衣服の着脱（仰臥位）2. 前開き上衣の着脱								演習
11回：衣服の着脱（仰臥位）3. かぶり上衣の着脱								演習
12回：衣服の着脱（仰臥位）4. ズボン・靴下の着脱								演習
13回：衣服の着脱（仰臥位）5. ゆかたの着脱								演習
14回：衣服の着脱（座位）1. 前開き上衣とズボンの着脱								演習
15回：衣服の着脱（座位）2. 前開き上衣とズボンの着脱								演習
16回：入浴・清潔保持の介護1（入浴・清潔保持の意義と目的）								講義
17回：入浴・清潔保持の介護2（アセスメント）								講義
18回：入浴・清潔保持の介護3（事故防止、福祉用具・自助具）								講義
19回：入浴の介助における自立度別介助の視点、その他の清潔保持の介助								講義
20回：一般浴槽の出入り介助								講義
21回：清潔保持の介助1（手足の清拭・洗身）								演習
22回：清潔保持の介助2（手足の清拭・洗身）								演習
23回：部分浴の介助1（手浴）								演習
24回：部分浴の介助2（足浴）								演習
25回：部分浴の介助3（洗髪）								演習
26回：部分浴の介助4（洗髪）								演習
27回：全介助を要する利用者の介助1（機械浴槽の操作）								演習
28回：全介助を要する利用者の介助2（機械浴槽の操作）								演習
29回：多職種連携								講義
30回：技術チェック								演習
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
テキスト：「生活支援技術Ⅱ」中央法規（生活支援技術Ⅰ～Ⅴ 共通） 参考文献：「根拠からわかる介護技術の基本」中央法規						定期試験[70%] 課題提出[10%] 技術チェック[20%]		
授業時間外学修	予習：授業内容・計画の部分に該当するテキストの【章・節】を読んでください。 復習：テキストを読み返してください（15分程）。 ※授業（演習）で学習した支援技術は、介護実習室にて練習をしてください。							
オフィスアワー	永野：火・木曜日（12：10-13：00）。ただし、会議等により対応ができない場合があります。 青木：研究室入口にオフィスアワーの表示があるとき。							
その他留意点等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に変更が生じる場合があります。 ・時間割の変更などの連絡事項は、掲示板・オクレンジャーにて提示します。 ・演習を行う際は、必ずユニフォームと内履きを着用してください。 ・演習時に使用する物品を学生に持参してもらうことがあります。 掲示板・オクレンジャーで連絡をするので、忘れずに持参してください。							

授業科目	生活支援技術Ⅲ	授業題目	自立の支援・安全と安楽・個人の尊厳の原則に基づいた援助技術を習得する	[1] 単位	後期 水3	コード 847	担当	青木 敬子 関口 昌利
授業目的	この授業では、介護サービスを提供する対象・場所によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な生活支援の知識・技術の基礎を身につけることを目指す。							
到達目標	授業を通して、生活支援の基本的な援助の理解を深めて、実習に対応した系統的な演習が出来る。排泄を中心に基本的な生活様式を学び、障害編の知識とともに応用できるようにする。全介助を要する利用者に対する方法も理解し、実践の現場に応用できる力を身につける。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：自立に向けた排泄の介護 排泄介護の基本	排泄の意義と目的 排泄におけるアセスメント							いずれも 講義・演習
2回：自立に向けた排泄の介護 排泄における介護技術	排泄の実際介助 ①トイレでの排泄の介助（一部介助）							
3回：自立に向けた排泄の介護 排泄における介護技術	②トイレでの排泄の介助（全介助）							
4回：自立に向けた排泄の介護	③ポータブルトイレの排泄援助（一部介助）							
5回：自立に向けた排泄の介護	④ポータブルトイレの排泄援助（全介助）							
6回：自立に向けた排泄の介護	ポータブルトイレの排泄援助（全介助）							
7回：自立に向けた排泄の介護 おむつ交換の基本	①おむつ交換（パンツ型おむつ）							
8回：自立に向けた排泄の介護	②おむつ交換（テープ止め式紙おむつ）							
9回：自立に向けた排泄の介護	おむつ交換（テープ止め式紙おむつ）							
10回：自立に向けた排泄の介護	③おむつ交換（尿取りパット）							
11回：自立に向けた排泄の介護	④おむつ交換（布おむつ）							
12回：自立に向けた排泄の介護	⑤尿器のあて方（男性・女性用）							
13回：自立に向けた排泄の介護	⑥尿器のあて方（男性・女性用）							
14回：技術チェック								
15回：技術チェック								
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「生活支援技術Ⅱ」中央法規（生活支援技術Ⅰ～Ⅴ 共通）					定期試験[70%] 技術チェック[20%]			
授業時間外学修	学習内容を振り返り、復習を行うこと							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	生活支援技術Ⅳ	授業題目	運動・感覚器・内部障害のある人の基本的な生活支援技術を学ぶ。	[2] 単位	後期 月2・月3	コード 849	担当	関口 昌利 青木 敬子 永野 淳子 菊池小百合
授業目的	この授業では、障害を持つ人の、自立・自律を尊重し、残存機能を引き出し活用する介護の知識と技術を身につけ、尊厳を保ち、障害のレベルに合った介護技術を提供する能力を養うことを目指す。							
到達目標	授業を通して、さまざまな障害について、その基礎的な知識と障害をもつ人の特徴と生活上の困難を学び、残存機能を引き出し、自立とQOLの向上をめざした生活支援技術を学ぶことができる。							学位授与方針との関連
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：移動・食事・口腔ケアの介護①	各障害による介護の留意点						講義	
2回：移動・食事・口腔ケアの介護②	脳血管障害						講義・演習	
3回：移動・食事・口腔ケアの介護③	脊髄損傷						講義・演習	
4回：移動・食事・口腔ケアの介護④	関節リウマチ・脳性麻痺						講義	
5回：移動・食事・口腔ケアの介護⑤	パーキンソン病						講義	
6回：移動・食事・口腔ケアの介護⑥	筋ジストロフィー						講義	
7回：移動・食事・口腔ケアの介護⑦	内部障害						講義	
8回：移動・食事・口腔ケアの介護⑧	聴覚障害						講義・演習	
9回：移動・食事・口腔ケアの介護⑨	視覚障害						講義・演習	
10回：移動・食事・口腔ケアの介護演習							演習	
11回：身じたくの介護①	各障害による介護の留意点						講義	
12回：身じたくの介護②	運動機能障害						講義	
13回：身じたくの介護③	胃瘻・ストーマ・排尿カテーテル						講義	
14回：身じたくの介護④	視覚障害						講義	
15回：身じたくの介護演習							演習	
16回：入浴・清潔保持の介護①	運動機能障害1						講義	
17回：入浴・清潔保持の介護②	運動機能障害2						講義	
18回：入浴・清潔保持の介護③	内部障害1						講義	
19回：入浴・清潔保持の介護④	内部障害2						講義	
20回：入浴・清潔保持の介護演習	視覚障害						演習	
21回：排泄の介護①	各障害による介護の留意点						講義	
22回：排泄の介護②	内部疾患・腎臓疾患（透析）						講義	
23回：排泄の介護③	膀胱・直腸疾患						講義	
24回：排泄の介護④	ストーマ						講義	
25回：排泄の介護⑤	排尿カテーテル						講義	
26回：排泄の介護							演習	
27回：演習							演習	
28回：演習							演習	
29回：演習							演習	
30回：演習							演習	
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「生活支援技術Ⅲ」中央法規（生活支援技術Ⅳ・Ⅴ 共通）					定期試験[70%] 技術チェック[20%]			
授業時間外学修	予習と復習のために教員が指示したことを行う							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	介護過程 I	授業 題目	介護過程の基礎	[2] 単位	後期 水1・水2	コード 857	担当	永野 淳子
授業目的	介護過程を展開する意義と介護過程を展開するうえで必要な知識と技術を修得できるようになる。							
到達目標	1. アセスメントにおいて収集すべき情報を具体的に述べるができる。 2. 介護計画を立案する際に留意すべき点について説明することができる。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：介護過程の意義と目的 1	介護過程って何だろう？						講義	
2回：介護過程の意義と目的2	介護過程のプロセス						演習	
3回：アセスメント・情報収集の方法1	介護過程を展開する上で必要な情報						講義	
4回：情報収集の方法2	情報収集の方法						演習	
5回：情報の解釈・分析1	ICFの考え方、ICFを用いた情報の分析						講義	
6回：情報の解釈・分析2	ICFを用いた情報の分析						演習	
7回：情報の関連づけ・統合1	情報の関連づけ						講義	
8回：情報の関連づけ・統合2	情報の統合						演習	
9回：利用者理解図の作成 1	利用者理解図の意義と目的						講義	
10回：利用者理解図の作成 2	利用者理解図の書き方 1						演習	
11回：利用者理解図の作成 3	利用者理解図の書き方 2						演習	
12回：利用者理解図の作成 4	利用者理解図の書き方 3						演習	
13回：課題の明確化1	生活課題とは何か？						講義	
14回：課題の明確化2	生活課題の明確化						演習	
15回：介護計画の立案1	目標を設定する意義、目的						講義	
16回：介護計画の立案2	目標の設定（長期目標・短期目標）						演習	
17回：介護計画の立案3	支援内容と支援方法						講義	
18回：介護計画の立案4	支援の際の留意点						演習	
19回：実施1	計画にもとづいた実施のための留意点						講義	
20回：実施2	モニタリングと記録						演習	
21回：評価1	評価の目的、意義						講義	
22回：評価2	評価の方法						演習	
23回：介護過程とチームアプローチ1	ケアプランと介護過程、						演習	
24回：介護過程とチームアプローチ2	ケアカンファレンス、多職種との連携						演習	
25回：事例に基づく介護過程の展開 1	アセスメントシートの情報の分析						演習	
26回：事例に基づく介護過程の展開 2	分析結果の発表						演習	
27回：事例に基づく介護過程の展開 3	生活課題の明確化						演習	
28回：事例に基づく介護過程の展開 4	情報分析シートの作成						演習	
29回：事例に基づく介護過程の展開 5	介護計画の立案						演習	
30回：事例発表、まとめ	介護計画の発表、まとめ						講義	
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
テキスト：「介護過程」 中央法規出版 「アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック」 榊みらい 参考文献：「ICF(国際生活機能分類)国際障害分類改訂版」 中央法規出版						定期試験[70%] 課題提出[30%]		
授業時間外学修	予習：授業のテーマに沿ったテキストの章・節を読んでおいてください（15分程）。 復習：各回の授業で配布した資料を読み返してください（15分程）。							
オフィスアワー	火・木曜日（12：10-13：00）。ただし、会議等により対応ができない場合があります。							
その他留意点等	授業の進捗状況により、授業内容が一部変更される場合があります。							

授業科目	介護総合演習Ⅰ	授業題目	効果的な実習ができるように、実習前の準備、実習中の全体指導、実習後の成果のまとめを通して学びを共有し次の実習に活かす。	[1] 単位	前期 月4	コード 863	担当	関口 昌利 青木 敬子
授業目的	学内で学んで習得しつつある知識・技術と態度を、初めての実習である基礎実習に活かせるようにする。実習施設の理解を深め、利用者への援助内容についても予備知識を得る。後期の第1段階実習に向けて、自己の課題を明確にする。							
到達目標	実習施設の概要と利用者の生活像を理解し、利用者への援助内容・方法について予備知識をもち、自ら疑問を明らかにする。疑問の解決に向けて、下調べ・情報収集をし、複数のメンバー間で共有を図り、整理して記録する能力を習得できる。							学位授与方針との関連 2・3
授業内容・計画								授業方法
1回	実習の意義と目的1	介護実習の必要性	介護実習の目的					講義・演習
2回	実習の意義と目的2	実習で何を学ぶか	実習の到達目標					講義・演習
3回	通所介護の理解							講義・演習
4回	就労支援施設の理解							講義・演習
5回	基礎実習の準備1	事前準備書類について（個人票・個別目標）						講義・演習
6回	基礎実習の準備2	実習生としての基本事項（誓約書）						講義・演習
7回	基礎実習の準備3	事前対応の説明・送付書類のまとめ						講義・演習
8回	実習記録1	実習記録の書き方①	施設の概要					講義・演習
9回	実習記録2	実習記録の書き方②	実習日誌					講義・演習
10回	実習記録3	実習記録の書き方③	実習日誌					講義・演習
11回	実習記録4	実習記録の書き方④	成果と課題・御礼状					講義・演習
12回	直前授業	担当指導教員との事前打合せ	カンファレンス					講義・演習
13回	実習終了後のまとめ							講義・演習
14回	実習報告会							演習
15回	第1段階実習の意義と目的							講義・演習
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
テキスト：「介護総合演習」メヂカルフレンド社（介護総合演習Ⅰ～Ⅳ 共通） 参考文献：随時紹介する						定期試験[50%] 課題提出[50%]		
授業時間外学修	予習と復習のために教員が指示したことを行う。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	介護総合演習Ⅱ	授業題目	効果的な実習ができるように、実習前の準備、実習中の全体指導、実習後の成果のまとめを通して学びを共有し次の実習に活かす。	[1] 単位	後期 月4	コード 865	担当	関口 昌利 青木 敬子
授業目的	前期の授業で習得した知識・技術・態度、特に障害者ケアと認知症ケアについて、第1段階実習を通して実践的に体得できるようにする。さらに訪問介護実習に向けて、在宅ケアの概要についても理解を深める。							
到達目標	障害者施設・高齢者施設、在宅等の多様な介護現場を理解する。利用者・家族とかかわるためのコミュニケーション技術を活用して、利用者・家族とかかわれるようにする。介護業務の概要を理解する。医務・リハビリテーション・厨房業務等を理解し、他職種との連携方法について学ぶ。							学位授与方針との関連 2・3
授業内容・計画								授業方法
1回	第1段階実習の準備1	実習施設の理解・実習配置						講義・演習
2回	第1段階実習の準備2	事前準備書類について（個人票・個別目標）						講義・演習
3回	第1段階実習の準備3	事前対応の説明・送付書類のまとめ						講義・演習
4回	実習記録1	実習日誌の書き方						講義・演習
5回	実習記録2	施設の概要・成果と課題の書き方						講義・演習
6回	2年との合同授業	グループ演習（質疑応答）						演習
7回	立誓式リハーサル	担当教員との事前打ち合わせ						演習
8回	実習終了後のまとめ							講義・演習
9回	実習報告会							演習
10回	訪問介護の理解	実習事業所の理解・実習配置						講義
11回	訪問介護実習の準備1	事前書類について（個人票・個別目標）						講義・演習
12回	訪問介護実習の準備2	実習記録・事前対応の説明・送付書類のまとめ						講義・演習
13回	2年との合同授業	グループ演習（質疑応答）						演習
14回	実習直前授業	担当教員との事前打ち合わせ						講義・演習
15回	訪問介護実習のまとめ							講義・演習
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
テキスト：「介護総合演習」メヂカルフレンド社（介護総合演習Ⅰ～Ⅳ 共通） 参考文献：随時紹介する						定期試験[50%] 課題提出[50%]		
授業時間外学修	予習と復習のために教員が指示したことを行う。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	介護実習Ⅰ	授業題目	基礎実習・第1段階実習	[2] 単位	後期集中	コード 871	担当	関口 昌枝 宮入 ひさ合 菊池 小百合 永野 淳子 倉田 郁也 青木 敬子
授業目的	介護を必要とする人との実践を通して、コミュニケーションの方法について学ぶ。利用者の生活の場である多様な介護現場を体験し、利用者との人間的触れ合いを通じて、利用者の介護ニーズと介護の機能並びに施設職員の役割について学ぶ。							
到達目標	様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解し、利用者・家族とのコミュニケーションを通して人間関係の構築ができる。また指導の下で介護技術の見学や確認を行い、多職種協働や関連機関との連携について理解し説明できる。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								
■基礎実習 通所介護3日間 障害者就労施設3日間 合計6日間 (目標) ①利用者と一緒に積極的に関わることができる。 ②実習を行うにあたっての姿勢と態度について学ぶことができる。 ③日々行った実習内容について記録に残すことができる。 ■第1段階実習 第1クール5日間 第2クール5日間 合計10日間 (目標) ①利用者の個別性について理解する ②職員と共に介護実践を行い利用者の生活への影響について学ぶ。 ③施設職員の構成と業務・内容および介護者の役割について学ぶ。 ④利用者・家族とのよりよいコミュニケーションの方法を学ぶ。 ⑤福祉施設の概要を学ぶ。					実習施設・事業所： ■基礎実習 通所介護 障害者就労施設 ■第1段階実習 障害者支援施設 障害児入所施設 指定療養介護事業所 認知症対応型共同生活介護 (認知症グループホーム)			
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「平成31年度版介護実習マニュアル」佐久大学信州短期大学部 参考文献：適宜紹介 (介護実習Ⅰ～Ⅳ 共通)					実習施設による評価[60%]、 実習担当教員による評価[40%]			
授業時間外学修	予習：実習施設・事業所の概要・サービス内容等をホームページで調べておく。 復習：実習日誌や指導者の助言から自己を振り返り、日々の実習目標を立てる。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等	実習開始前に、巡回指導教員からオリエンテーションを受ける。							

授業科目	介護実習Ⅲ	授業題目	訪問介護実習	[1] 単位	2年次前期集中 ※実習は1年後期実施	コード 875	担当	関口 昌枝 宮入 ひさ合 菊池 小百合 永野 淳子 倉田 郁也 青木 敬子
授業目的	在宅生活を行う利用者の日常生活支援における介護福祉士の役割について説明できる。また、地域における多職種連携・協働が在宅生活を支援するうえで重要であることを説明できる。							
到達目標	1. 訪問介護事業所の組織、運営方法について説明できる。 2. 在宅生活の支援における介護福祉実践の意義と支援内容・方法について説明できる。 3. 利用者の個別性に配慮した介護技術を身につけることができる。 4. 利用者を支える地域のネットワークシステムとチームケアについて説明できる。 5. 介護福祉士として守るべき倫理と態度を身につけることができる。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								
■訪問介護実習 4日間 実習期間中は、1から5の到達目標を達成するために、下記の内容について学習する。								
1. 実習施設における組織、運営の方法とその意義 1) 実習施設の概要 2) 地域における実習施設の位置づけと役割 2. 在宅生活の支援における介護福祉実践の意義と支援の内容・方法 1) 在宅における利用者や家族の生活状況の把握とニーズの判断 2) 利用者や家族のニーズに対応する介護の実践 3) ケアマネジメントと訪問介護との関係 3. 在宅生活を支援するための基本的な介護技術 1) 個々の利用者にふさわしい家事援助の実践 2) 利用者への適切な言葉かけについて 3) 安全性と快適さに配慮した訪問介護の実践 4) 利用者の状態に合わせた介護内容や方法の工夫					4. 利用者を支える地域のネットワークシステムとチームケア 1) 介護福祉職としてのチームアプローチの実践 2) 他職種の役割と連携・協働 5. 介護福祉士として守るべき倫理と態度 1) 利用者のプライバシーの尊重、守秘義務について 2) 利用者や家族の生活を尊重した支援のあり方 3) 実習により学んだことの振り返り、自己の課題の明確化 実習施設・事業所：訪問介護事業所			
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「平成31年度版介護実習マニュアル」佐久大学信州短期大学部 参考文献：適宜紹介 (介護実習Ⅰ～Ⅳ 共通)					実習施設による評価[60%]、 実習担当教員による評価[40%]			
授業時間外学修	予習：高齢者が地域社会で生活するうえで必要な支援について、行政のホームページ等で把握しておいてください。 復習：実習記録や指導者のコメントから自己を振り返り、日々の実習における目標を明確にしてください。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等	実習開始前に、巡回指導教員からオリエンテーションを受けてください。							

授業科目	障害の理解 I	授業 題目	[2] 単位	後期 木4	コード 885	担当	盛岡 正博
授業 目的	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、本人及び家族を含めた環境を通して障害者を理解し、介護の視点を学習する。						
到達 目標	心身の不自由さや障害について相互に理解し、尊厳を持った生き方とは何かを考えたい。 介護専門職としての必要な課題を総括的に理解できる力を得たい。						学位授与方針との関連 2
授業内容・計画（授業方法：いずれも講義・演習）							
1回：オリエンテーション(授業の内容・進め方・成績評価方法など) 障害を理解する必要性とは何か？ 障害を学ぶ意義を考える							
2回：障害の基本的理解①：障害の概念(WHO国際障害分類から国際生活機能分類への変遷、 ICIDHとICFの歴史的意義と課題、障害の法的定義、障害者の実態)							
3回：障害の基本的理解②：障害者福祉の基本理解(人権尊重と権利擁護、ノーマライゼーション思想の 歴史的経緯、リハビリテーションの歴史的経緯・定義・理念、福祉理念の発展)							
4回：障害の基本的理解③：障害が及ぼす心理的影響(心理的特徴、障害の形態と心理的影響)、 障害の受容(身体的・心理的・社会的な3つの側面と本質)、障害受容の過程							
5回：障害の基本的理解④：適応と適応機制 (内的適応と外的適応、逃避的な機制、自己防衛的な機制、攻撃的な機制など)							
6回：身体障害のある人の理解①：肢体不自由についての基礎知識 (医学的・心理的理解、障害に起因する生活上の問題)							
7回：身体障害のある人の理解②：視覚障害・聴覚障害についての基礎知識 (医学的・心理的理解、障害に起因する生活上の問題、手話・点字)							
8回：身体障害のある人の理解③：内部障害・難病についての基礎知識 (医学的・心理的理解、障害に起因する生活上の問題)							
9回：知的障害のある人の理解：知的障害についての基本知識 (医学的・心理的理解、障害に起因する生活上の問題)							
10回：精神障害のある人の理解：精神障害についての基本知識 (医学的・心理的理解、障害に起因する生活上の問題)							
11回：障害者介護における連携と協働①：連携と協働(福祉事務所、社会福祉協議会等の福祉関係者、 機関との連携のあり方)							
12回：障害者介護における連携と協働②：地域におけるサポート体制(ケースワーカー、生活相談員、 ヘルパー等の福祉専門職との連携のあり方、 医師、看護師、保健師、PT、OT等医療専門職との連携のあり方)							
13回：障害者介護における連携と協働③：チームアプローチ(全人的介護の展開におけるチームケアのあり方)							
14回：障害者をもつ家族への支援：家族への支援(制度・福祉サービスの活用、カウンセリング等の家族に 対する心理的ケア、介護負担の軽減)							
15回：まとめ							
テキストおよび参考文献				成績評価の方法			
テキスト：「障害の理解」メヂカルフレンド社 (障害の理解 I・II 共通)				定期試験[40%]，課題提出[20%]，平常点[40%] ※定期試験は模範解答をフィードバックする			
授業時間外学修	事後学習を毎回30分は確保すること。						
オフィスアワー	理事長室ドアが開いているとき。						
その他留意点等	毎回の授業後、出席カードに感想を書いてください。 支援を求めている人と直接接触する機会をできる限り持つよう心掛けてください。						

授業科目	医療的ケア I	授業 題目	医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養等)について、安全・安楽に実施できる知識・技術を修得する。	[1] 単位	後期 月 1	コード 891	担当	宮入ひさ枝 菊池小百合
授業 目的	「医療的ケア」は、医療業務の一部を生活の援助として介護実践の最も基本的な根拠及び技術を学ぶ。これは医療職を中心とした他職種との協働の基盤となり、また、介護を必要とする人々の安全と安心の基盤となる。この授業では次項の達成課題の掲げた項目に関して。適宜状況に応じた説明が出来ることを目標とする。具体的には、介護サービスを実際に必要とする高齢者や障害児・者及び家族にも安心・安全な知識と技術が提供出来ることを目標とする。							
到達 目標	医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)を提供するに当たり、他職種との連携のもと、介護福祉士としての役割を理解し、その範囲を超えないことを重視し、利用者の生活支援の中で安全にケアが提供できる知識と技術を身につける。また、筆記試験を合格し演習(評価)を正確かつ確実に実施でき合格を得る。実地研修での演習に活かすことができる。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画								授 業 方 法
1回: 医療的ケアの導入の過程及び介護の専門性と医療的ケアの必要性①								講義
2回: 医療的ケアの導入の過程及び介護の専門性と医療的ケアの必要性②								講義
3回: 人間と社会 個人の尊厳と自立・医療の倫理 利用者や家族の気持ちの理解								講義
4回: 保健医療制度とチーム医療① ・保健医療に関する制度 ・医療行為に関する法律								講義
5回: 保健医療制度とチーム医療② ・チーム医療と介護職員との連携								講義
6回: 安全な療養生活① ・喀痰吸引や経管栄養の安全な実施①								講義
7回: 安全な療養生活② ・喀痰吸引や経管栄養の安全な実施②								講義
8回: 清潔保持と感染予防① ・感染予防 ・職員の感染予防								講義
9回: 清潔保持と感染予防② ・療養環境の清潔 ・滅菌と消毒								講義
10回: 清潔保持と感染予防の実際③								講義・演習
11回: 健康状態の把握① ・身体。精神の健康 ・健康状態を知る項目(バイタルサインなど)								講義
12回: 健康状態の把握① ・身体。精神の健康 ・健康状態を知る項目(バイタルサインなど)								講義・演習
13回: 健康状態の把握② ・急変状態について②								講義・演習
14回: 健康状態の把握② ・急変状態について③								講義・演習
15回: まとめ								講義
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
テキスト:「医療的ケア」中央法規 (医療的ケア I～III・演習 共通) 参考文献:必要に応じて紹介する						定期試験[50%], 小テスト[20%], 課題提出[10%], 平常点[20%], 演習時の参加度[10%]		
授業時間外学修	期限までに課題提出をすること。小テストを行うので復習しておくこと。							
オフィスアワー	平日10:00～18:00。ただし、授業時間中を除く。予約不要(必要時予約も可)							
その他留意点等	体調管理を行い、欠席をしないよう心がけてください。欠席届を必ず提出のこと。							

科目別シラバス

福祉学科

2年次生科目

授業科目	英語Ⅲ	授業題目	英会話・文法復習・単語力強化	[1] 単位	前期 月3	コード 109	担当	Mark Cox
授業目的	英会話の自身と実力を身につけて、外国の方との会話だけではなくて、海外のニュース番組と世界中のインターネット情報も分かるようになる。							
到達目標	1. 英会話で困っているときに、上手く会話が続けられる対策を勉強する。 2. これまで勉強してきた文法をより理解し、対話で使えるようになる。						学位授与方針との関連	1・2
授 業 内 容 ・ 計 画 (いずれも演習)								
1回: Unit 1: Responding 2回: Unit 2: Follow Up Questions 3回: ” (English pronunciation, conjunctions) 4回: Unit 3: Keeping the Conversation 5回: ” (‘have’ vs. ‘There is ...’) 6回: Unit 4: Getting a Response 7回: ” (can/can’ t , have to) 8回: Unit 5: Describing an item 9回: ” (‘of’) 10回: Unit 6: Responding with Details 11回: ” (infinitives) 12回: Unit 7: Story Building 13回: ” (use of adverbs and adjectives) 14回: Speaking Challenge 15回: Summary				各Unitは2回の授業で学習します。 一つのUnitで英会話対策、文法の復習、単語を勉強する。授業の最後で話を伝えられるようになる。				
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：なし				定期試験[40%], 授業参加[30%], Speaking Challenge[30%]				
授業時間外学修	授業で学んだことをくりかえし、練習をしましょう。単語を使えるように勉強しましょう。							
オフィスアワー	講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示の時は、いつでも来て下さい。							
その他留意点等								

授業科目	英語Ⅳ	授業題目	英会話・文法復習・単語力強化	[1] 単位	後期 金1	コード 111	担当	Mark Cox
授業目的	英語Ⅲの続き、英会話の自身と実力を身につけて、外国の方との会話だけではなくて、海外のニュース番組と世界中のインターネット情報も分かるようになる。							
到達目標	1. 英会話で困っているときに、上手く会話が続けられる対策を勉強する。 2. これまで勉強してきた文法をより理解し、対話で使えるようになる。						学位授与方針との関連	1・2
授 業 内 容 ・ 計 画 (いずれも演習)								
1回: Unit 8: Soliciting Details 2回: ” (passive tense) 3回: Unit 9: Story Building (part 2) 4回: ” (perfect tense) 5回: ” 6回: Unit 10: Clarifying with Questions 7回: ” (relative clauses) 8回: Unit 11: Reported Speech 9回: ” (relative clauses) 10回: Unit 12: Making a group Decision 11回: ” (infinitives) 12回: Unit 13: Discussion Connectors 13回: ” (conditionals) 14回: Speaking Challenge 15回: Summary				各Unitは2回の授業で学習します。 一つのUnitで英会話対策、文法の復習、単語を勉強する。授業の最後で話を伝えられるようになる。				
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：なし				定期試験[40%], 授業参加[30%], Speaking Challenge[30%]				
授業時間外学修	授業で学んだことをくりかえし、練習をしましょう。単語を使えるように勉強しましょう。							
オフィスアワー	講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示の時は、いつでも来て下さい。							
その他留意点等								

授業科目	中国語Ⅲ	授業題目	できる 伝わる中国語	[1] 単位	前期 月3	コード 117	担当	朱 芸虹
授業目的	発音の声調を重視しながら、簡単な日常会話を中心に反復練習することによって、聴力、簡単な話す力を身につける。							
到達目標	ピンインを読める。簡単な会話ができ、正確に伝えることができるようにする。							学位授与方針との関連 1・2
授業内容・計画								授業方法
1回：第11課（这个多少钱？）（テキスト74ページ～） 2回：第11課（这个多少钱？）（テキスト74ページ～） 3回：会話の授業 4回：第12課（我家在大阪）（テキスト80ページ～） 5回：第12課（我家在大阪）（テキスト80ページ～） 6回：会話の授業 7回：DVD鑑賞（中国文化を知ろう） 8回：第13課（我打算去中国留学）（テキスト64ページ～） 9回：第13課（我打算去中国留学）（テキスト64ページ～） 10回：会話の授業 11回：第14課（我是六点起来的）（テキスト92ページ～） 12回：第14課（我是六点起来的）（テキスト92ページ～） 13回：会話の授業 14回：ゲーム（自由会話） 15回：総合復習								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「初級 中国語課本」駿河台出版社 （中国語Ⅰ～Ⅳ 共通）				定期試験[40%]，小テスト[10%]， 課題提出[30%]，平常点[20%]				
授業時間外学修	毎回授業後の課題をしっかりとやること。小テストは不定期に行うので、復習をしておくこと。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示がされているとき							
その他留意点等	ひたすら読んだり、書いたりすること（又読みながら書くこと）							

授業科目	中国語Ⅳ	授業題目	できる、伝わる中国語	[1] 単位	後期 金1	コード 119	担当	朱 芸虹
授業目的	発音の声調を重視しながら、日常会話を中心に反復練習することによって、聴力、簡単な話す力を身につける。							
到達目標	日常会話ができ、正確に伝えることができるようにする。							学位授与方針との関連 1・2
授業内容・計画								授業方法
1回：第15課（昨晚看电视了吗？）（テキスト98ページ～） 2回：第15課（昨晚看电视了吗？）（テキスト98ページ～） 3回：会話の授業 4回：第16課（我正在看棒球赛呢）（テキスト104ページ～） 5回：第16課（我正在看棒球赛呢）（テキスト104ページ～） 6回：会話の授業 7回：第17課（他比我小两岁）（テキスト110ページ～） 8回：第17課（他比我小两岁）（テキスト110ページ～） 9回：会話の授業 10回：第18課（请把筷子放好）（テキスト116ページ～） 11回：第18課（请把筷子放好）（テキスト116ページ～） 12回：会話の授業 13回：ゲーム（自由会話） 14回：中国文化を知ろう 15回：総合復習								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「初級 中国語課本」駿河台出版社 （中国語Ⅰ～Ⅳ 共通）				定期試験[40%]，小テスト[10%]， 課題提出[30%]，平常点[20%]				
授業時間外学修	毎回授業後の課題をしっかりとやること。小テストは不定期に行うので、復習をしておくこと。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示がされているとき							
その他留意点等	ひたすら読んだり、書いたりすること（又読みながら書くこと）							

授業科目	コンピュータの応用技術	授業 題目	専門業務に活かせる ICT活用	[1] 単位	前期 木3	コード 125	担当	三池 克明
授業 目的	今日ではパソコンなどのICT機器があらゆる業務において利用されている。本科目ではパソコンなどのICT機器を「業務遂行の道具」として捉え、卒業後に就く職業で実践できる情報活用能力の習得を図る。							
到達 目標	論文などフォーマルな文書執筆や編集を通して、大規模な文書の読み方だけでなく構造の捉え方を身につける。またプログラミングの基礎としてExcelVBAを学ぶことで作業の手順や階層構造を論理的に考える力を身につける。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回: ガイダンス・本科目を受講する心構えについて 2回: パソコン操作の復習 3回: 【フォーマルな文書の作成1】 スタイル機能の活用 4回: 【フォーマルな文書の作成2】 目次挿入機能の活用 5回: 【フォーマルな文書の作成3】 図表の挿入とレイアウト調整 6回: 【フォーマルな文書の作成4】 文書の推敲と修正のテクニック 7回: 【プログラミング基礎1】 Excelで操作した内容を記録できるマクロ 8回: 【プログラミング基礎2】 マクロを記述する言語「VBA」とは 9回: 【プログラミング基礎3】 セルを使わずにデータを記録する 10回: 【プログラミング基礎4】 操作に応じて処理を分ける 11回: 【プログラミング基礎5】 データが多くてもワンクリックで解決！ 12回: 【プログラミング活用1】 Excelで使える関数を作る 13回: 【プログラミング活用2】 操作画面を作る 14回: 【プログラミング活用3】 入力欄やボタンなどを貼り付ける 15回: 【プログラミング活用4】 データ入力アプリの開発								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
テキスト: 「イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラル」 noa出版 (コンピュータの基礎技術Ⅰ・Ⅱ・応用技術 共通)						課題提出[70%], 平常点[30%]		
授業時間外学修	簡単でよいので予習復習を心がけ、授業中は必要に応じてメモを取るなどの理解を深める工夫をしてください。							
オフィスアワー	原則、月～木の1～5時限。事前予約は不要です。							
その他留意点等	内容にかかわらず質問が多い学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声を掛けてみましょう。							

授業科目	キャリアプランニング	授業 題目	就職活動（進路）を 円滑に進める対策	[1] 単位	通年 木1 (隔週)	コード 127	担当	斎藤 和幸
授業 目的	社会で生きるための仕事の意味を理解しながら、就職活動を円滑に進めていくための方法や、就職試験の対策などについて理解することを目的とする。							
到達 目標	就職活動の流れについて理解し、就職活動を円滑にすすめることができる。 また、自己分析や就職活動に必要な学びを通じて、文章表現やプレゼンテーションで表現できる。							学位授与方針との関連 1・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回: 授業ガイダンス: 就職活動の概要(長野県社会福祉人材センター) 2回: ミニプレゼン①、就職活動の進め方、自己分析①、エントリーシート 3回: ミニプレゼン②、自己分析②、就職ガイダンス・説明会について 4回: ミニプレゼン③、求人票の見方、履歴書の書き方①自己紹介書 5回: ミニプレゼン④、履歴書の書き方②志望動機作成 6回: ミニプレゼン⑤、履歴書・自己紹介書の清書 7回: ミニプレゼン⑥、夏期休暇中の就職活動について、施設訪問、個別指導 8回: ミニプレゼン⑦、就職試験・面接試験対策① 9回: ミニプレゼン⑧、就職試験・面接試験対策② 10回: ミニプレゼン⑨、就職試験合否の対応から今後の活動の進め方 11回: ミニプレゼン⑩、これからの活動についてディスカッション 12回: ミニプレゼン⑪、活動事例報告とグループワーク①、個別指導 13回: ミニプレゼン⑫、活動事例報告とグループワーク②、個別指導 14回: ミニプレゼン⑬、活動事例報告とグループワーク③、個別指導 15回: ミニプレゼン⑭、内定後の届け出及び就職後の目標設定 ※必要に応じてゲストや業者によるガイダンスを実施することがある。								演習が中心 ※授業外における個人指導と活動支援が中心
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
必要に応じて資料を配布する						課題提出[40%], 平常点[10%], 活動レポート[50%]		
授業時間外学修	企業研究、自己紹介書や履歴書の記述は授業時間外に各自で進め、オフィスアワーを使って個別に指導する。							
オフィスアワー	研究室に「オフィスアワー」の表示があるときは常時可能。							
その他留意点等	積極的にガイダンスや企業訪問などに参加し、試験に備えた学習にも自ら取り組むこと。また、問題解決できない時はすすんで研究室を訪ねてほしい。							

授業科目	アクティビティ・ケア	授業 題目	介護予防・要介護ケア 障がい者ケアのために	[1] 単位	前期 木3	コード 204	担当	齊藤日出雄
授業 目的	もし、当事者の立場であつたら、どういう生きがいを持って人生を過ごしたいか? 「生きる喜び」をアクティビティという手法を用いて、障がいがあっても無くても、老若男女問わず同じ時間を共有出来る支援の理論と技術を学ぶ。							
到達 目標	支援をする対象者に応じたアクティビティ・ケアの知識（理論）と技術を習得し、暮らしている地域の文化や対象者の状況を理解して、アクティビティ・ケアの計画から評価まで出来る。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回:	アクティビティ・ケアの基礎理論	アクティビティ・ケアとは何か?						講義・演習
2回:	アクティビティ・ケアの基礎理論	対象者への導入の意義						講義・演習
3回:	アクティビティ・ケアの現状	どんなアクティビティ・ケアがあるのか?						講義・演習
4回:	アクティビティ・ケアの効果と自立支援							講義・演習
5回:	アクティビティ・ケアの計画から実施・評価まで							講義・演習
6回:	アクティビティ・ケア実技Ⅰ	コミュニケーション手法						演習
7回:	アクティビティ・ケア実技Ⅱ	グループ体操の手法						演習
8回:	アクティビティ・ケア実技Ⅲ	グループ活動の実施	(ケアポートみまき	集中講座)				演習
9回:	アクティビティ・ケア実技Ⅳ	グループ調理の実施	(ケアポートみまき	集中講座)				演習
10回:	アクティビティ・ケア実技Ⅴ	アクティビティとリハビリテーション	(ケアポートみまき	集中講座)				演習
11回:	アクティビティ・ケア実技Ⅵ	リラクゼーションの実施	(ケアポートみまき	集中講座)				演習
12回:	アクティビティ・ケア実技Ⅶ	デモンストレーションの実施	(学生が指導者になってアクティビティを実施	1人15分)				演習
13回:	アクティビティ・ケア実技Ⅷ	デモンストレーションの実施	(学生が指導者になってアクティビティを実施	1人15分)				演習
14回:	アクティビティ・ケアの計画から評価までの発表	指導者の立場として						演習
15回:	アクティビティ・ケア総括	学生の発表からの講評として						講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキストなし。必要に応じ資料を配布				課題提出[50%], 平常点[50%]				
授業時間外学修								
オフィスアワー	講師控室に「オフィスアワー」の表示があるとき。							
その他留意点等	8回～11回はケアポートみまきにて集中講義実施。9回目は調理を実施。 9演習においては準備品等が必要(授業内で周知)							

授業科目	健康と生涯スポーツ	授業 題目	健康と生涯スポーツを通して心身共に 豊かなライフスタイルの構築を学ぶ	[1] 単位	後期 木3	コード 205	担当	朴 相俊
授業 目的	子どもや中高年者における健康と運動との関連を多面的に理解し、健康の保持増進、疾病や障害の予防と回復に関する運動実践方法の基本を理解する。さらに、実技・演習を通して運動を日常生活に楽しく実践するためのプログラムについて学ぶ。							
到達 目標	1. 心と身体の健康と生涯スポーツの関係を説明できる 2. 運動の基本的な知識や理論を説明できる 3. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につける							学位授与方針との関連 1
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回:	オリエンテーション	健康と運動の疫学						講義
2回:	競技スポーツ体験 (バドミントン)							実技
3回:	心身の健康と運動							講義
4回:	競技スポーツ体験 (バスケットボール)							実技
5回:	働き盛り世代の健康と運動							講義
6回:	競技スポーツ体験 (バレーボール)							実技
7回:	子どもの健康と運動							講義
8回:	ニュースポーツ体験 (スポンジテニス)							実技
9回:	高齢者の健康と運動							講義
10回:	競技スポーツ体験 (バドミントン)							実技
11回:	こころの健康と運動							講義
12回:	競技スポーツ体験 (バスケットボール)							実技
13回:	障がい児の健康と運動							講義
14回:	競技スポーツ体験 (バレーボール)							実技
15回:	ニュースポーツ体験 (スポンジテニス)							実技
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
必要時に担当教員が準備する				課題提出[50%], 平常点[50%]				
授業時間外学修								
オフィスアワー	火曜日13:00～15:00							
その他留意点等	体育館用シューズ、運動服共に高校時のものも可、授業内容について講義時に積極的に質問し、参加する。							

授業科目	心理学	授業題目	人の心を理解し、心理的支援を考える	[2] 単位	後期 火1	コード 207	担当	倉田 郁也
授業目的	人の精神的側面を理解するいくつかの考え方について学び、その中で心の心理学の役割を理解し、人への支援の仕方について理解を深める。							
到達目標	人の“みる”とはどういうことか、述べるができる。人の心の働きを理解する方法について、述べるができる。心理学の人間理解の有力な知見について学び、述べるができる。							学位授与方針との関連 1・2
授業内容・計画								授業方法
1回：人をみるとは・人を理解するとは1	科学的立場について・3つの理について						講義	
2回：人をみるとは・人を理解するとは2	人の5感の機能と脳内情報処理の特質						講義	
3回：人間学・人間科学・心理学	心の心理学について、様々な心理学について						講義	
4回：人の心を理解する・研究する方法	心理学研究法概説						講義	
5回：精神分析的人間理解1	精神分析の考え方						講義	
6回：精神分析的人間理解2	精神分析の知見						講義	
7回：行動科学としての心理学1	脳科学的に心を理解する						講義	
8回：行動科学としての心理学2	心理学実験						講義・演習	
9回：人間性心理学1	主体性・創造性						講義	
10回：人間性心理学2	自己実現・人間中心療法的人間観						講義	
11回：発達心理学の人間理解	発達段階区分と発達課題、ジェンダー						講義	
12回：より良い人間関係づくり	交際相手と良い人間関係をつくっていくには						DVD活用	
13回：臨床心理学1	心の健康・不健康とは						講義	
14回：臨床心理学2	様々な心理療法概説						講義	
15回：臨床心理学3 全体のまとめ	認知・行動療法概説、全体のまとめ						講義	
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：指定しない。必要に応じ、印刷資料を配布する。 参考文献：①日本心理学諸学会連合会 心理学検定局編 『心理学検定 基本キーワード』 実務教育出版 ②図書館にある一般心理学書、隣接諸学書				定期試験[60%]，小テスト[10%]，平常点[15%]，小レポート[10%]，演習時の発表内容[5%]				
授業時間外学修	次回の授業のテーマを文献等で調べ概要を理解しておくこと。予習時間は30分以上確保すること。							
オフィスアワー	火曜日。研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等	専門用語などは、図書館にある参考文献を読むなどして理解しておくこと。							

授業科目	日本語表現法	授業題目	様々な日常場面における適切な日本語表現について考える	[2] 単位	後期 水3	コード 208	担当	斎藤 和幸
授業目的	「修学基礎」などで習得した基礎的な読み・書きや文章表現力をさらに伸ばし、学生としてまた社会人として実践的な日本語力をつけることを目的とする。また、就職試験対策にもなるように練習問題を中心に進め応用力をつける。							
到達目標	基本的な書く力と話す力を中心に、社会人として相手や場面に応じた適切な日本語表現力を習得する。また間違いやすい言葉や慣用句などの理解を深めることで、自ら問題を発見し、適切な言葉づかいや正しい表現法で書き改めることができるようになる。							学位授与方針との関連 2・3
授業内容・計画								授業方法
1回：授業目標・日本語表現法の授業の流れ・アセスメントテスト							講義と演習	
2回：書く力編① 読みやすく漢字を交える・句読点の働きを知る／以降毎回短文を書く							資料として新聞記事を読む (第2回目から毎回短文を書く)	
3回：書く力編② 和語・漢語・外来語を使い分ける・語彙という考え方								
4回：書く力編③ 書いた文を見直す・別の言い方を考える								
5回：書く力編④ 改まった表現・手紙の書き方 / 語彙問題①								
6回：話す力編① 挨拶・自己紹介の表現 / 語彙問題②								
7回：話す力編② 改まった話し方・敬語の役割 / 語彙問題③								
8回：話す力編③ 敬語を使って書く・話す / 語彙問題④								
9回：伝える力編① 話を聞く・解り易く伝える / 語彙問題⑤								
10回：伝える力編② キーワード、根拠を示して説得する								
11回：伝える力編③ 表やグラフを読む・描く・まとめ / 小テスト①								
12回：間違えやすい日本語表現①								
13回：間違えやすい日本語表現②								
14回：間違えやすい日本語表現③								
15回：復習とまとめ / 小テスト②								
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「日本語表現&コミュニケーション」実教出版 他にプリントを配布する。 国語辞書または電子辞書を携帯すること。				定期試験[50%]，小テスト[30%]，課題提出[20%] ※小テスト、課題はコメント付けて返却するので必ず復習すること				
授業時間外学修	事前にテキストを読むことと、各章の確認テストは必ず復習すること。そのために毎回少なくとも1時間程度の自学時間を確保すること。							
オフィスアワー	平日の昼休憩時は原則可能。その他「オフィスアワー」表示のある時は可能。							
その他留意点等	事前にテキストを読むこと。学習したことについて授業中に小テストを行うので、復習も欠かさないうように修得状況を自己チェックすることをすすめる。 また、関連する検定「漢字能力検定」や「日本語検定」等を受験することもすすめる。							

授業科目	介護保険事務士	授業題目	介護保険制度の理解を深め、 介護保険事務士の資格を取得する	[2] 単位	後期 水1	コード 301	担当	関口 昌利	
授業目的	この授業では、介護保険制度の理解を深め、介護報酬算定の技術を習得し、介護給付費および介護予防給付費請求事務と給付管理業務のエキスパート養成を目指す。								
到達目標	この授業を通して、介護保険制度の仕組みや専門用語の理解を深め、介護保険請求事務の実務を習得する。介護保険事務を理解した上で、介護保険事務士実技認定試験に合格する。							学位授与方針との関連 2・3	
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法	
1回：介護保険制度・サービスの種類と内容・支給限度額・請求と支払い 2回：介護報酬の算定1 居宅サービス①訪問介護・訪問入浴・訪問看護 3回：介護報酬の算定2 居宅サービス②通所介護・通所リハビリ・短期入所 4回：介護報酬の算定3 地域密着型サービス 5回：介護報酬の算定4 施設サービス 6回：居宅サービスの介護レセプトの書き方1 基本知識・作成の流れ 7回：居宅サービスの介護レセプトの書き方2 様式第二の書き方 8回：居宅サービスの介護レセプトの書き方3 ケーススタディ 9回：施設サービスの介護レセプト1 指定介護老人福祉施設（様式第八）① 10回：施設サービスの介護レセプト2 指定介護老人福祉施設（様式第八）② 11回：施設サービスの介護レセプト3 介護老人保健施設（様式第九） 12回：施設サービスの介護レセプト4 介護療養型医療施設（様式第十） 13回：公費の請求方法 返戻と査定について 14回：模擬試験 15回：認定試験								講義 講義 講義 講義 講義 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 講義・演習 試験 試験	
テキストおよび参考文献				成績評価の方法					
テキスト：「介護事務講座テキスト1・2・3・4」（株）ソラスト				認定試験[70%]，模擬試験[30%]					
授業時間外学修	復習と予習のために指示したテキスト該当箇所を読む。								
オフィスアワー	月～金曜日、10:00～17:00。ただし授業時間中と会議中を除く。研究室に表示する。								
その他留意点等	テキスト代とは別に受験手数料が必要となる。（試験前に支払う）								

授業科目	福祉情報技術	授業題目	福祉分野における ICT・IoT活用の展望を読む	[1] 単位	後期 木3	コード 302	担当	三池 克明	
授業目的	現在はIoT(Internet of Things)時代と呼ばれるように、あらゆる機器にコンピュータが内蔵されネットワークに組み込まれている。本科目では福祉と情報技術の関係を俯瞰し、どのように情報技術を活用すべきか考える力を習得する。								
到達目標	情報技術の理解を深め、福祉に取り入れる方法や考え方が身に付く。また情報技術を福祉に取り入れる際のメリット・デメリットを検討し評価できるようになる。							学位授与方針との関連 2	
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法	
1回：ガイダンス、福祉と情報技術 2回：【福祉情報1】コンピュータの仕組み 3回：【福祉情報2】「情報」とは何か 4回：【福祉情報3】記録やメッセージをコンピュータで扱う仕組み 5回：【福祉コミュニケーション1】「コミュニケーション」とは何か 6回：【福祉コミュニケーション2】コミュニケーションを支援するICT 7回：【福祉メディア1】メディアとは 8回：【福祉メディア2】メディアを支援するICT 9回：【福祉ネットワーク1】ネットワークとは 10回：【福祉ネットワーク2】ネットワークを支援するICT 11回：【福祉ネットワーク3】「プロトコル」で仕組みを捉える 12回：【福祉ネットワーク4】IoTで福祉はどう変わるか 13回：【福祉情報技術1】福祉用具・機器の「使いやすさ」とは何か 14回：【福祉情報技術2】使いやすさとヒューマンインタフェース 15回：【福祉情報技術3】福祉における人工知能								いずれも 講義・演習	
テキストおよび参考文献				成績評価の方法					
テキスト：「情報処理基礎論」近代化学社				定期試験[40%]，課題提出[30%]，平常点[30%]					
授業時間外学修	簡単でよいので予習復習を心がけ、授業中は必要に応じてメモを取るなどの理解を深める工夫をしてください。								
オフィスアワー	原則、月～木の1～5時限。事前予約は不要です。								
その他留意点等	内容にかかわらず質問が多い学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声を掛けてみましょう。								

授業科目	簿記会計	授業題目	企業活動での商取引を複式簿記で処理する仕組みを学びます。	[1] 単位	後期 木2	コード 303	担当	土屋 武夫
授業目的	基礎的な「会計言語力」をしっかり身に付け、企業活動を会計面から理解できるように、日常的に発生する商取引を正確に記録し、計算、整理する複式簿記の基礎的な一連の仕組みを身に付けることを目指す。							
到達目標	「日商簿記検定3級」の資格取得を目標とする。 日商簿記検定の検定範囲の内容の知識と技術を習得できる。							学位授与方針との関連 2
授業内容・計画								授業方法
1回：簿記の基礎・商品売買・現金・現金出納帳 2回：当座預金・当座借越・当座預金出納帳・小口現金・小口現金出納帳 3回：手形・受取手形記入帳・支払手形記入帳 4回：貸付金・借入金・有価証券 5回：その他の債権債務・消耗品の処理 6回：貸倒れと貸倒引当金 7回：固定資産と減価償却・租税公課と資本金 8回：費用・収益の繰延べと見越し① 9回：費用・収益の繰延べと見越し② 10回：仕入帳と買掛金元帳・売上帳と売掛金元帳 11回：商品有高帳 12回：帳簿の締切り 13回：精算表と財務諸表 14回：伝票制度 15回：検定問題演習								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「スッキリわかる日商簿記3級」TAC出版				定期試験[40%]，課題提出[40%]，平常点[20%] ※課題提出には毎回コメントをして返却する。				
授業時間外学修	簿記の学習は予習より、毎時学習した内容をしっかりと復習して授業に臨んでください。							
オフィスアワー	授業の前後。解らないところを、解るまで共に勉強しましょう。							
その他留意点等	「日商3級」取得を目指す基礎的な内容を習得するために、課題提出にしっかりと取り組んでください。							

授業科目	秘書概論	授業題目	秘書・秘書教育はどのような学問で、その目的は何かを理解する	[2] 単位	前期 月4	コード 304	担当	斎藤 和幸
授業目的	①秘書として必要なビジネスの知識・技術を総合的に習得し、職務を理解する。 ②秘書としての職務を正確・迅速に遂行する知識を習得する。 ③秘書としての望ましい態度を習得する。							
到達目標	秘書の役割とは何か、その職務の位置づけから業務を理解し、秘書に求められる資質や能力は何かがわかる。また、高度情報化、グローバル化する社会における秘書の仕事の基本と変化について説明できる。							学位授与方針との関連 2
授業内容・計画								授業方法
1回：授業ガイダンス：秘書と秘書教育について、授業の進め方とテキスト紹介 2回：必要とされる資質① 第1節 職業人としての自覚と心構え ・演習問題 3回：必要とされる資質② 第2節 求められる能力 ・演習問題 4回：職務知識① 第1節 秘書（補佐職）の機能 ・演習問題 5回：職務知識① 第2節 仕事の進め方 ・小テスト① 6回：一般知識① 第1節 社会常識 ・演習問題 7回：一派常識② 第2節 経営知識 ・演習問題 8回：マナー・接遇 第1・第2節 あいさつと話し方、聞き方、電話応対 ・演習 9回：マナー・接遇 第3・第4節 来客応対、交際業務 ・小テスト② 10回：技能 第1節 会議 ・演習問題 11回：技能 第2・第3節 ビジネス文書の作成と取扱い ・演習問題 12回：技能 第4・第5節 資料管理とスケジュール管理 ・演習問題 13回：技能 第6節 環境整備 ・小テスト③ 14回：秘書業務のまとめ ・秘書検定模擬問題 15回：復習と秘書業務に関する問題								講義演習 を繰り返す
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「新秘書特講」早稲田教育出版				小テスト[30%]，課題提出[20%]，期末レポート・検定試験[50%] ※小テスト、課題提出には毎回コメントをして返却する。				
授業時間外学修	小テストを行う際には復習時間を確保し、また課題提出などに際しては自学時間を1時間程度確保すること。							
オフィスアワー	平日の昼休憩時は原則可能とする。その他「オフィスアワー」表示のあるとき可。							
その他留意点等	授業時間に問題が解決できないときは、オフィスアワーを利用して研究室を訪ねてほしい。また積極的に関連する検定「秘書検定」「ビジネス実務マナー検定」に挑戦してほしい。							

授業科目	秘書実務	授業 題目	秘書・秘書教育の理論に対する 実務的アプローチをして学習する	[2] 単位	後期 月4	コード 305	担当	斎藤 和幸
授業 目的	実社会における秘書としての知識と実務能力を付けるために、実務の基本・専門知識と秘書業務を行うために必要な技能を身に付けていく。							
到達 目標	秘書の役割に対応した職務を果たすために、実務の基本から求められる能力として、話し方、接遇実務、文書作成など実際の技術を習得する。また、いろいろな実務を駆使してプレゼンテーションができる。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：授業ガイダンス 授業の進め方と秘書実務の基本 2回：秘書の役割① 秘書と管理者、専門秘書、秘書の形態 3回：秘書の役割② 秘書の仕事、秘書の資格要件、秘書の心得 ・ 演習問題 4回：秘書のコミュニケーション① コミュニケーション、身だしなみ、話し方 5回：秘書のコミュニケーション② 指示命令の受け方、敬語、接遇基本用語 6回：接遇 接遇の基本、来客応対、電話応対 ・ 演習問題 / 小テスト① 7回：慶弔と贈答 慶事と弔事の基本、贈答の心得 ・ 演習問題 8回：スケジュール管理 予定表の作成、アポイントメントの取り方 9回：出張 国内出張と海外出張 / 小テスト② 10回：環境整備 環境の管理と整備 ・ 演習問題 11回：会議のコーディネート 会議の目的と種類、運営、議事録の作成 12回：文書作成① 社内文書、社外文書 ・ 演習問題 13回：文書作成② メモ、電子メール、手紙の書き方 / 小テスト③ 14回：プレゼンテーション学習① プレゼンテーション資料の作り方 15回：プレゼンテーション学習② プレゼンテーション								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「新秘書実務」 早稲田教育出版			小テスト[30%]，課題提出[30%]，プレゼンテーション・検定試験[40%] ※小テスト、課題提出には毎回コメントをして返却する。発表は相互評価する。					
授業時間外学修	小テストを行う際には復習時間を確保し、また課題提出などに際しては自学時間を1週間程度確保すること。							
オフィスアワー	平日の昼休憩時は原則可能とする。その他「オフィスアワー」表示のあるとき可。							
その他留意点等	授業時間に問題が解決できないときは、オフィスアワーを利用して研究室を訪ねてほしい。また積極的に関連する検定「秘書検定」「ビジネス実務マナー検定」に挑戦してほしい。							

授業科目	メディカル秘書概論	授業 題目	医療現場におけるメディカル 秘書の業務・役割を理解する	[2] 単位	前期 木2	コード 306	担当	厚生連
授業 目的	本講義においては、大きく変動している医療現場で質のよいサービスを提供できる医療スタッフ、即ちメディカル秘書になるための知識を習得させることを目標とする。							
到達 目標	わが国の医療の沿革や現状を学習した上で、メディカル秘書の役割や基本的な心がまえ等身につけ、メディカル秘書に関する専門知識習得を目標とする。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：ガイダンス 2回：わが国の医療界の現状 3回：医療機関の組織 4回：医療従事者 5回：人間関係 6回：メディカル秘書の概念・必要性 7回：米国のメディカル秘書 8回：わが国のメディカル秘書 9回：メディカル秘書業務 10回：メディカル秘書の役割 11回：医療従事者に関する法規 12回：医療保険制度 13回：社会福祉制度・模擬試験 14回：診療情報管理業務の実際（佐久総合病院実習） 15回： //								講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 実習 実習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「あなたにもなれる！医療秘書」一ツ橋書店 「カルテの読み方と基本知識」じほう（概論・実務Ⅰ・Ⅱ共通） 参考文献：「医療事務総論」「医療秘書実務」建邦社			定期試験[60%]，平常点[40%] ※小テスト等は当日解説をし、フィードバックする、					
授業時間外学修	毎回復習を30分程度確保すること。興味関心を持ち、自己学習に励むこと。							
オフィスアワー	講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示がしてあるとき。							
その他留意点等								

授業科目	介護の基本Ⅲ	授業題目	要介護者の理解と介護サービス	[2] 単位	前期金1	コード	担当	関口 昌利
						835		
授業目的	介護を必要とする人(生活史、生活習慣、生活様式、生活のリズム、価値観、障害の有無、そのもつ障害の種類・程度など多様)を理解し、個別の自立した生活を支える介護サービスを考え、ケアプラン、ケアマネジメントの流れ、仕組みをふまえ、介護福祉士として介護実践できる能力を養うことを目指す。							
到達目標	介護を必要とする人は十人十色である。それぞれ生活史を異にし、生活習慣・生活様式を異にし、生活空間・生活時間の持ち方を異にする。そのもつ価値観も違うし、そのもつ障害の種類も程度も異にしている。生活の視点から、個別の環境の状況の中にある人を理解する能力を養うことができる。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画 (授業方法：いずれも講義・演習)								
1回：介護サービス① 介護支援と介護計画(ケアプラン)	介護支援の過程を理解(情報収集・アセスメント・介護計画(ケアプラン)作成・介護実践(実施)・評価・状況の観察の流れの把握)、課題分析で検討を要する項目、ICFモデルに基づく「生活機能障害」「背景因子」について考える。							
2回：介護サービス② ケアマネジメントの展開	ケアマネジメントは、生活上のニーズに焦点をあて、ニーズを充たし解決していくための道筋をつけること。介護支援の展開(介護過程)とは似ているが、解決すべき利用者の課題の性質が異なっていることを理解する。							
3回：介護サービス③ ケアプランの作成と手法	アセスメントで確認された目標を達成するためには、最良・実現可能な方法を考え、プランを作成しなければ、生活課題の達成に結びつけられないことを理解する。プランには、支援の内容(多種・多様な資源について)検討しなければならないことを理解する。							
4回：介護サービス④ 介護サービス計画書の作成	介護保険利用者の個別の具体的な介護サービス計画の作成には、「アセスメント」(課題分析)で着目しなければならない標準化された項目、ICFモデルで取り上げられる「生活機能障害」や「背景因子」に着目することが大切であることを理解する。							
5回：介護サービス⑤ 介護サービスの種類	介護保険のサービスの種類を理解する。・フォーマルサービスとインフォーマルサービス・在宅と施設、訪問系、通所系、医療系、福祉用具の利用。 介護サービス計画書は、「利用者や家族」と交わされるサービス利用の契約書であることを理解する(居宅サービス計画書は介護保険制度開始当初から、福祉サービス計画書は2003年から、義務化されている。)							
6回：介護サービス⑥ ケアカンファレンスと記録	個別の具体的な介護サービス計画の作成(計画書の作成)には、ケアチームメンバーによるケアカンファレンス(事例検討)を重ねて計画を練り上げる必要がある。介護実践の段階、アセスメントの段階のそれぞれにおいて、記録が最低限必要であることを理解する。(どのような職種や関係機関がどのような「サービスパッケージ」をつくるか、計画を行動レベルでどう示すか、役割分担、意見交換や情報交換、業務の引継ぎなど、伝達ミレや聞き違いなどがあってはならない)							
7回：介護サービス⑦ 記録の実際	施設介護計画・通所介護計画・訪問介護計画に関して、記録そして計画書の作成ができるように学習する。							
8回：介護サービス⑧ 介護報酬	介護サービスの提供に要した費用の9割は、保険者である市町村・広域連合から、その1割は利用料として利用者から事業者を支払われることを理解する。介護サービス財源の厳しさは、社会的な改革問題となっていることを理解する。							
9回：介護サービス⑨ 介護保険サービスのまとめ	法改正によって「予防重視型システムへの転換」「新たなサービス体系創設(地域密着型サービス、地域包括支援センター設置、居住系サービスの充実)」「サービスの質の確保・向上(情報開示の標準化、事業者規制の見直し、ケアマネジメントの見直し)」などについて理解し、どう自己啓発するか考える。							
10回：介護サービス⑩ 居宅介護支援	居宅介護支援の一層の進展のためには、多種・多職種のチームケアのさらなる発展が望まれることを理解する。(他職種の機能役割に対する理解をさらに深め、連携を強化し、支援の実践の効果をどのようにしたら高めることができるかを考える。)							
11回：介護サービス⑪ 介護職の労働の対価	「利用者の尊厳」を守り、「安心・安全」を確保するための「ヒト・モノ・カネ」の充実が、求められていることを理解する。介護サービスに従事するメンバーの質を高め、補充の方策について考える。							
12回：介護サービス⑫ 介護専門職の社会的評価	介護福祉のさらなる発展のためには、「介護の職種」に対する社会的評価を高め、介護職への就任をしたいと願望する者が多くなる条件整備が必要であることを理解し、自己啓発について考える。							
13回：介護サービス⑬ 効率よいサービスの改善	介護サービスを支える財源について、社会的に議論が高まってきていることをふまえ、どのようにしたら低いコストで高レベルのサービスを再構築できるか考える。介護保険サービス運営に責任をもつ、市町村行政の現状を理解し、求められる在り方を考える。							
14回：介護サービス⑭ 契約の時代と アカウンタビリティ	福祉改革がすすみ、措置の時代から契約の時代へと変わった。利用者の権利擁護のしくみとして、苦情処理、サービス評価制度導入、成年後見制度、地域福祉権利擁護事業など基盤整備がなされていることを理解し、「利用者本位」「自立支援」の考え方が強調されている視点から、アカウンタビリティ(説明責任)が重視されてきていることを考える。							
15回：介護サービス⑮ 授業の総括(まとめ)	介護を必要とする人に対する介護サービスの現状について総括的にまとめ、「介護専門職」である自分の資質をどう高めるか考える。							
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
テキスト：「介護の基本」メヂカルフレンド社 (介護の基本Ⅰ～Ⅳ 共通)						定期試験[70%]		
参考文献：「国民の福祉と介護の動向2017/2018年」一般財団法人厚生労働統計協会						課題提出[30%]		
授業時間外学習	予習と復習のために教員が指示したことを行う							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	介護の基本IV	授業題目	安全とリスクマネジメント	[2] 単位	後期 月3	コード 837	担当	菊池小百合
授業目的	介護を必要とする人の「尊厳の保持」「自立支援」を目指して介護実践する上で必要とされる「生活の安全」の確保、そのための「リスク」をいかに排除し、「セーフティマネジメント」を展開する知識を学び、事故防止、安全対策、緊急時対応などについて学習する。							
到達目標	「安全の概念」を予防・自立の視点から考え、セーフティマネジメントのあり方を理解し、介護を必要とする利用者の個別事例に即し「セーフティマネジメントのあり方」を提案し説明できるようになること、緊急時対応、災害時対応ができ、介護専門職の安全・健康管理について認識して介護の自立支援に活用できるようになることを到達目標とする。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画 (授業方法：いずれも講義・演習)								
1回： 介護における安全の確保とリスクマネジメント 安全の確保とリスクマネジメント① 介護における安全の意義	「安全とリスクマネジメント」の学習の意義(「介護の 基本」)であり、「より質の高いサービス」を提供することで事故を未然に防ぐ(「質の改善」<quality improvement>)ための学習が目的であることを理解する。							
2回： 介護における安全の確保とリスクマネジメント 安全の確保とリスクマネジメント② 安全の確保①	「安心・安全」の生活、「快適な生活」、「尊厳と自立」の生活を確保するために、「 <u>ヒューマンエラー</u> 」に関する理解、その <u>リスク対策</u> 、 <u>セーフティマネジメント</u> が必要であることを理解する。							
3回： 安全の確保とリスクマネジメント③ 安全の確保②	転倒、転落、骨折などが要介護者の生活過程、介護過程で起こる可能性を理解させ、その「 <u>ヒューマンエラー</u> 」をいかに防止し、 <u>介護支援</u> を行って「より質の高いサービス」を提供するか。観察と多面的予測と分析が必要であることを理解する。							
4回： 安全の確保とリスクマネジメント④ 安全の確保③	介護過程で起こる可能性のある危険の実態について討議し、 <u>起こる可能性のある要因に関する情報を共有し</u> 、生活支援技術の原則と工夫について考える。							
5回： 安全の確保とリスクマネジメント⑤ 事故防止・安全対策①	<u>施設内事故の特徴と対策</u> を理解し、「介護の基本」に沿った <u>危険防止対策</u> 、 <u>苦情処理</u> 、 <u>環境条件の改善・整備</u> について考える。							
6回： 安全の確保とリスクマネジメント⑥ 事故防止・安全対策②	起こる可能性のある在宅での <u>事故の特徴と対策</u> について考える。「 <u>与薬</u> 」、「 <u>誤嚥</u> 」、「 <u>転倒事故</u> 」、「 <u>消費者被害</u> 」などの生活安全確保について考える。 <u>緊急連絡</u> についての理解を深める。							
7回： 安全の確保とリスクマネジメント⑦ 医療対応時の対策	<u>医療受診上のリスク</u> (複数の診療科別の服薬に伴う危険)に対する薬の管理と <u>危険防止対策</u> を理解する。 <u>救急</u> 、 <u>緊急連絡</u> について理解を深める。							
8回： 安全の確保とリスクマネジメント⑧ 緊急時の対応	高齢者の病気の経過は非安定(無痛性心筋梗塞、無熱性肺炎)であったり、 <u>廃用症候群</u> の症状を示す場合、事故と関連した転倒、溺水、誤嚥と窒息、熱傷(やけど)、虚血性心疾患、脳出血、高齢者の <u>疾病の特徴</u> として急変する傾向など。 <u>事故対応</u> 、 <u>救急対応</u> が必要となるケースが多いことを理解する。							
9回： 安全の確保とリスクマネジメント⑨ 防火・防災対策	災害(地震、洪水、土石流、火災)、詐欺、窃盗など、身の安全を脅かす危険に対して、 <u>防水・防災・防犯</u> について理解する。日常的な見守り、 <u>災害時のネットワーク</u> について理解する。							
10回： 安全の確保とリスクマネジメント⑩ 感染対策	インフルエンザ、B型・C型肝炎、HIV、MRSA、疥癬、マラリア、性感染症など疾病についての基礎知識を理解し、感染予防の意義と介護(<u>基礎知識と感染対策の方法技術</u>)を学習し、 <u>感染管理</u> と <u>衛生管理</u> を学ぶ。							
11回： 安全の確保とリスクマネジメント⑪ ヒヤリハット	「人は誰でも間違いや失敗をする」(<u>ヒューマンエラー</u>)について理解する。事故まで発展しなくても「 <u>ヒヤリハット</u> 」を多くの介護従事者が経験していることをふまえて、 <u>事故予防対策</u> を組織的にシステムとして構築する必要があることを学ぶ。							
12回： 介護従事者の安全① 心の健康管理	高い使命感をもつ介護従事者は、多くのストレスに苦しめられ、「 <u>燃え尽き症候群</u> 」に悩まされる傾向があることを理解し、 <u>心の健康管理</u> が大切であることを考え、 <u>気楽にスーパーバイザーの指導</u> を受けることが重要であることを理解する。							
13回： 介護従事者の安全② 腰痛予防の対策	身体の使い方で腰に負担のかかる業務が多いことを理解する。 <u>ボディメカニクス</u> をふまえた介護業務動作を心がける。 <u>腰痛予防の原則</u> を学ぶ。福祉用具導入、環境改善について考える。							
14回： 介護従事者の安全③ 感染予防の対策と労働安全	社会福祉法第3条「福祉サービスの基本理念」に即し、「 <u>安心・安全</u> 」の <u>リスクマネジメント</u> を確保するのに、まずは、 <u>介護従事者の健康管理</u> が重視されることを理解する。							
15回： 労働安全対策	快適な職場を作るために、環境づくりの重要性を理解する。							
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「介護の基本」メヂカルフレンド社 (介護の基本 I～IV 共通) 参考文献：必要に応じ紹介する。					定期試験[60%]、小テスト[20%]、課題提出[10%]、平常点[10%]			
授業時間外学修	小テストを行うので、復習をしておくこと。 日常生活や施設実習で事故防止についてよく観察すること。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしている時							
その他留意点等								

授業科目	コミュニケーション技術Ⅱ	授業 題目	介護専門職としての コミュニケーション	[1] 単位	前期 金4	コード 841	担当	宮内 克代
授業 目的	要介護者の心理と環境を理解し、それに基づいて介護者として求められるコミュニケーションのあり方を体得する。さらに、利用者の家族とのコミュニケーション、同僚や他職種との協働におけるコミュニケーション能力を高めることを授業目的とする。							
到達 目標	介護者としてのコミュニケーション能力を高めるために、形態別（身体の障害、認知症など）のコミュニケーション方法を学ぶ。さらに組織の一員として介護チーム内で良好なコミュニケーションがとれることを目標とする。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：利用者の状態に応じたコミュニケーション①		視覚が低下している利用者、手話						いずれも 講義・演習 事例研究
2回：利用者の状態に応じたコミュニケーション②		聴覚が低下している利用者						
3回：利用者の状態に応じたコミュニケーション③		言語障害を持つ利用者						
4回：利用者の状態に応じたコミュニケーション④		非協力的な家族への対応						
5回：利用者の状態に応じたコミュニケーション⑤		家族からの苦情への対応						
6回：介護におけるチームのコミュニケーション①		記録の意義と目的						
7回：介護におけるチームのコミュニケーション②		記録の種類と書き方						
8回：介護におけるチームのコミュニケーション③		記録の管理と有効活用、個人情報保護						
9回：介護におけるチームのコミュニケーション④		報告の意義と目的						
10回：介護におけるチームのコミュニケーション⑤		報告、連絡、相談の方法と留意点						
11回：介護におけるチームのコミュニケーション⑥		会議の意義と目的						
12回：介護におけるチームのコミュニケーション⑦		介護現場での会議の種類と役割						
13回：建設的なコミュニケーション技法①		アサーティブな対人関係とは						
14回：建設的なコミュニケーション技法②		アサーティブな表現方法						
15回：今期のまとめと振り返り								
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト： 「介護福祉スタッフのためのケア・コミュニケーション」 ウイネット（コミュニケーション技術Ⅰ・Ⅱ 共通）				定期試験[50%] 平常点[25%] グループワークやロールプレイにおける授業への貢献度 [25%] ※導き出した答えに対しフィードバックを行う。				
授業時間外学修	復習プリントを配布するので、30～60分でやっておく。							
オフィスアワー	金曜日 5限							
その他留意点等	国試の過去問を配布するので、30～60分でやっておく。							

授業科目	福祉ビジネス概論	授業題目	国内における福祉ビジネスを理解する	[2] 単位	前期 水2	コード 811	担当	廣橋 雅子	
授業目的	福祉ビジネスの最新情報や企業事例をもとに、組織運営やマーケット戦略を理解しリーダー的素養を身につける								
到達目標	福祉に関わるビジネス知識を深め、自ら考える力を鍛えることを目標とする							学位授与方針との関連 1・2	
授業内容・計画								授業方法	
1回：導入：福祉ビジネスは成り立つのか 2回：福祉ビジネス業界で働く人々 3回：高齢者を対象にしたビジネス戦略 4回：福祉ビジネスにおけるイノベーション 5回：福祉ビジネスが生み出す地域共生① 事例分析 6回：福祉ビジネスが生み出す地域共生② 事例分析 7回：高齢社会で組織が生き延びるには - 企業事例 8回：ディスカッション① 「これから伸びるビジネスとは」 9回：国内外介護人材における人材育成ビジネス 10回：ものづくりが変える福祉ビジネス 11回：グループ発表① 12回：サービス付き高齢者住宅の運営 - 企業事例 13回：グループ発表② 14回：サービス業と福祉ビジネス - 企業事例 15回：グループ発表③								講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 演習 講義 演習 講義 演習	
テキストおよび参考文献				成績評価の方法					
テキスト：授業中に配布する。日経ビジネス、東洋経済、地域介護経営(旧:介護ビジョン)、新聞など				課題提出[70%], 平常点[30%]					
授業時間外学修	図書館にある経済雑誌や白書などを利用し、毎週最新の情報を少なくとも1つ集めるように心がけることが望ましい。								
オフィスアワー	月曜日～木曜日、午前10時～午後4時まで。授業時間は除く。事前の予約が望ましい。								
その他留意点等									

授業科目	アジア福祉事情	授業題目	東アジア諸国の介護事情	[2] 単位	後期 水2	コード 812	担当	廣橋 雅子	
授業目的	東アジア諸国における医療・保険・福祉・雇用などの仕組みを学習する								
到達目標	各国の現状を理解し課題をみつけることを目標とする							学位授与方針との関連 1・2	
授業内容・計画								授業方法	
1回：東アジアの福祉国家における共通性と多様性 2回：アジアの教育思想と宗教観 3回：介護文化の違いはどこからくるか 4回：中国の医療制度 5回：中国の福祉政策 6回：中国の介護事情 7回：台湾の医療制度 8回：台湾の福祉政策 9回：台湾の介護事情 10回：台湾と中国の福祉ビジネス展開 11回：EPA対象国の日本への期待 12回：技能実習生の日本への期待 13回：これからの東アジアの展開 14回：学生報告 15回：学生報告								講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 演習 演習	
テキストおよび参考文献				成績評価の方法					
テキスト：授業中に配布する。日経ビジネス、東洋経済、地域介護経営(旧:介護ビジョン)、新聞など				課題提出[70%], 平常点[30%]					
授業時間外学修	図書館にある経済雑誌や白書などを利用し、毎週最新の情報を少なくとも1つ集めるように心がけることが望ましい。								
オフィスアワー	月曜日～木曜日、午前10時～午後4時まで。授業時間は除く。事前の予約が望ましい。								
その他留意点等									

授業科目	ビジネス インターンシップⅡ	授業 題目	専門性に関連した就業体験を行う	[1] 単位	前期 集中	コード 814	担当	齋藤 和幸
授業 目的	自らの専門性やキャリアに関連した福祉ビジネスをはじめとする企業等において、実際に就業体験をすることで職業観を確立することを目的とする。 Ⅱは福祉関連機関をはじめ企業等でのインターンシップとする。							
到達 目標	自らの専門性やキャリア教育で得た知識や技術を活かすことができ、将来の職業選択に役立てることができる。社会における良好な人間関係を築くために、ビジネスマナーやコミュニケーション力を応用することができ、働くことの意味を見出す機会となる。							学位授与方針との関連 1・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
授業は時間割上には配置しないで、履修登録者の授業時間を調整して、授業ガイダンス及びインターンシップ（就業体験）に臨む前に事前講義を2回、終了後に1回の計4回の予定で学内講義を実施する。 第1回：授業ガイダンス、インターンシップとは、インターンシップ・エントリー、履歴書作成 第2回：事前講義① 業種や職種を調べる、コミュニケーションスキル、ビジネスマナー 第3回：事前訪問の目的と注意事項、実習中の注意事項 以降、個別に対応し、インターンシップに臨む 期間：実質15日間（5月21日～6月15日の間を予定、又は休暇期間） 実施先は原則福祉施設又は一般企業とする 第4回：インターンシップ事後研修								講義・演習 実習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：使用しない。 プリント資料を配布する。				課題提出[50%]、 実習評価・実習報告書評価[50%]				
授業時間外学修								
オフィスアワー	研究室に「オフィスアワー」の表示があるときは可能。							
その他留意点等	インターンシップは、事前講義を終了し受け入れ許可が得られた場合にのみ実施できる。							

授業科目	福祉ボランティア	授業 題目	ボランティア活動の参加	[1] 単位	後期 集中	コード 815	担当	三池 克明 倉田 郁也
授業 目的	ボランティア活動を通じて自己発見や成長を促し、相互扶助精神の修養を図る。							
到達 目標	ボランティア活動に参加し、参加者間の交流や達成感を通じて経済的価値とは異なる価値を実感し、相互扶助精神を身につける。							学位授与方針との関連 1・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回目 ガイダンス 2回目以降は以下のステップで進める。 ①参加するボランティアの選択 ・受講生は学生課が発信するボランティア活動を選択。 ・必要に応じてボランティア担当者との打ち合わせを行う。 ②ボランティア活動の参加 ・ボランティア活動に参加する ③レポートの提出 ・参加したボランティア活動についてのレポートを提出する ※ボランティア活動の実働時間が30時間（例：1日あたり6時間なら5日間）以上であること。なお参加にあたっての打合せ等の時間を含めてよい。								いずれも 演習または 学外活動参加
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：なし				課題提出[30%]、平常点[30%]、 ボランティア活動参加 [40%]				
授業時間外学修	教員への相談、ボランティア担当者との打合せ、ボランティア活動への参加、レポート作成などの時間を確保してください。							
オフィスアワー	<三池>原則、月～木の1～5時限 <倉田>原則、火～金の1～5時限 ※三池、倉田ともに事前予約は不要です。							
その他留意点等	内容に関わらず質問・相談が多い学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声をかけてみましょう。							

授業科目	福祉と会計	授業題目	社会福祉法人会計基準に基づいての会計処理を学びます。	[2]単位	前期木2	コード 822	担当	土屋 武夫
授業目的	社会福祉法人会計基準が本格的に適用され、各法人はこの会計基準に基づいて適正に会計処理をし、財務諸表を作成する必要があります。社会福祉法人会計を体系的実践的に扱い、職務遂行に役立つようにします。							
到達目標	社会福祉法人会計の特色と会計基準を理解し、日々の会計処理を会計基準に基づいて行えるようにするとともに、貸借対照表・事業活動報告書・資金収支報告書を作成する基礎的な知識と技術を習得します。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：社会福祉法人会計の概要・貸借対照表の仕組み 2回：介護保険事業の基本的取引の仕訳 3回：「介護保険事業収益」・「給食費」他の基本的勘定科目への転記 4回：介護保険事業に係わる取引の仕訳と転記 5回：試算表（期首残高・期中取引・期末残高）の作成 6回：貸借対照表の変動①（純資産・支払資金） 7回：貸借対照表の変動②（事業活動計算書・資金収支計算書） 8回：支払資金関係の増減取引① 9回：支払資金関係の増減取引② 10回：試算表の作成 11回：精算表（6桁）の作成 12回：固定資産と減価償却 13回：精算表（8桁）の作成③（その他取引） 14回：精算表（8桁）の作成④（その他取引） 15回：まとめ								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：「会計基準省令 準拠 社会福祉法人会計簿記テキスト入門編・初級編」 一般社団法人 総合福祉研究会、実務出版				定期試験[40%]，課題提出[40%]，平常点[20%] *課題提出には毎回コメントをして返却する。				
授業時間外学修	簿記の学習は予習より、毎時学習した内容をしっかりと復習して授業に臨んでください。							
オフィスアワー	授業の前後。解らないところを、解るまで共に勉強しましょう。							
その他留意点等	社会福祉会計簿記認定試験（初級）の取得を目指す基礎的な内容を習得するために課題提出にしっかりと取り組んでください。							

授業科目	生活文化	授業題目	衣食住の生活の変遷と背景を理解する	[2]単位	後期金2	コード 823	担当	宮本 由香
授業目的	衣食住は、生活の一番基盤となる部分であり、社会背景や個人を取り巻く環境等により、人それぞれ異なる文化を持っている。本科目では、この衣食住生活の変遷を、時代背景と合わせ学んでいくことで、実際の援助場面において対象者の生活背景を理解する際の手がかりとなるとともに、自分自身の生活の振り返りを目的として、授業を展開していく。							
到達目標	この授業を通して、高齢者をはじめとする支援を必要とする他者とコミュニケーションをとる際のツールとなる。自分自身のライフサイクルを知り、ライフプランをたてられる。							学位授与方針との関連 1・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：自分の生活について考えてみる（家族・衣食住・遊び・コミュニケーションツール等） 2回：「家族」とは1 多様化する家族 3回：「家族」とは2 アニメに見る家族 4回：住生活の変遷とその背景1 生活様式の変化と住まい 5回：住生活の変遷とその背景2 介護の住環境 6回：衣生活の変遷とその背景1 気候風土と衣服 7回：衣生活の変遷とその背景2 生活様式の変化と着装 8回：衣生活の変遷とその背景3 介護の衣服(衣服の持つ意義、援助のあり方) 9回：食生活の変遷とその背景1 食文化：何を食べてきたか 10回：食生活の変遷とその背景2 食文化：食事様式 11回：食生活の変遷とその背景3 食文化：年中行事と食、郷土の食 12回：食生活の変遷とその背景4 現在の食生活とその問題点 13回：食生活の変遷とその背景5 介護と食生活(食事の意義、食事援助のあり方) 14回：子どもの遊びの変遷と、遊びの効果、高齢者にとっての遊びとは 15回：まとめ ・高齢者の生活背景を理解した上での関わり方について、意見交換、演習								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：必要に応じて資料を配布する。 参考文献：必要に応じて紹介する。				定期試験[40%]，課題提出[30%]，平常点[30%]				
授業時間外学修	単元ごとに課題を課すので、聞き取り調査、行政施策等調べておくこと。							
オフィスアワー	授業前後の休み時間または講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	国際福祉比較論	授業 題目	北欧福祉国家デンマークと日本型福祉 社会日本との社会福祉政策・援助方 法についての比較	[2] 単位	後期 集中	コード 824	担当	野口 典子 汲田千賀子
授業 目的	わが国の社会福祉政策・援助方法に関して、そのあり方についての評価を行っていくためには、諸外国と りわけ先進国・地域との比較検討を行うことが不可欠です。本講義は、北欧の中でも福祉国家を堅持して いるデンマークを比較対象としてわが国の社会福祉政策・援助方法について検討していきます。							
到達 目標	①北欧の福祉国家形成と現状についての理解を深めることができる。②先進的实践を検討す ることを通して、わが国への援用を考察することができるようになる。③専門職として自ら の仕事の質を高めるための実践研究方法について見識をもつことができるようになる。							学位授与方針との関連 1・2
授 業 内 容 ・ 計 画							授 業 方 法	
<p>1回：デンマークと日本の社会福祉政策の形成についての概略 1960年代以降の社会福祉政策（とくに高齢者福祉）について政策がどのように 変化してきているかについて解説する</p> <p>2回：デンマークの人々の暮らし及び暮らし方 日本人の働き方、暮らし方との差異 家族や近隣との過ごし方 「古い」の捉え方</p> <p>3回：デンマークの学校教育のシステムと介護士養成 学校教育の仕組み 介護の専門教育を受ける「SOSU学校」 医療、福祉に関する資格</p> <p>4回：介護士養成（デンマークの社会保健介助士と社会保健介護士）の歴史とカリキュラム、 日本の介護福祉士との比較 「社会保健介護士」と「社会保健介助士」の違い 事例検討を通して身に着ける実践力 専門職の高度化をめぐる介護現場の現状</p> <p>5回：介護士（デンマークの社会保健介助士と社会保健介護士）に必要とされる能力と実践 介護士（デンマークの社会保健介護士）ができる「医療行為」、日本との比較 介護士（デンマークの社会保健介護士）に求められる「ソーシャルワーク機能」</p> <p>6回：認知症ケアの社会的方策と展開 パーソンセンタードケア 医療と介護・福祉の統合ケア「協力モデル」</p> <p>7回：認知症ケアを担う専門職と実践 実務研修の必須化とその理由 認知症コーディネーターの職務と責任</p> <p>8回：個にこだわるケアの理念と実践 自己選択、自己決定を可能にする「介護遺言」の実践 高齢者三原則と実践との連動</p> <p>9回：認知症ケアの実践 利用者がしたいことを考える「森のデイサービス」 回想ダンス 習慣／日課を大事にするケア</p> <p>10回：福祉テクノロジーの介護現場へ導入の現状 なぜ福祉テクノロジーが介護現場に必要なのか 福祉テクノロジーをめぐる倫理的課題</p> <p>11回：高齢者福祉政策の日本とデンマークの相違点 デンマークの高齢者福祉の流れ 施設ケアから在宅ケアへ、そして「住宅とケア」へ</p> <p>12回：地域包括ケアシステムの導入の類似点と相違点 在宅医療と「協力モデル」 自己選択、自己決定</p> <p>13回：パーソナルアシスタントと訪問介護 訪問介護事業のしくみと限界 個別契約型ホームヘルプ事業</p> <p>14回：孤独と孤立/「高齢者の孤独」を読んで 社会的孤立の現状と打開方法</p> <p>15回：21世紀のこれからの社会福祉・介護福祉を構想する デンマークからの学びを通して、日本の現状を変革していくための方法について 検討する</p>							<p>基本的には、 講義を中心にし て展開してい きます。 必要に応じて グループ討議と その後、 小レポート作成 をします。</p>	
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
テキスト：開講時に指示する。 参考文献：必要に応じて紹介する。				課題提出[35%]，平常点(授業出席度)[60%] グループ討議への参加度 [5%]				
授業時間外学修								
オフィスアワー	講師控室のドアに『オフィスアワー』の表示をしているとき。							
その他留意点等	新聞、雑誌、テレビなど取り上げられている記事、情報を集めておいてください。							

授業科目	社会学	授業題目	社会学の基礎	[2] 単位	前期 月2	コード 825	担当	内藤 博幸
授業目的	この授業は、社会人として働く上で必要な人間の本質的問題を現代社会の理解という角度から学び、専門職としての土台を形成させることを目的とする。							
到達目標	この授業を通して、家族、人口動態など社会の変化に伴う社会福祉施策の変遷を学び、生活に関連した具体的な社会システムを理解することを目標とする。							学位授与方針との関連 1・3
授業内容・計画								授業方法
1回：社会学とはどういう学問か 2回：社会階層と社会移動 3回：労働と市場 4回：市場経済と格差社会 5回：グローバリゼーションと我が国への影響 6回：社会移動と福祉国家 7回：地域社会の集団と組織 8回：社会的役割 9回：近代組織の典型 10回：社会的ジレンマ 11回：近代化と社会的連帯 12回：日本社会と社会問題 13回：新しい貧困 14回：共生社会と権利 15回：まとめと振り返り								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
プリント等配布				定期試験[50%]，小テスト[40%]，研究発表[10%] ※グループワークを発表し、それに対してフィードバックする。				
授業時間外学修	次週の小テストに備え復習する（30分）							
オフィスアワー	月曜日12:10～13:00。講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	社会保障論	授業題目	現代日本の社会保障を学ぶ	[2] 単位	後期 月2	コード 826	担当	内藤 博幸
授業目的	この授業では、社会保障の意義、しくみ、歴史的変遷などを学び、公民としての自覚と誇りを身につけることを目的とする。							
到達目標	この授業を通して、「若者がなぜ高齢者の年金を負担するのか」「健常者がなぜ障害者の医療費を負担するのか」などを理解し、自助・共助・公助の精神を身につけることを到達目標とする。							学位授与方針との関連 1・3
授業内容・計画								授業方法
1回：社会保障とは何か 2回：社会保障の基本的な考え方 3回：エリザベス救貧法と新救貧法 4回：ベヴァリッジ報告とナショナルミニマム 5回：我が国の社会保障の成り立ち 社会保障審議会50年報告 6回：国民皆保険・国民皆年金 7回：自助・互助・共助・公助 8回：乳児死亡率ゼロを目指した村 9回：市場と社会保障制度 10回：社会手当 11回：エスピン・アンデルセンの福祉国家レジューム 12回：イギリスの社会保障制度 13回：アメリカの社会保障制度 14回：北欧の社会保障制度 15回：まとめと今後の課題								いずれも 講義・演習
テキストおよび参考文献				成績評価の方法				
授業毎に資料配布				定期試験[60%]，小テスト[40%] ※小テストで多く見られた誤答を解説し、フィードバックする。				
授業時間外学修	次週の小テストに備え、学習内容を復習しておく（30分）。							
オフィスアワー	月曜日12:10～13:00。講師控室ドアに「オフィスアワー」の表示があるとき。							
その他留意点等	国試の過去問を学ぶので、しっかり復習すること。							

授業科目	生活支援技術 障害編Ⅲ	授業 題目	障害に応じた自立とQOLを 目指した生活支援具術を学ぶ。	[1] 単位	前期 火4	コード 851	担当	菊池小百合
授業 目的	この授業では、障害を持つ人の、自立・自律を尊重し、残存機能を引き出し活用する介護の知識と技術を身につけ、尊厳を保ち障害のレベルにあった介護技術が提供する能力を養うことを目指す。							
到達 目標	この授業を通して、尊厳の保持の観点から、その人の自立・自律を尊重し、残存機能を引き出し、活用する介護技術及び知識を身につけ、障害のレベルにあった介護技術を提供できる能力を養うことができる。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画 （授業方法：いずれも講義・演習）								
1回：聴覚障害のある人の生活支援技術	聴覚障害者の生活支援 日常生活の管理 聴覚代行機器と福祉用具 コミュニケーションの実際							
2回：視覚障害のある人の生活支援技術	視覚障害のある人の生活上の困難							
3回：視覚障害のある人の生活支援技術	中途障害者の特徴 日常生活の支援ことばによるガイド 福祉機器使用による援助							
4回：内部障害のある人の生活支援技術	内部障害の基礎知識 日常生活の留意点							
5回：心臓機能障害のある人の生活支援技術	心臓循環器障害の基礎知識 日常生活の介護 食事 活動他 緊急時の対応 ペースメーカー装着者の生活援助 注意点							
6回：呼吸機能障害のある人の生活支援技術	呼吸機能障害の基礎知識							
7回：呼吸機能障害のある人の生活支援技術	日常生活の介護 呼吸状態の観察 理学的なリハビリテーション 在宅酸素療法をうけている人の生活支援 注意事項							
8回：腎臓機能障害者の生活支援技術	腎臓機能障害の基礎知識 日常生活の介護 透析利用者の生活支援							
9回：膀胱機能障害のある人の生活支援技術	膀胱機能障害の基礎知識 日常生活の介護 失禁 頻尿							
10回：膀胱機能障害のある人の生活支援技術	排尿困難（神経性膀胱を含む）の介護 ストーマ カテーテル使用者の生活支援 注意点							
11回：直腸機能障害のある人の生活支援技術	大腸 直腸機能障害の基礎知識							
12回：直腸機能障害のある人の生活支援技術	日常生活の介護 ストーマ保有者の生活支援 日常生活の注意 パウチ交換							
13回：小腸機能障害者のある人の生活支援技術	小腸機能障害の基礎知識 日常生活の介護 栄養補給（経管栄養 胃ろう 中心静脈栄養を含む）の留意点 経管栄養他 観察 注意点							
14回：難病者および全介助を要する人の 生活支援技術	難病（特定疾患）についての基礎知識 （定義 公的援助など） 運動機能 失調を伴う難病 残存機能 QOL 福祉機器（人工呼吸器等）							
15回：全介助者を要する人の生活支援技術	全介助が必要な利用者の特徴 身体的 精神的 社会的特徴 スピリチュアルなケア 苦痛の緩和 終末期のケア							
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「生活支援技術Ⅱ 障害編」メヂカルフレンド社 （生活支援技術障害編Ⅰ～Ⅲ 共通） 参考文献：必要に応じ紹介する。					定期試験[50%]，小テスト[20%]， 課題提出[20%]，平常点[10%] ※小テストは採点し、次週必要箇所については再度解説を行う。			
授業時間外学修	適宜授業の翌週に小テストを行うので復習しておくこと。次の章を読み理解しておくこと。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	介護過程Ⅱ	授業 題目	根拠に基づく 介護過程の展開	[1] 単位	前期 火1・火2	コード 859	担当	永野 淳子
授業目的	根拠に基づいた介護過程の展開ができるために、介護を必要とする人の身体、精神、社会環境の相互作用について理解できるようになる。							
到達目標	1. 収集した情報を論理的な思考のもとに分析・解釈・判断することができる。 2. 介護過程を展開するための知識と技術を統合できる。 3. 利用者の状態に適った介護計画を立案することができる。							学位授与方針との関連
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：オリエンテーション、1年次の振り返り								講義
2回：アセスメント1（観察の視点）								演習
3回：アセスメント2（収集する情報）								演習
4回：アセスメント3（アセスメント用紙の作成）								演習
5回：アセスメント4（アセスメント用紙の作成）								演習
6回：アセスメント5（課題の分析、生活課題の明確化）								演習
7回：アセスメント6（課題分析シートの作成）								演習
8回：アセスメント7（課題分析シートの作成）								演習
9回：介護計画の立案1（介護目標の設定）								講義
10回：介護計画の立案2（介護目標の設定）								演習
11回：介護計画の立案3（支援方法と内容の作成）								演習
12回：介護計画の立案4（支援の際の留意点）								講義
13回：介護計画の実施1（実施における留意点、モニタリング）								演習
14回：介護計画の評価（支援経過記録・評価表の作成）								演習
15回：介護実習の振り返り1								演習
16回：介護実習の振り返り2								演習
17回：介護実習の振り返り3（評価）								演習
18回：介護実習の振り返り4（評価）								演習
19回：ケアプランと介護過程（ケアプランと介護計画の連動）								演習
20回：チームアプローチ（カンファレンス）								演習
21回：自立に向けた介護過程1								演習
22回：自立に向けた介護過程2								演習
23回：自立に向けた介護過程3								演習
24回：自立に向けた介護過程4								演習
25回：利用者の状態・状況に応じた介護過程1								演習
26回：利用者の状態・状況に応じた介護過程2								演習
27回：利用者の状態・状況に応じた介護過程3								演習
28回：利用者の状態・状況に応じた介護過程4								演習
29回：まとめ1（本科目の授業内容）								講義
30回：まとめ2（本科目の授業内容と国家試験の試験との関連性）								講義
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
テキスト：「介護過程」中央法規（介護過程Ⅰ～Ⅲ共通） 「アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック」榎みらい 参考文献：「ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版」中央法規出版						定期試験[70%]，課題提出[30%]		
授業時間外学修	予習：授業のテーマに沿ったテキストの章・節を読んでおいてください（15分程）。 復習：各回の授業で配布した資料を読み返してください（15分程）。							
オフィスアワー	火・木曜日（12：10-13：00）。ただし、会議等により対応ができない場合があります。							
その他留意点等	授業の進捗状況により、授業内容が一部変更される場合があります。							

授業科目	介護過程Ⅲ	授業 題目	個性を踏まえた 介護過程の展開	[1] 単位	後期 火2	コード 861	担当	永野 淳子
授業目的	個別性を踏まえた介護過程の展開を行うために、介護を必要とする人の生活支援における介護過程の位置づけについて理解できるようになる。							
到達 目標	1. 情報を分析した結果から生活課題の根拠を具体的に説明することができる。 2. 要介護者の在宅生活を支援するうえでの留意点について指摘することができる。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：ケアマネジメントと訪問介護								講義
2回：地域で生活する要介護者1（地域の社会資源と訪問介護）								演習
3回：地域で生活する要介護者2（自立支援と訪問介護、介護予防訪問介護）								演習
4回：生活支援と介護計画1（介護サービスの区分）								演習
5回：生活支援と介護計画2（介護予防、認知症高齢者への支援）								演習
6回：生活支援と介護計画3（共に行う家事、代行的生活援助）								演習
7回：訪問介護計画の実施1（利用者との関わり方）								演習
8回：訪問介護計画の実施2（権利擁護1、成年後見制度他）								演習
9回：訪問介護計画の実施3（権利擁護2、消費者問題他）								演習
10回：評価1（ケアマネジメントとの連動）								講義・演習
11回：評価2（多職種連携）								演習
12回：訪問介護計画の作成1（事例）								演習
13回：訪問介護計画の作成2（事例）								演習
14回：訪問介護計画の作成3（事例）								演習
15回：在宅生活支援のための介護計画とは何か								演習
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「介護過程」中央法規（介護過程Ⅰ～Ⅲ共通） 「アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック」(株)みらい 参考文献：「ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版」中央法規出版					定期試験[70%]，課題提出[30%]			
授業時間外学修	予習：授業のテーマに沿ったテキストの章・節を読んでおいてください（15分程）。 復習：各回の授業で配布した資料を読み返してください（15分程）。							
オフィスアワー	火・木曜日（12：10～13：00）。ただし、会議等により対応ができない場合があります。							
その他留意点等	授業の進捗状況により、授業内容が一部変更される場合があります。							

授業科目	介護総合演習Ⅲ	授業題目	効果的な実習ができるように、実習前の準備、実習中の全体指導、実習後の成果のまとめを通して学びを共有し次の実習に活かす。	[1] 単位	前期 火3	コード 867	担当	関口 昌利 青木 敬子
授業目的	介護総合演習Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術・態度を実習を通して実践的に体得できるようにする。対人援助の専門職としての資質・技能を身につける。自己の課題を明確にし、総合的な対応能力を習得する。							
到達目標	実習施設の概要を理解する。コミュニケーション技術を活用できる。介護業務を実践できるように生活支援技術を確認する。他職種連携の方法を学ぶために他職種の業務・役割を理解する。介護過程に取り組みやすいように一連の流れを理解しておく。							学位授与方針との関連 2・3
授業内容・計画								授業方法
1回	第2段階実習の準備1	事前書類（個人票・個別目標）・実習配置						講義
2回	第2段階実習の準備2	実習施設の概要①特別養護老人ホーム						講義
3回	第2段階実習の準備3	実習施設の概要②介護老人保健施設						演習
4回	第2段階実習の準備4	送付書類のまとめ・事前リエンションについて						講義
5回	介護現場に応じた生活支援技術の確認							演習
6回	実習記録について							講義・演習
7回	実習直前授業 担当教員との事前打ち合わせ							講義・演習
8回	実習終了後のまとめ							講義
9回	実習報告会							演習
10回	第3段階実習の準備1	第3段階実習の意義と目的						講義
11回	第3段階実習の準備2	実習施設の概要						講義
12回	第3段階実習の準備3	事例研究について						講義
13回	介護現場に応じた生活支援技術の確認							演習
14回	実習記録・送付書類のまとめ・事前リエンションについて							講義・演習
15回	実習直前授業 担当教員との事前打ち合わせ							講義・演習
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
テキスト：「介護総合演習」メヂカルフレンド社（介護総合演習Ⅰ～Ⅳ 共通） 参考文献：随時紹介する						定期試験[50%] 課題提出[50%]		
授業時間外学修	予習と復習のために教員が指示したことを行う。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	介護総合演習Ⅳ	授業題目	効果的な実習ができるように、実習前の準備、実習中の全体指導、実習後の成果のまとめを通して学びを共有し次の実習に活かす。	[1] 単位	後期 火3	コード 869	担当	関口 昌利 青木 敬子
授業目的	介護福祉士としての自覚をもち、対人援助専門職としての資質・技能を身につける。自己の課題を明確にし、総合的な対応能力を習得する。多様な生活ニーズをもった利用者に対し、多様なサービス提供現場で介護実践できるように学ぶ。							
到達目標	第3段階実習で取り組んだ個別の介護過程の展開を事例として取り上げ、分析して考察を加える。学生自らが体験した介護実践を振り返り、介護の在り方、介護技術の工夫について調べ、まとめる。まとめた研究成果を完成後発表し、自己の課題を明確にして今後に関し、よりよい介護を目指す。							学位授与方針との関連 2・3
授業内容・計画								授業方法
1回	第3段階実習終了後のまとめ							講義・演習
2回	第3段階実習のまとめ・書類送付の準備							講義・演習
3回	実習報告会							演習
4回	事例研究について（図書館ガイダンス）							講義・演習
5回	1年との合同授業（グループ演習・質疑応答）							演習
6回	事例研究作成1	文献検索①						講義・演習
7回	事例研究作成2	文献検索②						講義・演習
8回	事例研究作成3	原稿指導①						演習
9回	事例研究作成4	原稿指導②						演習
10回	事例研究作成5 原稿完成・提出							演習
11回	事例研究発表原稿作成1							講義・演習
12回	事例研究発表原稿作成2							講義・演習
13回	事例研究発表							演習
14回	事例研究発表							演習
15回	事例研究まとめ 最終原稿の再校正							講義・演習
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
テキスト：「介護総合演習」メヂカルフレンド社（介護総合演習Ⅰ～Ⅳ 共通） 参考文献：随時紹介する						定期試験[50%] 課題提出[50%]		
授業時間外学修	予習と復習のために教員が指示したことを行う。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等								

授業科目	介護実習Ⅱ	授業題目	第2段階実習	[3] 単位	前期集中	コード 873	担当	関口 昌利 宮入ひさ枝 菊池小百合 永野 淳子 倉田 郁也 青木 敬子
授業目的	施設のサービス全般について理解すると同時に、個別の介護過程（計画の立案まで）、記録の方法について学ぶ。また、多職種の役割を知り、チームの一員としての介護福祉士の業務を理解する。							
到達目標	利用者・家族とのコミュニケーションを通して、人間関係の構築を図り、利用者個々の情報収集を基にその課題を明確にし、介護過程の展開（介護計画の作成）を行い、他科目で学習した知識と技術を統合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を習得する。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								
■第2段階実習 特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設 21日間 (目標) ①利用者の個別のニーズや障害のレベルに応じた援助の方法を学ぶ。 ②利用者のQOLを高める関わり方を理解する。 ③医務・看護業務等の概要を理解し、他職種間の連携の方法を学ぶ。 ④介護過程に取り組み、個別の介護計画を立案する。 ⑤施設の役割として行われている居宅介護サービス事業を学ぶ。 ⑥介護全般について理解し、チームの一員としての日常生活援助を可能な範囲で体験して学ぶ。						実習施設： 特別養護老人ホーム 介護老人保健施設		
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：佐久大学信州短期大学部実習指導要綱（介護実習Ⅰ～Ⅳ 共通） 参考文献：随時紹介					実習施設による評価[60%]， 実習担当教員による評価[40%]			
授業時間外学修	予習：実習施設の概要とサービス内容等をホームページで調べておく。 復習：実習記録や指導者の助言から自己を振り返り、日々の実習目標を立てる。							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等	実習開始前に、巡回指導教員からオリエンテーションを受ける。							

参考（2018年度シラバス） ※2020年1月実施の「訪問介護実習」はp55参照

授業科目	介護実習Ⅲ	授業題目	居宅実習	[1] 単位	2年次前期集中 ※実習は1年後期実施済	コード 875	担当	関口 昌利 他
授業目的	自宅で生活する高齢者とその家族との関わりを通してコミュニケーションの方法を学ぶと共に、生活実態を把握し、専門的知識や技術を用いて、そのニーズに対応した介護サービスを提供する方法や実際を学ぶ。							
到達目標	居宅訪問を通して利用者の暮らしや住まい等の日常生活の理解や多様な介護サービスについて学び説明できる。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								
■ 訪問介護実習【介護実習Ⅰ-(1)】 (24h) (目標) ①在宅利用者の居宅サービスについて学ぶ。 ②在宅介護について、その必要性がますます高まっていることを認識し、訪問介護の意味や方法を学ぶ。 ③利用者・家族との関わりを通じてコミュニケーションについて学ぶ。 ※実習内容の詳細は「実習要綱」等参照のこと						訪問介護実習等 実習施設・事業所 Ⅰ-(1) 訪問介護 通所介護 デイケア ケアハウス 等		
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：佐久大学信州短期大学部実習指導要綱（介護実習Ⅰ～Ⅳ 共通） 参考文献：随時紹介					課題提出[20%]，平常点[20%]， 現場指導者と教員の合意[60%]			
授業時間外学修	誤字脱字がないよう辞書を活用すること。訪問時のマナーを身につけておくこと。							
オフィスアワー	平日10:00～18:00。ただし、授業時間中は除く。予約不要（必要時予約も可）							
その他留意点等	体調管理を行い、欠席をしないよう心がけてください。欠席届を必ず提出のこと。							

授業科目	介護実習Ⅳ	授業題目	第3段階実習	[4] 単位	後期 集中	コード 877	担当	関口 昌枝 宮入 ひさ子 菊池 小百合 永野 淳也 倉田 郁也 青木 敬子
授業目的	施設運営のプログラムとサービス全般について理解すると同時に、個別の介護過程の展開、記録の方法について学ぶ。また、他職種の役割と他職種との連携について理解し、チームの一員として業務を遂行する能力を養う。							
到達目標	利用者・家族とのコミュニケーションを通して、人間関係の構築を図り、利用者個々の情報収集を基にその課題を明確にする。介護過程に取り組み、介護計画の立案、実施、評価、修正を行う。学内で習得した知識と技術を統合して、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を習得する。介護に関する研究的態度を養う。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								
<p>■第3段階実習 特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設 23日間 (原則として第2段階実習の実習先と入れ替える)</p> <p>(目標)</p> <p>①利用者の個別理解を深め、個別の介護計画を立案し計画に基づいて実施・評価・修正を行うことができる。</p> <p>②介護全般について理解し、利用者の生活を支えるためのチームケアのあり方について具体的に学ぶ。</p> <p>③施設の目的、役割、構造等を理解し、施設の概要について学ぶ。</p> <p>④介護上の医療的ケアを理解する。</p>						<p>実習施設：</p> <p>特別養護老人ホーム</p> <p>介護老人保健施設</p>		
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
<p>テキスト：佐久大学信州短期大学部実習指導要綱（介護実習Ⅰ～Ⅳ 共通）</p> <p>参考文献：随時紹介</p>						<p>実習施設による評価[60%]， 巡回指導教員の指導評価[40%]</p>		
授業時間外学修	<p>予習：実習施設の概要とサービス内容等をホームページで調べておく。</p> <p>復習：実習記録や指導者の助言から自己を振り返り、日々の実習目標を立てる。</p>							
オフィスアワー	研究室ドアに「オフィスアワー」の表示をしているとき。							
その他留意点等	実習開始前に、巡回指導教員からオリエンテーションを受ける。報告・連絡・相談を十分に行う。							

授業科目	障害の理解Ⅱ	授業題目	様々な障害について理解し 介護対応を学ぶ	[2] 単位	前期 水1	コード 886	担当	依田 英樹 他
授業目的	障害の基礎的知識を習得し、心理・家族を含めた部分の理解を深める。またリハビリテーション・介護の視点から対応方法を実際に考えることを目的とする。							
到達目標	様々な障害における基礎的知識・リハビリテーション内容について学び、介護現場での実践に繋げる。症例を通じ介護福祉士としての対応や介入方法の実際についても議論し共に理解を深める。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：リハビリテーション概論								いずれも 講義・演習
2回：肢体不自由(運動機能障害)のある人の理解	肢体不自由の種類・原因・特性(肢体不自由の医学的理解、障害に伴う機能の変化と日常生活への影響、能力を引き出すリハビリテーションと介護)							
3回：視覚障害のある人の理解	視覚障害の種類・原因・特性(視覚障害の医学的理解、障害に伴う機能の変化と日常生活への影響、能力を引き出すリハビリテーションと介護)							
4回：聴覚障害のある人の理解	聴覚障害の種類・原因・特性(聴覚障害の医学的理解、障害に伴う機能の変化と日常生活への影響、能力を引き出すリハビリテーションと介護)							
5回：言語機能障害のある人の理解	言語機能障害の種類・原因・特性(言語機能障害の医学的理解、障害に伴う機能の変化と日常生活への影響、能力を引き出すリハビリテーションと介護)							
6回：内部障害のある人の理解	内部障害の種類・原因・特性(内部障害の医学的理解、障害に伴う機能の変化と日常生活への影響、能力を引き出すリハビリテーションと介護)							
7回：難病のある人の理解	難病の種類・原因・特性(難病の医学的理解、障害に伴う機能の変化と日常生活への影響、能力を引き出すリハビリテーションと介護)							
8回：知的障害のある人の理解	知的障害の種類・原因・特性(知的障害の医学的理解、障害に伴う機能の変化と日常生活への影響、能力を引き出すリハビリテーションと介護)							
9回：発達障害のある人の理解	発達障害の種類・原因・特性(発達障害の医学的理解、障害に伴う機能の変化と日常生活への影響、能力を引き出すリハビリテーションと介護)							
10回：高次脳機能障害のある人の理解	高次脳機能障害の種類・原因・特性(高次脳機能障害の医学的理解、障害に伴う機能の変化と日常生活への影響、能力を引き出すリハビリテーションと介護)							
11回：精神障害のある人の理解	精神障害の種類・原因・特性(精神障害の医学的理解、障害に伴う機能の変化と日常生活への影響、能力を引き出すリハビリテーションと介護)							
12回：重複障害のある人の理解	重複障害の種類・原因・特性(重複障害の医学的理解、障害に伴う機能の変化と日常生活への影響、能力を引き出すリハビリテーションと介護)							
13回：障害者の援助法(介助、接し方、心構え等)、補助具、福祉機器								
14回：リハビリテーションの展開	相談・評価、リハビリテーションの計画、ADL評価、職業評価、社会参加							
15回：まとめ								
テキストおよび参考文献						成績評価の方法		
テキスト：「障害の理解」メヂカルフレンド社 (障害の理解Ⅰ・Ⅱ 共通) 「別巻2 リハビリテーション論」メヂカルフレンド社						定期試験[70%], 平常点[30%]		
授業時間外学修	テキスト・講義資料を復習。学生間でも障害への対応を議論してみましよう。							
オフィスアワー	授業日の授業前後15分							
その他留意点等								

授業科目	医療的ケアⅡ	授業 題目	喀痰吸引が必要な利用者の状況に適切に対応し、安全で安楽に実施できる知識・技術を修得する。	[2] 単位	前期 金2 金3	コード 893	担当	宮入ひさ枝 菊池小百合
授業 目的	「医療的ケア」は、医療業務の一部を生活の援助として介護実践の最も基本的な根拠及び技術を学ぶ。これは医療職を中心とした他職種との協働の基盤となり、また、介護を必要とする人々の安全と安心の基盤となる。この授業では次項の達成課題の掲げた項目に関して、適宜状況に応じた説明が出来ることを目標とする。具体的には、介護サービスを実際に必要とする高齢者や障害児・者及び家族にも安心・安全な知識と技術が提供出来ることを目標とする。							
到達 目標	医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）を提供するに当たり、他職種との連携のもと、介護福祉士としての役割を理解し、その範囲を超えないことを重視し、利用者の生活支援の中で安全にケアが提供できる知識と技術を身につける。また、筆記試験を合格し演習（評価）を正確かつ確実に実施でき合格を得る。実地研修での演習に活かすことができる。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回:	1・高齢者および障害児・者の喀痰吸引① ・呼吸の仕組みとはたらき							講義
2回:	高齢者および障害児・者の喀痰吸引② ・いつもと違う呼吸状態							講義
3回:	高齢者および障害児・者の喀痰吸引③ ・喀痰吸引とは							講義
4回:	高齢者および障害児・者の喀痰吸引④ ・人工呼吸器と吸引							講義
5回:	高齢者および障害児・者の喀痰吸引⑤ ・子どもの吸引について							講義
6回:	高齢者および障害児・者の喀痰吸引⑥ ・吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意							講義
7回:	高齢者および障害児・者の喀痰吸引⑦ ・呼吸器系感染と予防（吸引と関連して）							講義
8回:	高齢者および障害児・者の喀痰吸引⑧ ・喀痰吸引により生じる危険、事故の安全確認							講義
9回:	高齢者および障害児・者の喀痰吸引⑨ ・急変・事故発生時の対応と事前対策							講義
10回:	2. 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施の手順① ・喀痰吸引で用いる器具 ・器材とその仕組み、清潔保持							講義・演習
11回:	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施の手順② ・吸引の技術と留意点							講義・演習
12回:	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施の手順③ ・喀痰吸引に伴うケア ・報告及び記録							講義・演習
13回:	3. 喀痰吸引のケア実施の手引き① ・口腔吸引手順の確認							講義・演習
14回:	喀痰吸引のケア実施の手引き② ・鼻腔内吸引手順の確認							講義・演習
15回:	喀痰吸引のケア実施の手引き③ ・気管カニューレ内部吸引の確認 ・人工呼吸器装着者の吸引（口・鼻・気管）							講義・演習
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「医療的ケア」中央法規（医療的ケアⅠ～Ⅲ・演習 共通） 参考文献：必要に応じて紹介する					定期試験[60%]，小テスト[10%]， 課題提出[10%]，平常点[20%]			
授業時間外学修	テキストを読んで復習しておくこと。小テストを行うので復習しておくこと。自ら演習手段を身につけること。							
オフィスアワー	平日10:00～18:00。ただし、授業時間中を除く。予約不要（必要時予約も可）							
その他留意点等	体調管理を行い、欠席をしないよう心がけてください。欠席届を必ず提出のこと。							

授業科目	医療的ケアⅢ	授業 題目	経管栄養が必要な利用者の状況に適切に対応し、安全で安楽に実施できる知識・技術を修得する。	[2] 単位	前期 金2 金3	コード 895	担当	宮入ひさ枝 菊池小百合
授業 目的	「医療的ケア」は、医療業務の一部を生活の援助として介護実践の最も基本的な根拠及び技術を学ぶ。これは医療職を中心とした他職種との協働の基盤となり、また、介護を必要とする人々の安全と安心の基盤となる。この授業では次項の達成課題の掲げた項目に関して、適宜状況に応じた説明が出来ることを目標とする。具体的には、介護サービスを実際に必要とする高齢者や障害児・者及び家族にも安心・安全な知識と技術が提供出来ることを目標とする。							
到達 目標	医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）を提供するに当たり、他職種との連携のもと、介護福祉士としての役割を理解し、その範囲を超えないことを重視し、利用者の生活支援の中で安全にケアが提供できる知識と技術を身につける。また、筆記試験を合格し演習（評価）を正確かつ確実に実施でき合格を得る。実地研修での演習に活かすことができる。							学位授与方針との関連 2
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
<p>1回： 1. 高齢者及び障害児・者の経管栄養① ・消化器系の仕組みとはたらき</p> <p>2回： 高齢者及び障害児・者の経管栄養② ・消化・吸収とよくある消化器の症状</p> <p>3回： 高齢者及び障害児・者の経管栄養③ ・経管栄養とは ・経管栄養の仕組みと種類</p> <p>4回： 高齢者及び障害児・者の経管栄養④ ・注入する内容に関する知識 ・経管栄養と半固形の栄養剤</p> <p>5回： 高齢者及び障害児・者の経管栄養⑤ ・経管栄養実施上の注意</p> <p>6回： 高齢者及び障害児・者の経管栄養⑥ ・子どもの経管栄養について</p> <p>7回： 高齢者及び障害児・者の経管栄養⑦ ・経管栄養に関する感染と予防</p> <p>8回： 高齢者及び障害児・者の経管栄養⑧ ・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</p> <p>9回： 高齢者及び障害児・者の経管栄養⑨ ・経管栄養により生じる危険 ・注入後の安全確認</p> <p>10回： 高齢者及び障害児・者の経管栄養⑩ ・急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>11回： 2. 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施の手順① ・経管栄養で用いる器具 ・器材とその仕組み、清潔保持 ・経管栄養の技術と留意点</p> <p>12回： 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施の手順② ・経管栄養に必要なケア ・報告及び記録</p> <p>13回： 3. 経管栄養のケア実施の手引き① ・胃ろう又は腸ろうによる経管栄養</p> <p>14回： 経管栄養のケア実施の手引き② ・経鼻経管栄養</p> <p>15回： 経管栄養のケア実施の手引き③ ・半固形栄養</p>								
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「医療的ケア」中央法規（医療的ケアⅠ～Ⅲ・演習 共通） 参考文献：必要に応じて紹介する					定期試験[60%]，小テスト[10%]， 課題提出[10%]，平常点[20%]			
授業時間外学修	テキストを読んで復習しておくこと。小テストを行うのでしっかりと理解し復習しておくこと。自ら演習技術を身につけること。							
オフィスアワー	平日10:00～18:00。ただし、授業時間中を除く。予約不要（必要時予約も可）							
その他留意点等	体調管理を行い、欠席をしないよう心がけてください。欠席届を必ず提出のこと。							

授業科目	医療的ケア演習	授業 題目	医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)を安全。 安楽に提供できる知識・技術を修得し、 演習評価に対応できる。	[1] 単位	後期 集中	コード 897	担当	宮入ひさ枝 菊池小百合 他
授業 目的	「医療的ケア」は、医療業務の一部を生活の援助として介護実践の最も基本的な根拠及び技術を学ぶ。これは医療職を中心とした他職種との協働の基盤となり、また、介護を必要とする人々の安全と安心の基盤となる。この授業では次項の達成課題の掲げた項目に関して、適宜状況に応じた説明が出来ることを目標とする。具体的には、介護サービスを実際に必要とする高齢者や障害児・者及び家族にも安心・安全な知識と技術が提供出来ることを目標とする。							
到達 目標	医療的ケア（喀痰吸引・経管栄養）を提供するに当たり、他職種との連携のもと、介護福祉士としての役割を理解し、その範囲を超えないことを重視し、利用者の生活支援の中で安全にケアが提供できる知識と技術を身につける。また、筆記試験を合格し演習（評価）を正確かつ確実に実施でき合格を得る。実地研修での演習に活かすことができる。							学位授与方針との関連 2・3
授 業 内 容 ・ 計 画								授業方法
1回：安全な療養生活	救急蘇生法①							
2回：安全な療養生活	救急蘇生法②							
3回：1. 喀痰吸引演習	評価①							
4回： 喀痰吸引演習	評価②							
5回： 喀痰吸引演習	評価③							
6回： 喀痰吸引演習	評価④							
7回： 喀痰吸引演習	評価⑤							
8回： 喀痰吸引演習	評価⑥							
9回：2. 経管栄養演習	評価①							
10回： 経管栄養演習	評価②							
11回： 経管栄養演習	評価③							
12回： 経管栄養演習	評価④							
13回： 経管栄養演習	評価⑤							
14回： 経管栄養演習	評価⑥							
15回：3. 補講								
テキストおよび参考文献					成績評価の方法			
テキスト：「医療的ケア」中央法規（医療的ケアⅠ～Ⅲ・演習 共通） 参考文献：必要に応じて紹介する					定期試験[60%]，平常点[40%]			
授業時間外学修	最終筆記試験に合格できるよう、自己学習をしっかりと行うこと。 余暇時間を利用して、医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)の手技を復習すること。							
オフィスアワー	平日10:00～18:00。ただし、授業時間中を除く。予約不要（必要時予約も可）							
その他留意点等	体調管理を行い、欠席をしないよう心がけてください。欠席届を必ず提出のこと。							

	ページ		ページ		
あ	アクティビティ・ケア	64	せ	生活支援技術Ⅰ	49
	アジア福祉事情	74		生活支援技術Ⅱ	50
い	医療的ケアⅠ	57		生活支援技術Ⅲ	51
	医療的ケアⅡ	86		生活支援技術Ⅳ	52
	医療的ケアⅢ	87		生活支援技術基礎編Ⅲ	78
	医療的ケア演習	88		生活支援技術基礎編Ⅳ	78
				生活支援技術障害編Ⅲ	79
				生活文化	75
え	英語Ⅰ	27	ち	地域と文化	31
	英語Ⅱ	27		中国語Ⅰ	28
	英語Ⅲ	60		中国語Ⅱ	28
	英語Ⅳ	60		中国語Ⅲ	61
か	介護過程Ⅰ	53		中国語Ⅳ	61
	介護過程Ⅱ	80	に	日本語表現法	65
	介護過程Ⅲ	81		人間の理解Ⅰ	32
	介護実習Ⅰ	55		人間の理解Ⅱ	33
	介護実習Ⅱ	83		認知症の理解と介護Ⅰ	44
	介護実習Ⅲ	55		認知症の理解と介護Ⅱ	45
	介護実習Ⅳ	84	は	発達と老化の理解Ⅰ	42
	介護総合演習Ⅰ	54		発達と老化の理解Ⅱ	43
	介護総合演習Ⅱ	54	ひ	ビジネスインターンシップⅠ	48
	介護総合演習Ⅲ	82		ビジネスインターンシップⅡ	74
	介護総合演習Ⅳ	82		ビジネスマナー	63
	介護の基本Ⅰ	37		秘書概論	67
	介護の基本Ⅱ	39		秘書実務	68
	介護の基本Ⅲ	70	ふ	福祉経営学	48
	介護の基本Ⅳ	71		福祉工学基礎	30
	介護保険事務士	66		福祉情報技術	66
き	キャリアプランニング	62		福祉と会計	75
け	健康と生涯スポーツ	64		福祉ビジネス概論	73
こ	国際福祉比較論	76		福祉ボランティア	74
	こころとからだのしくみⅠ	46	ほ	簿記会計	67
	こころとからだのしくみⅡ	47	め	メディカル秘書概論	68
	コミュニケーション技術Ⅰ	41		メディカル秘書実務Ⅰ	69
	コミュニケーション技術Ⅱ	72		メディカル秘書実務Ⅱ	69
	コンピュータの応用技術	62			
	コンピュータの基礎技術Ⅰ	29			
	コンピュータの基礎技術Ⅱ	29			
し	社会学	77			
	社会の理解Ⅰ	34			
	社会の理解Ⅱ	35			
	社会保障論	77			
	修学基礎Ⅰ	26			
	修学基礎Ⅱ	26			
	障害の理解Ⅰ	56			
	障害の理解Ⅱ	85			
	心理学	65			